

第2章 調査結果

◇調査結果 1

1 子どもの実態

- 大人には「子どもの印象」や「影響を与えている存在」について、子どもには、「自身の状況」や「校外での生活」などについて聞くことで、子どもの実態を把握することにした。
- 調査の結果、大人は子どもを「明るく元気」で、「やさしさや思いやりがある」と感じている。次いで、教職員は「自分らしさをもっている」、保護者が「社会のルールやマナーを守っている」、学校評議員は「体力の低下が目立つ」と感じている。
一方、子どもは、小中高生共に、「仲の良い友だちがいる」と回答した割合が最も高くなっている。次に回答した割合が高いものは、小学生は「家族のことを理解している」、中学生は「社会の役に立ちたい」、高校生が「社会のルールやマナーを守っている」となっている。
特別支援学校児童・生徒は、「学校が好き」、「決まった時間に食事をする」、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」と回答した割合が高くなっている。回答の割合が最も高い項目を前回調査と比較すると、平成17年度調査結果では「仲の良い友だちがいる」となっている。
- 保護者は、子どもに影響を与えているのは、「親」であると思っている。次いで、小中高の保護者は「友人」、特別支援学校の保護者は「学校の教員」、3番目に小学校と特別支援学校の保護者は「兄弟姉妹」、中学校と高等学校の保護者は「携帯電話やスマートフォン」となっている。
- 一方、子どもは、小学生は「家族」、「友人」、「ゲーム」の順に、中高生は共に「友人や先輩」、「家族」、「携帯電話やスマートフォン」の順に、自分とかかわりが深いと思っている。特別支援学校児童・生徒は「家族」、「テレビ」、「本」と思っている。
悩みについては、「将来のこと」をあげ、悩んだときの相談相手として、小学生は「親」、「同級の友だち」、中高生は「同級の友だち」、「親」を順にあげている。特別支援学校児童・生徒は「家族」、「学校の先生」を順にあげている。
- 夢中になれたり、充実感を感じたりするのは、「趣味など自分の好きなことをしているとき」、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」であると感じている。
- ルール・マナーについて、小中高生共に「約束を守らない」、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」のはよくないと意識している。この他に、小学生は「インターネットやメールで人の悪口を書く」、中高生は「万引きをする」のはよくないと回答する割合が高くなっている。特別支援学校児童・生徒は「約束を守らない」、「人のものを勝手に使う」、「インターネットやメールで人の悪口を書く」、「遊ぶために夜遅く外出する」のはよくないと意識している。
- 学校外の生活では、小中高生共に「趣味や自分の好きなことをする」割合が最も高くなっている。
次いで、小学生は「スポーツや遊びでからだを動かす」、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」、中学生は「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」、「外出して友だちと過ごす」、高校生は「外出して友だちと過ごす」、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」割合が高くなっている。特別支援学校児童・生徒は「テレビを見る」割合が最も高く、次いで「家族といっしょに過ごす」、「ゲームをする」割合が高くなっている。
回答の割合が最も高かった項目を平成17年度調査結果と比較すると、小学生は「塾や習い事に通う」で、中学生は「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」となっている。

I-1 教育現場での児童・生徒の課題、最近の子どもの印象、自分自身について

『教育現場での児童・生徒の課題』を教職員に聞いたところ、「明るく元気である」、「やさしさや思いやりがある」、「自分らしさをもっている」との回答の割合が高かった。

『最近の子どもの印象』について聞いたところ、保護者では「明るく元気である」、「やさしさや思いやりがある」、「社会のルールやマナーを守っている」、学校評議員では「明るく元気である」、「やさしさや思いやりがある」、「体力の低下が目立つ」、一般県民では「明るく元気である」、「やさしさや思いやりがある」、「個性豊かである」と回答する割合が高かった。

児童・生徒に『自分自身について』聞いたところ、小学生では「仲の良い友だちがいる」、「家族のことを理解している」、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」、中学生では「仲の良い友だちがいる」、「社会の役に立ちたい」、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」、高校生では「仲の良い友だちがいる」、「社会のルールやマナーを守っている」、「自分らしさをもっている」、特別支援学校児童・生徒では、「学校が好き」、「決まった時間に食事をする」、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」と回答する割合が高かった。

最も高い割合の回答について平成17年度調査結果と比較したところ、教職員、保護者、学校評議員、一般県民のいずれも、平成25年度と平成17年度調査ともに「明るく元気である」が最も多く、教職員の平成25年度調査結果は89.2%で平成17年度調査結果は88.8%、保護者の平成25年度調査結果は77.5%で平成17年度調査結果は72.8%、学校評議員の平成25年度調査結果は74.0%で平成17年度調査結果は68.4%、一般県民の平成25年度調査結果は48.6%で平成17年度調査結果は32.7%であった。

児童・生徒では、小中高生いずれも、平成25年度と平成17年度調査とともに「仲の良い友だちがいる」が最も多く、小学生の平成25年度調査は92.8%、平成17年度調査は94.0%、中学生の平成25年度調査は87.8%、平成17年度調査は87.5%、高校生の平成25年度調査は84.7%、平成17年度調査は86.5%であった。特別支援学校児童・生徒の平成25年度調査では「学校が好き」(79.0%)、平成17年度調査では「仲の良い友だちがいる」(80.0%)であった。

【教職員・保護者・学校評議員】

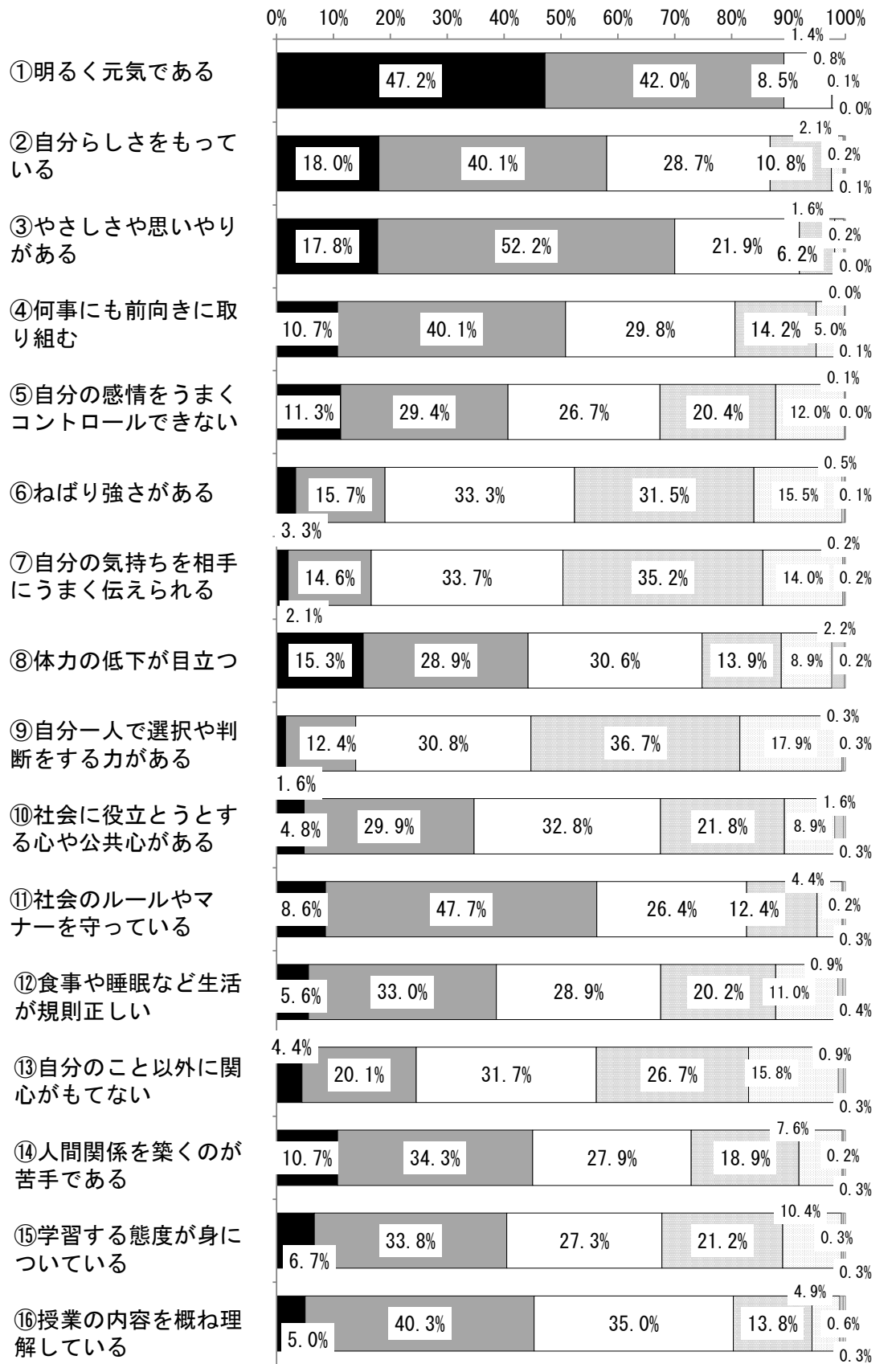
『教育現場での児童・生徒の課題』を教職員に聞いたところ、「そう思う」と「どちらか」というと「そう思う」の合計では、「明るく元気である」(89.2%)、「やさしさや思いやりがある」(70.0%)、「自分らしさをもっている」(58.1%)との回答の割合が高かった。

『最近の子どもの印象』について保護者・学校評議員に聞いたところ、「そう思う」と「どちらか」というと「そう思う」との回答の合計の上位3位は、保護者では、「明るく元気である」(77.5%)、「やさしさや思いやりがある」(71.8%)、「社会のルールやマナーを守っている」(67.6%)であり、学校評議員では、「明るく元気である」(74.0%)、「やさしさや思いやりがある」(61.6%)、「体力の低下が目立つ」(50.6%)であった。(表I-1、図I-1~3参照)

表 I-1 教育現場での児童・生徒の課題、最近の子どもの印象 「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計(教職員、保護者、学校評議員)

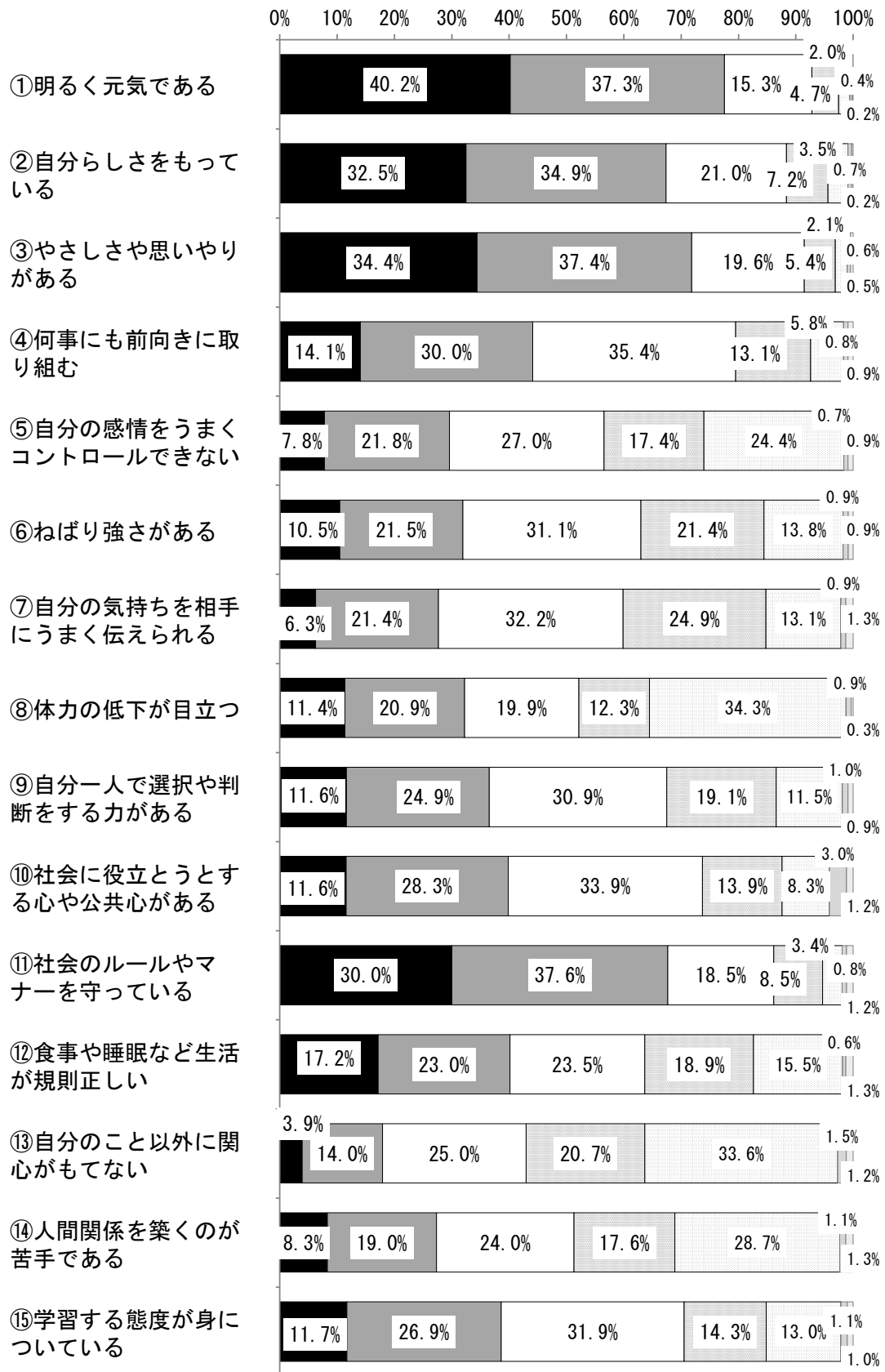
	教職員	保護者	学校評議員
①明るく元気である	89.2%	77.5%	74.0%
②自分らしさをもっている	58.1%	67.4%	45.7%
③やさしさや思いやりがある	70.0%	71.8%	61.6%
④何事にも前向きに取り組む	50.8%	44.1%	34.7%
⑤自分の感情をうまくコントロールできない	40.7%	29.6%	44.2%
⑥ねばり強さがある	19.0%	32.0%	15.9%
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	16.7%	27.7%	20.2%
⑧体力の低下が目立つ	44.2%	32.3%	50.6%
⑨自分一人で選択や判断をする力がある	14.0%	36.5%	18.2%
⑩社会に役立とうとする心や公共心がある	34.7%	39.9%	37.8%
⑪社会のルールやマナーを守っている	56.3%	67.6%	50.2%
⑫食事や睡眠など生活が規則正しい	38.6%	40.2%	16.8%
⑬自分のこと以外に関心をもてない	24.5%	17.9%	30.7%
⑭人間関係を築くのが苦手である	45.0%	27.3%	48.4%
⑮学習する態度が身についている	40.5%	38.6%	39.2%
⑯授業の内容を概ね理解している	45.3%	-	-

図 I-1 教育現場での児童・生徒の課題(教職員 n=2,046)



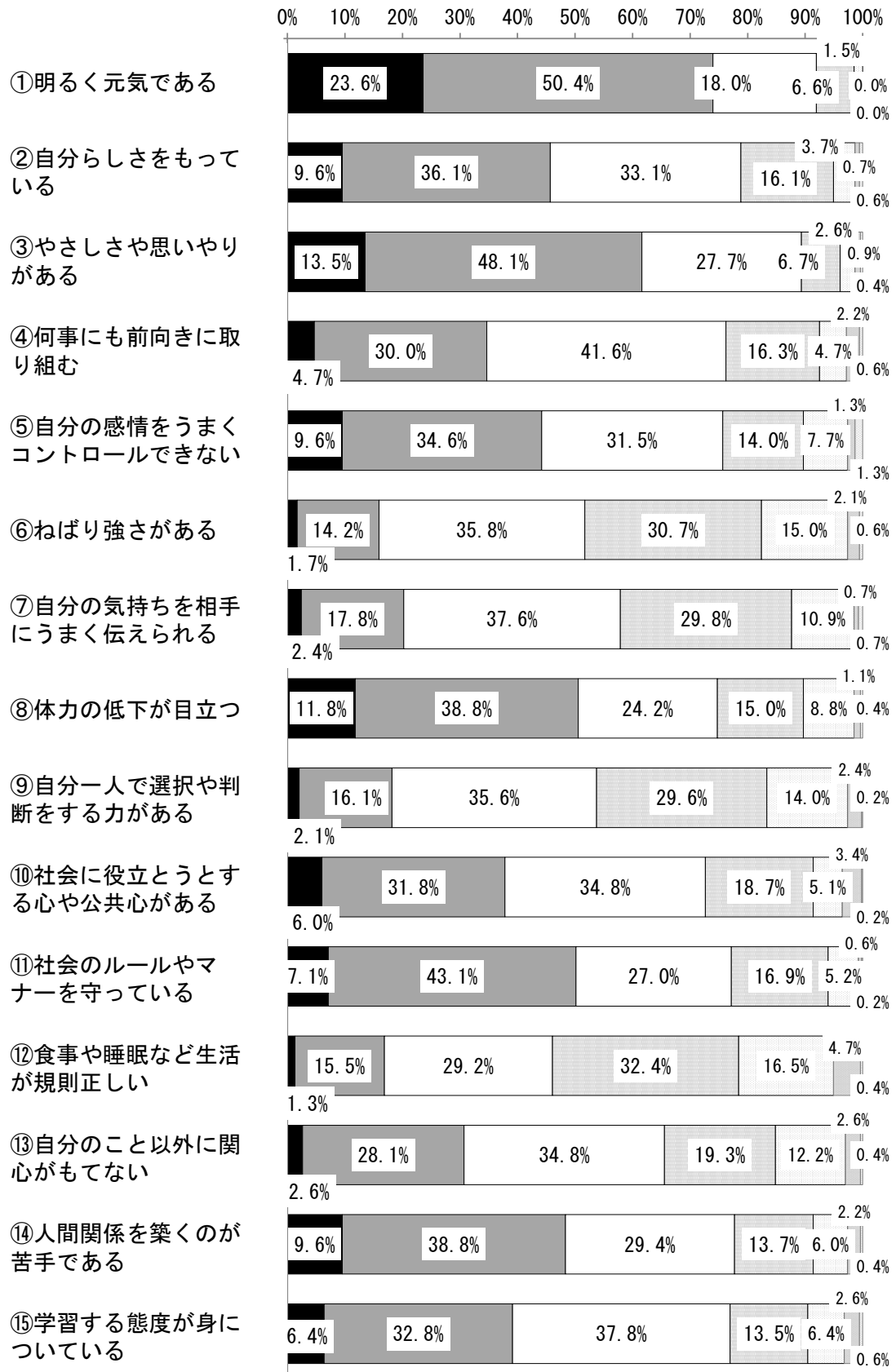
そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

図 I-2 最近の子どもの印象(保護者 n=3, 632)



そう思う
 どちらかというと思う
 どちらともいえない
 どちらかというと思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

図 I-3 最近の子どもの印象(学校評議員 n=534)



そう思う

 どちらかというと思う

 どちらともいえない

 どちらかというと思わない

 そう思わない

 わからない

 無回答

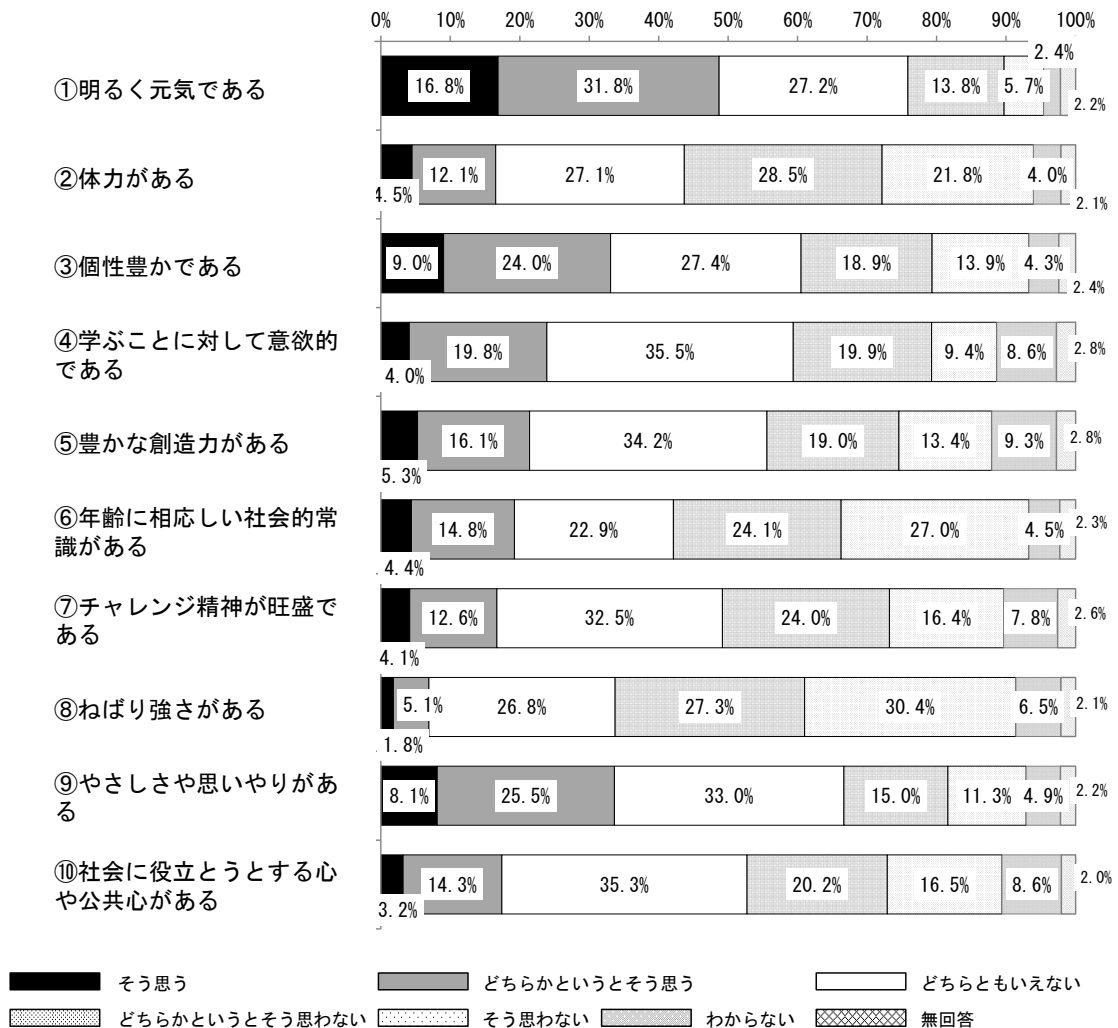
【一般県民】

『最近の子どもの印象』について一般県民に聞いたところ、「そう思う」と「どちらかというと思う」と回答した割合の合計として高かったのは、「明るく元気である」(48.6%)、「やさしさや思いやりがある」(33.6%)、「個性豊かである」(33.0%)であった。(表 I-2、図 I-4 参照)

表 I-2 最近の子どもの印象(「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計)

①明るく元気である	48.6%
②体力がある	16.6%
③個性豊かである	33.0%
④学ぶことに対して意欲的である	23.8%
⑤豊かな創造力がある	21.4%
⑥年齢に相応しい社会的常識がある	19.2%
⑦チャレンジ精神が旺盛である	16.7%
⑧ねばり強さがある	6.9%
⑨やさしさや思いやりがある	33.6%
⑩社会に役立とうとする心や公共心がある	17.5%

図 I-4 最近の子どもの印象(一般県民 n=1,233)



【児童・生徒】

児童・生徒に『自分自身について』聞いたところ、小学生では、「仲の良い友だちがいる」(92.8%)、「家族のことを理解している」(77.2%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(72.3%)を「そう思う」と回答する割合が高く、中学生では、「仲の良い友だちがいる」(87.8%)、「社会の役に立ちたい」(65.4%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(63.9%)、高校生では、「仲の良い友だちがいる」(84.7%)、「社会のルールやマナーを守っている」(67.8%)、「自分らしさをもっている」(59.9%)を「そう思う」と回答する割合が高かった。特別支援学校児童・生徒では、「学校が好き」(79.0%)、「決まった時間に食事をする」(79.0%)、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」(75.0%)に対して「はい」と回答する割合が高かった。(表 I-3, 4、図 I-5～9 参照)

表 I-3 自分自身について(「そう思う」の比較)

	小学生	中学生	高校生
①明るく元気だ	70.4%	55.6%	51.7%
②自分らしさをもっている	65.7%	58.8%	59.9%
③やさしさや思いやりがある	47.1%	42.3%	49.1%
④何事にも前向きに取り組む	41.8%	37.7%	39.5%
⑤自分の気持ちをコントロールできる	51.0%	52.7%	50.8%
⑥ねばり強く、最後までやりとげる	48.6%	39.2%	41.4%
⑦自分の気持ちを相手にうまく伝えられる	36.0%	30.3%	28.0%
⑧外で運動したり遊んだりするのが好きだ	72.3%	63.9%	58.3%
⑨自分の力でものごとを決められる	41.0%	37.1%	44.2%
⑩社会の役に立ちたい	72.9%	65.4%	59.8%
⑪社会のルールやマナーを守っている	59.6%	62.4%	67.8%
⑫食事や睡眠など生活が規則正しい	49.4%	35.3%	32.8%
⑬仲の良い友だちがいる	92.8%	87.8%	84.7%
⑭誰とでもすぐ仲良くなれる	52.7%	39.9%	34.0%
⑮自分で考え、何かをつくり上げるのが得意だ	45.7%	34.5%	35.2%
⑯家で勉強する習慣がある	52.3%	28.1%	18.6%
⑰授業の内容が理解できる	63.9%	53.9%	42.1%
⑱家族のことを理解している	77.2%	61.2%	58.3%
⑲家族はあなたを理解してくれている	63.2%	48.7%	52.4%

表 I-4 自分自身について 特別支援学校児童・生徒(「はい」の回答)

	はい
①学校が好きですか	79.0%
②いろいろなことを知りたいという気持ちをもっていますか	75.0%
③やり始めたことは最後までがんばりますか	55.6%
④やさしい性格ですか	64.5%
⑤人の役に立ちたいと思いますか	54.8%
⑥自分の気持ちを相手にうまく伝えられますか	23.4%
⑦仲の良い友だちがいますか	65.3%
⑧決まった時間に食事をしますか	79.0%

図 I-5 自分自身について(小中高生合計 n=4, 254)

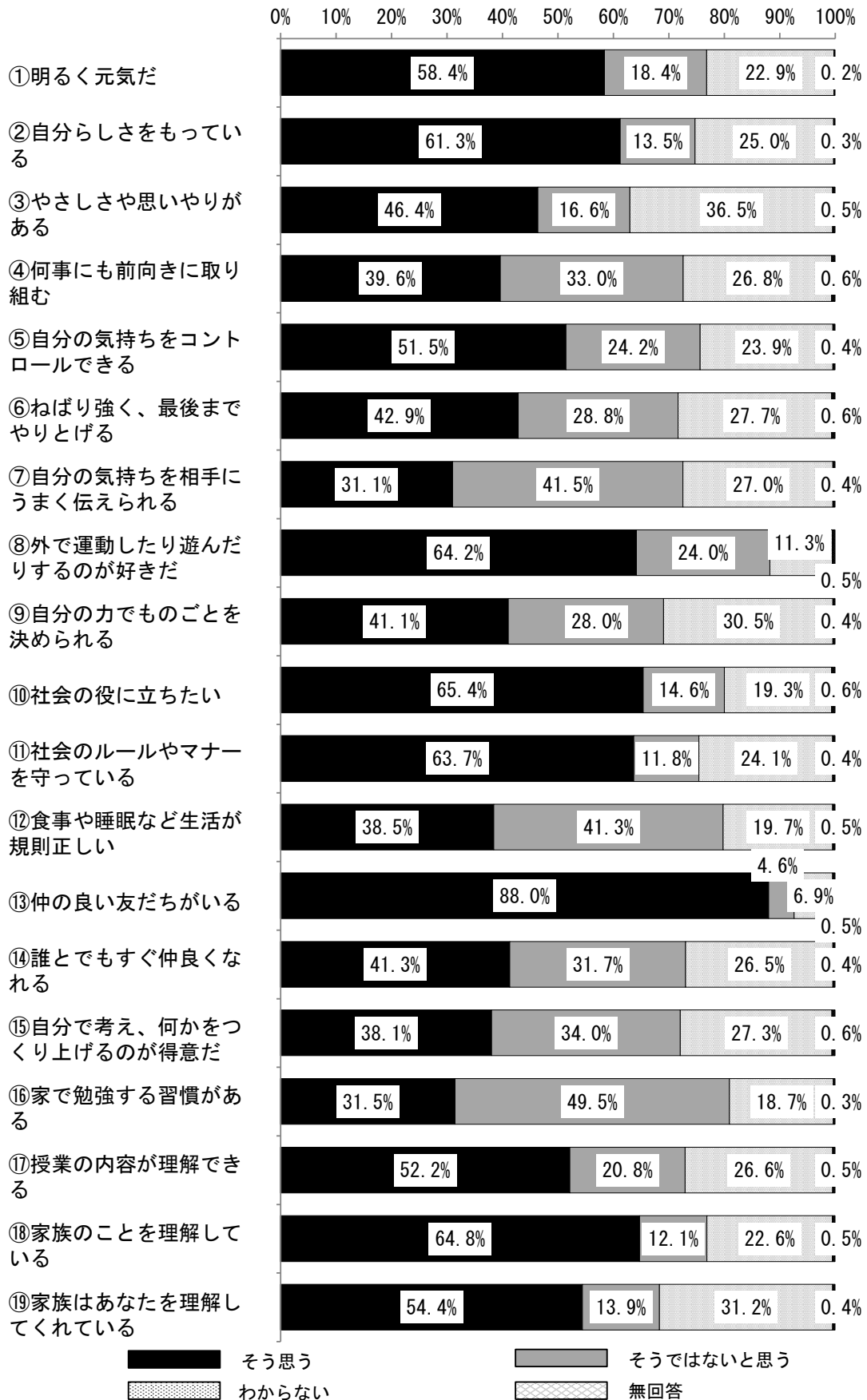


図 I-6 自分自身について(小学生 n=1,254)

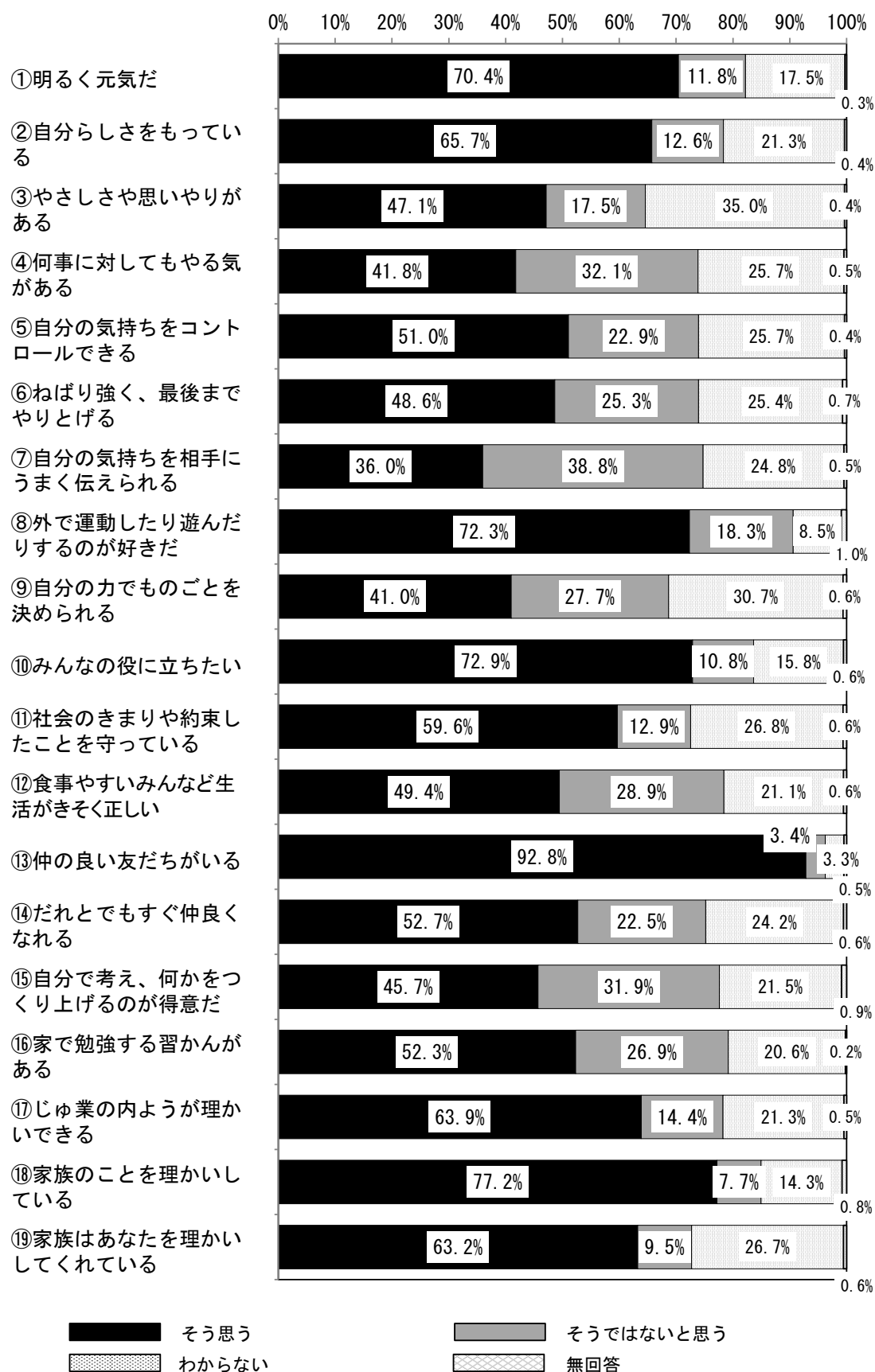


図 I-7 自分自身について(中学生 n=1,316)

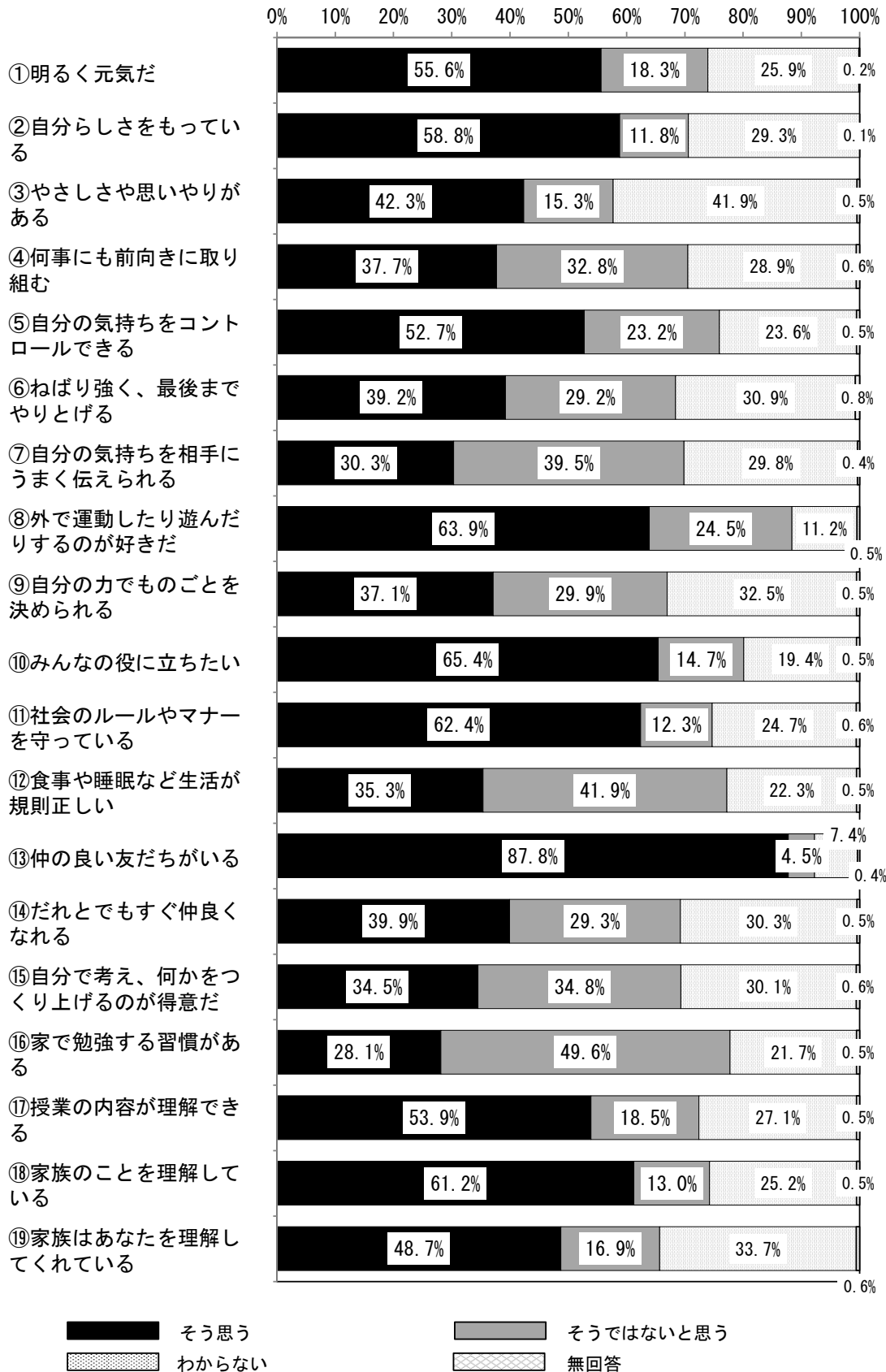


図 I-8 自分自身について(高校生 n=1,684)

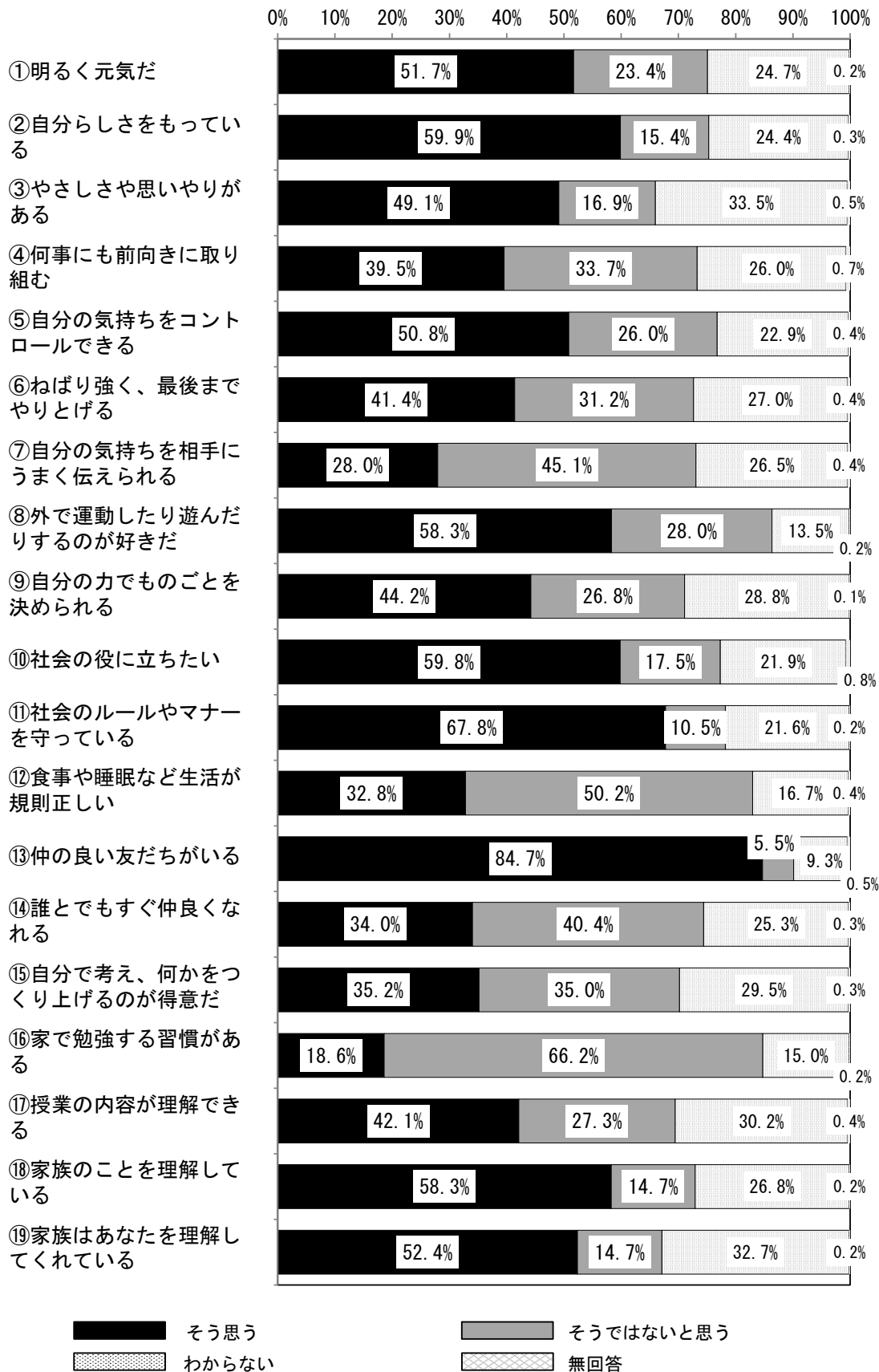
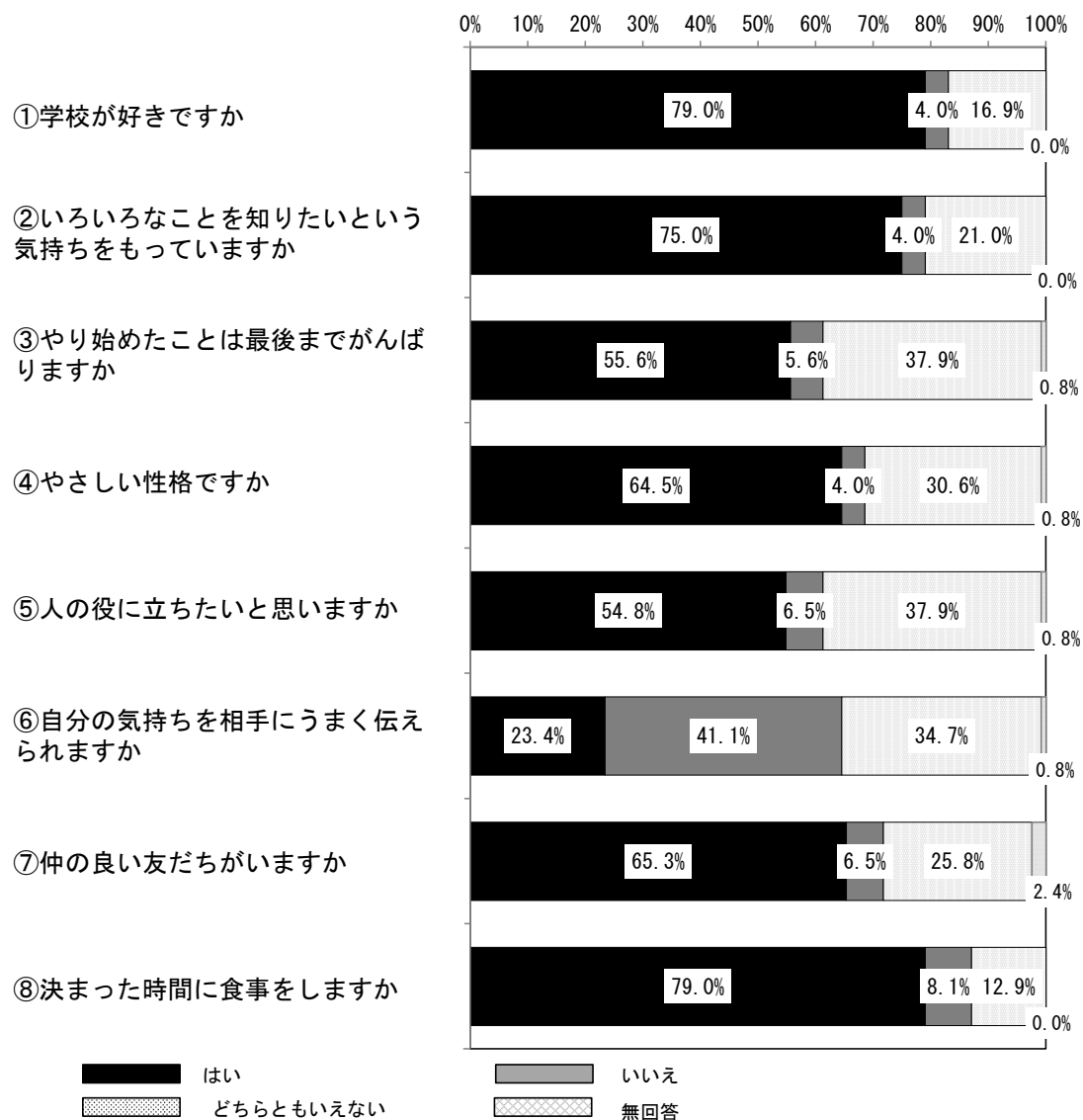


図 I-9 自分自身について(特別支援学校児童・生徒 n=124)



『教育現場での児童・生徒の課題』について、教職員が「そう思う」または「どちらかというところ」と回答した割合の合計として高かったのは、平成 25 年度調査では、「明るく元気である」(89.2%)、「やさしさや思いやりがある」(70.0%)、「自分らしさをもっている」(58.1%)であり、平成 17 年度調査では「明るく元気である」(88.8%)、「やさしさや思いやりがある」(60.5%)、「自分らしさをもっている」(56.1%)であって、上位 3 位に変動はなかった。

『最近の子どもの印象』について、保護者が「そう思う」または「どちらかというところ」と回答した割合の合計として高かったのは、平成 25 年度調査では、「明るく元気である」(77.5%)、「やさしさや思いやりがある」(71.8%)、「社会のルールやマナーを守っている」(67.6%)であり、平成 17 年度調査では「明るく元気である」(72.8%)、「やさしさや思いやりがある」(64.5%)、「自分らしさをもっている」(62.2%)であって、上位 3 位に変動はなかった。一方、学校評議員の平成 25 年度調査回答では、「明るく元気である」(74.0%)、「やさしさや思いやりがある」(61.6%)、「体力の低下が目立つ」(50.6%)の割合が高く、平成 17 年度調査では「明るく元気である」(68.4%)、「体力の低下が目立つ」(54.2%)、「自分の感情をうまくコントロールできない」(50.1%)の割合が高かった。

『最近の子どもの印象』について一般県民に聞いたところ、「そう思う」と「どちらかというところ」と回答した割合の合計として高かったのは、平成 25 年度調査では「明るく元気である」(48.6%)、「やさしさや思いやりがある」(33.6%)、「個性豊かである」(33.0%)であり、平成 17 年度調査では「明るく元気である」(32.7%)、「個性豊かである」(24.1%)、「やさしさや思いやりがある」(15.1%)であった。

児童・生徒に、『自分自身について』聞いたところ、小学生が平成 25 年度調査で「そう思う」と回答した割合が高かったのは「仲の良い友だちがいる」(92.8%)、「家族のことを理解している」(77.2%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(72.3%)であり、平成 17 年度調査では「仲の良い友だちがいる」(94.0%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(69.9%)、「家族のことを理解している」(69.5%)であった。中学生が平成 25 年度調査で「そう思う」と回答した割合が高かったのは「仲の良い友だちがいる」(87.8%)、「みんなの役に立ちたい」(65.4%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(63.9%)であり、平成 17 年度調査では「仲の良い友だちがいる」(87.5%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(66.4%)、「みんなの役に立ちたい」(58.5%)であった。高校生が平成 25 年度調査で「そう思う」と回答した割合が高かったのは「仲の良い友だちがいる」(84.7%)、「社会のルールやマナーを守っている」(67.8%)、「自分らしさをもっている」(59.9%)であり、平成 17 年度調査では「仲の良い友だちがいる」(86.5%)、「外で運動したり遊んだりするのが好きだ」(61.5%)、「自分らしさをもっている」(54.4%)であった。特別支援学校児童・生徒が平成 25 年度調査で「はい」と回答した割合が高かったのは「学校が好き」(79.0%)、「決まった時間に食事をする」(79.0%)、「いろいろなことを知りたいという気持ちを持っている」(75.0%)であり、平成 17 年度調査では「仲の良い友だちがいる」(80.0%)、「いろいろなことを知りたいという気持ちをもっている」(69.2%)、「人の役に立ちたいと思う」(67.7%)であった。(図 I-10~18 参照)

図 I-10 教育現場での児童・生徒の課題 「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(教職員)

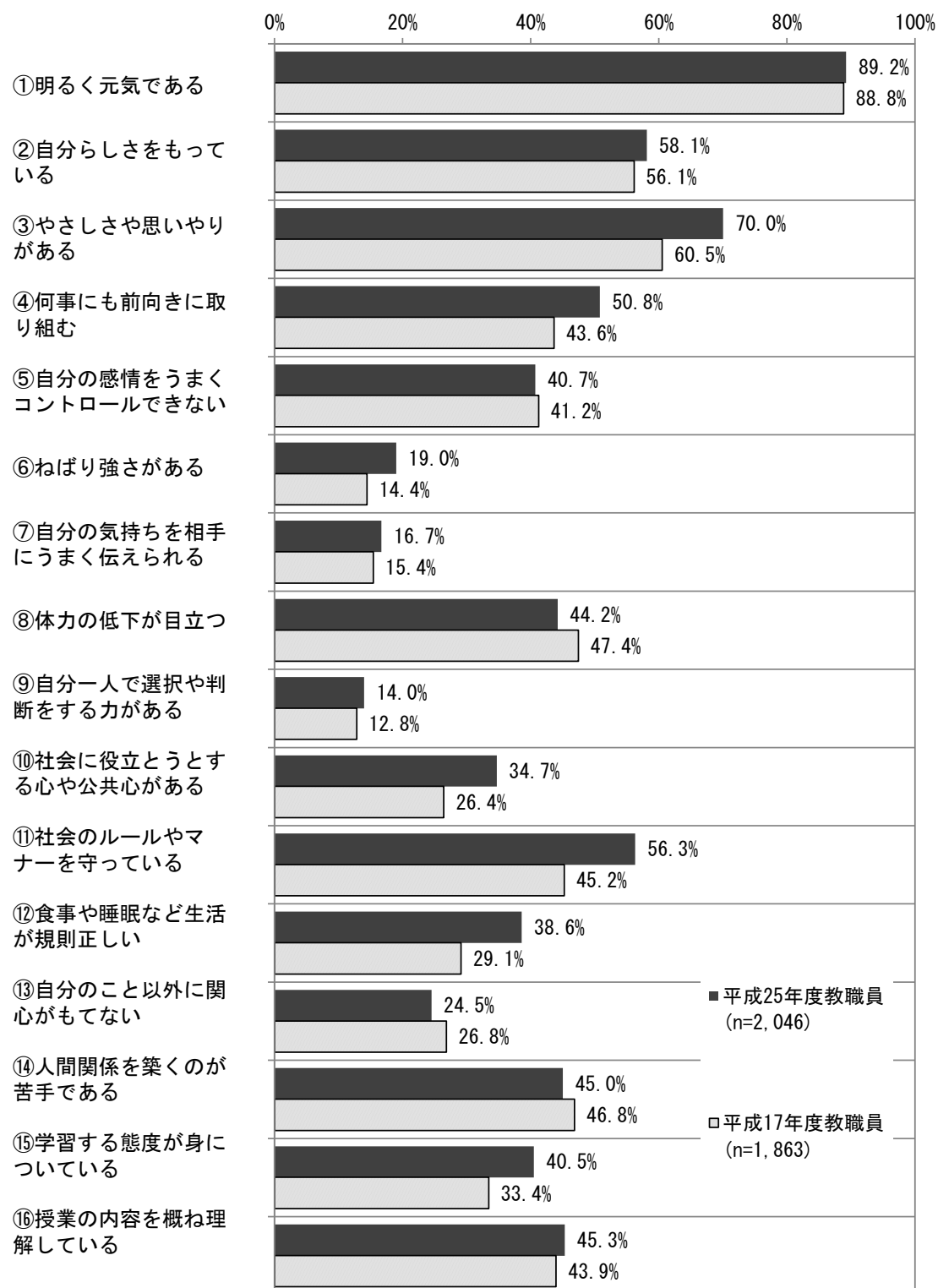


図 I-11 最近の子どもの印象 「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(保護者)

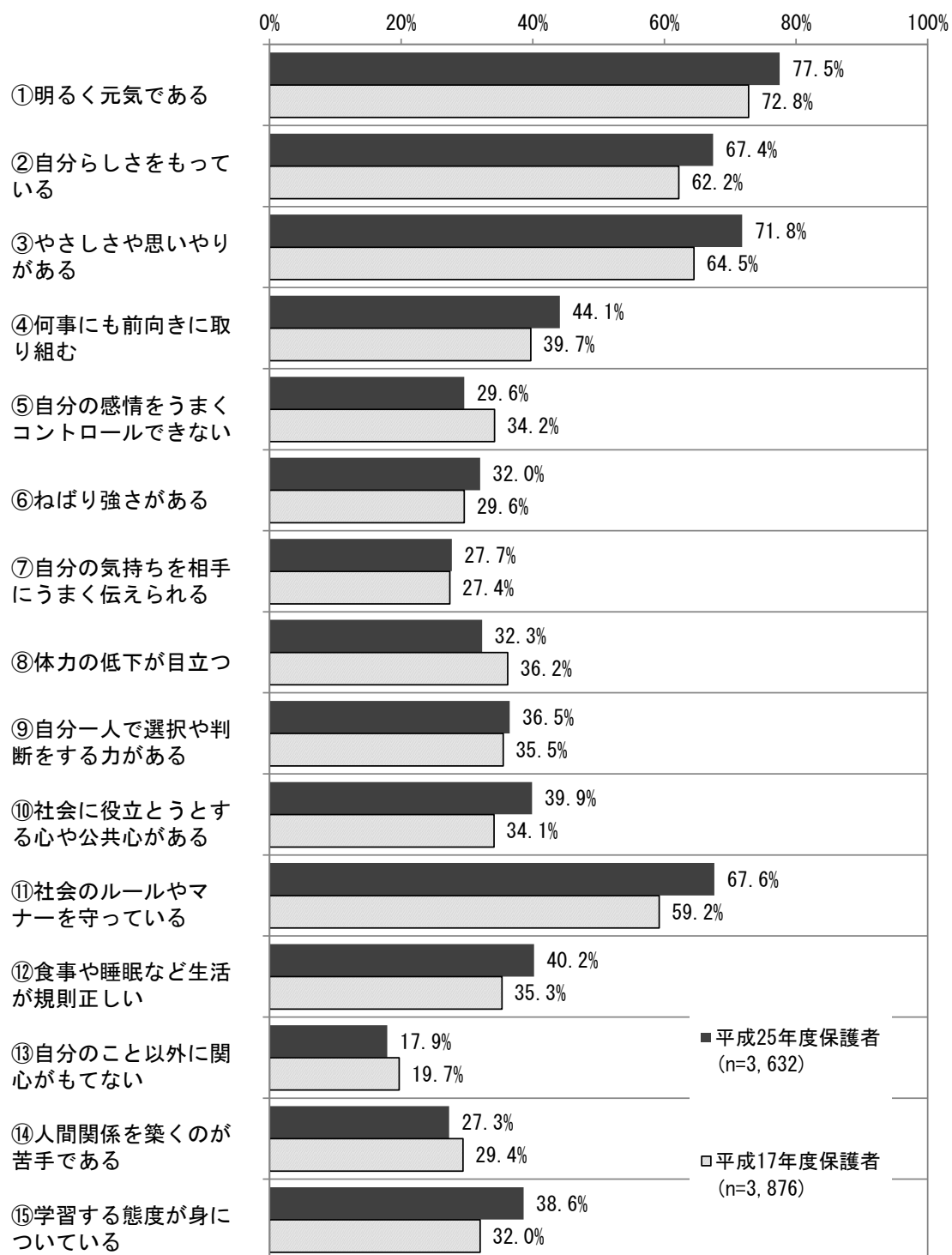


図 I-12 最近の子どもの印象 「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(学校評議員)

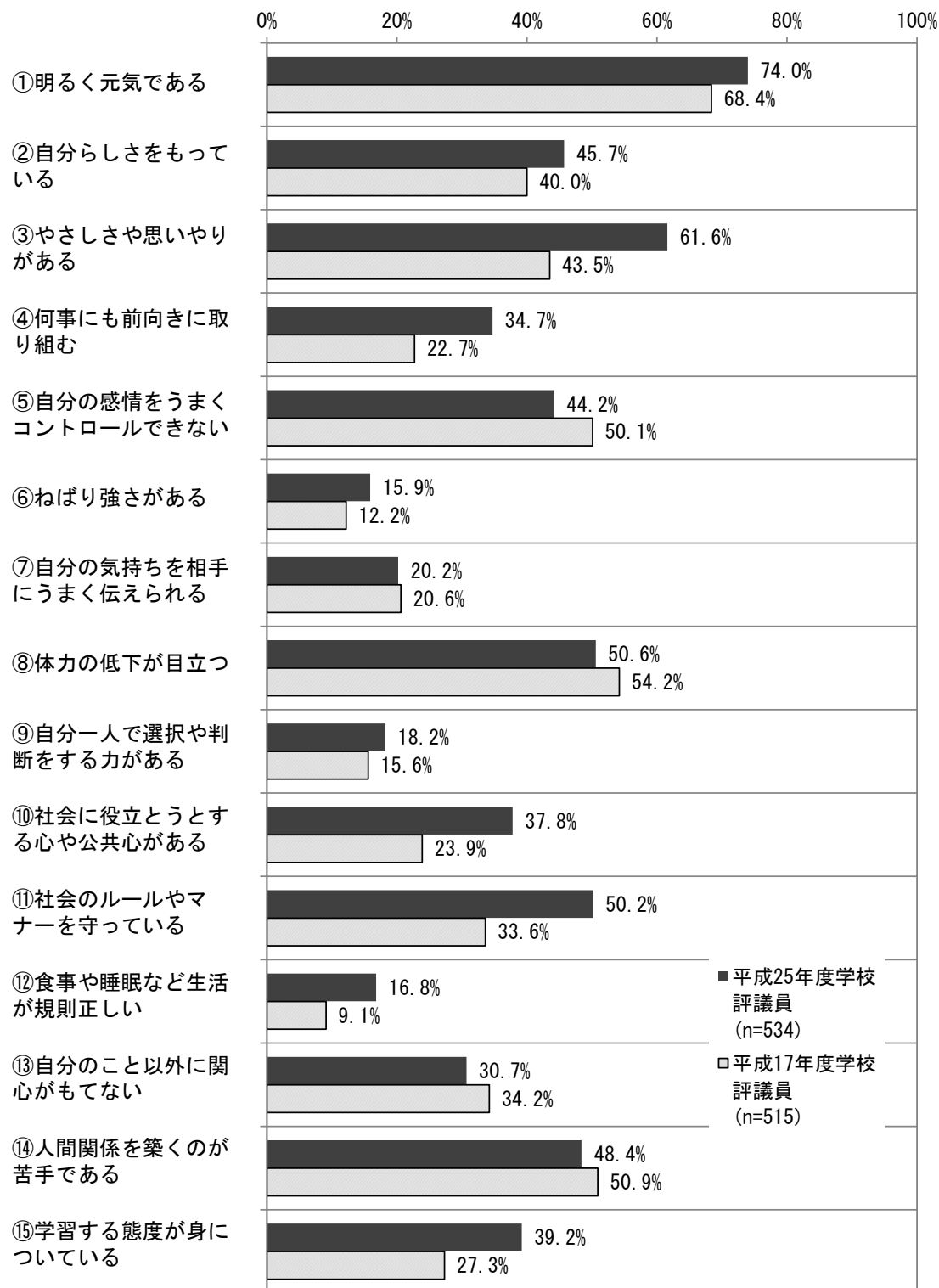


図 I-13 最近の子どもの印象 「そう思う」「どちらかというと思う」の合計(一般県民)

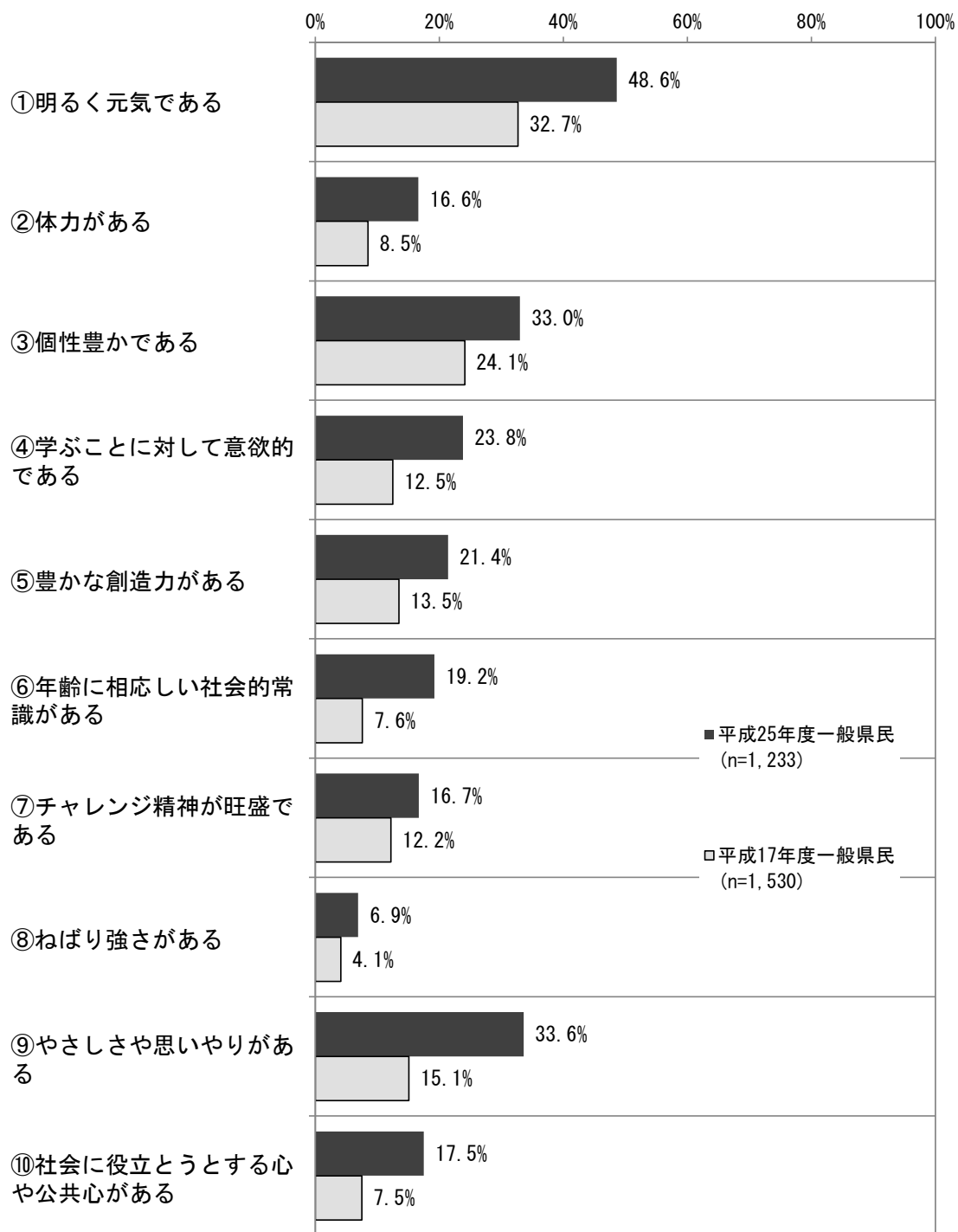


図 I-14 自分自身について 「そう思う」(小中高生合計)

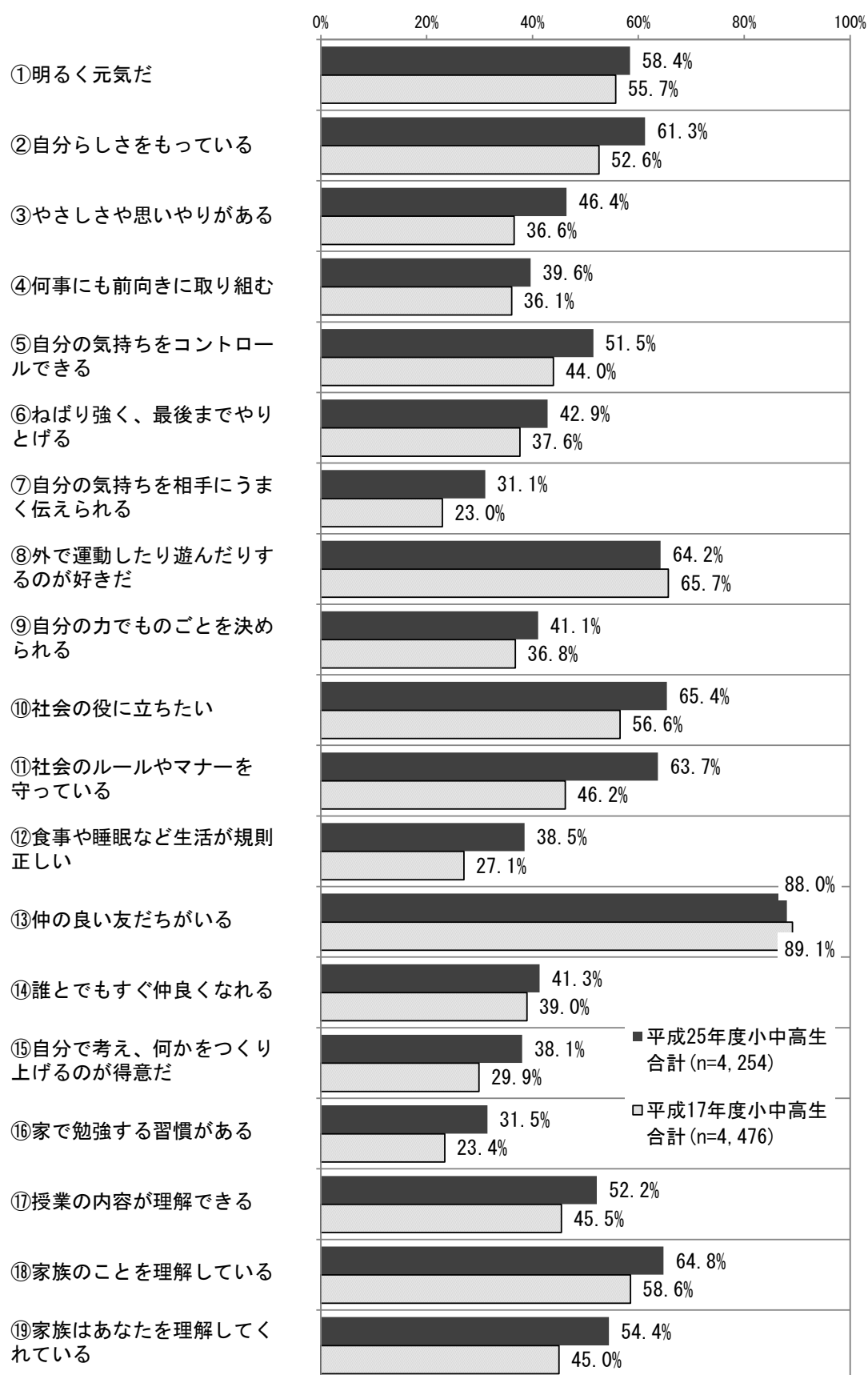


図 I-15 自分自身について 「そう思う」(小学生 n=1,254)

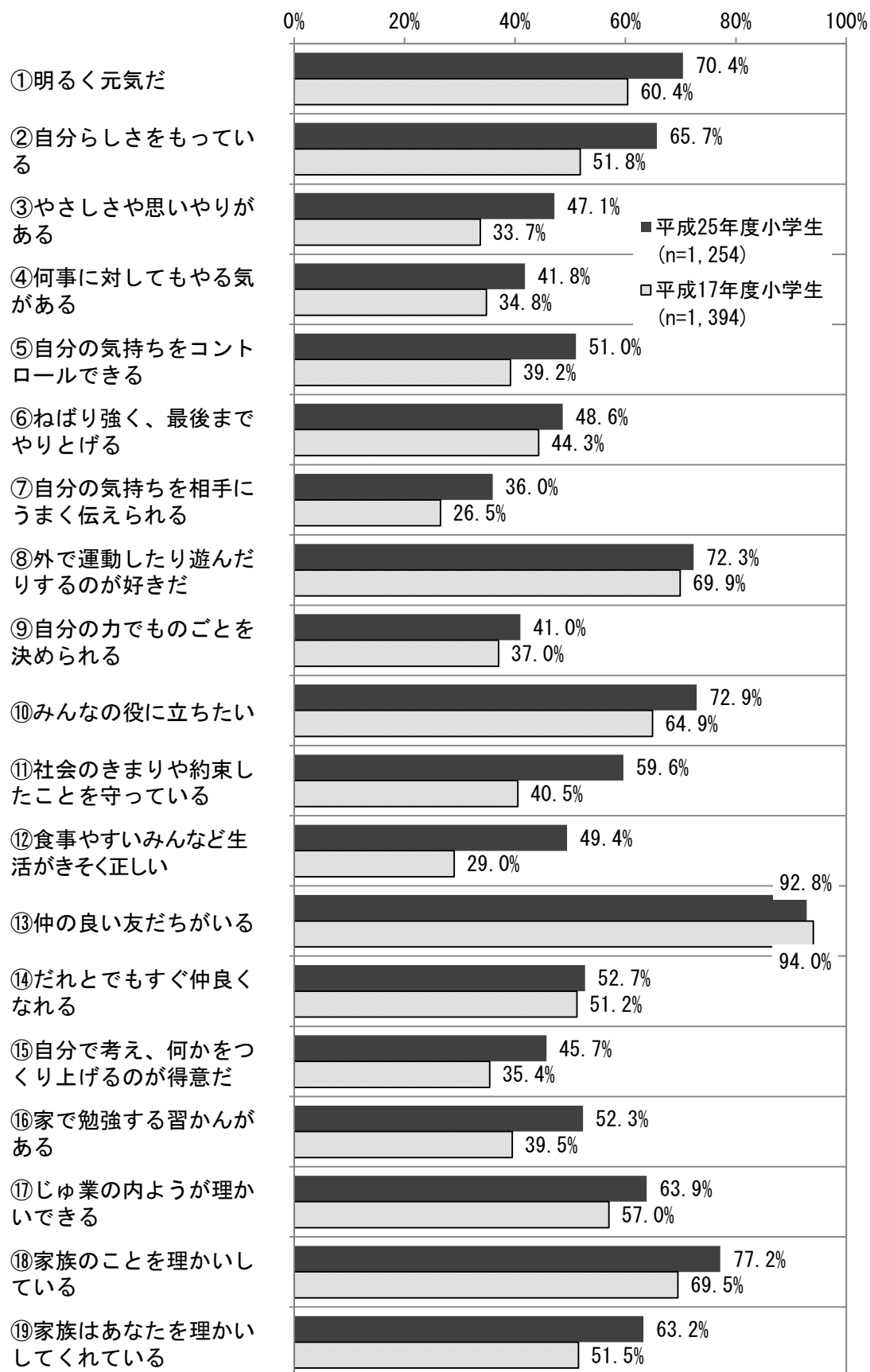


図 I-16 自分自身について 「そう思う」(中学生 n=1,316)

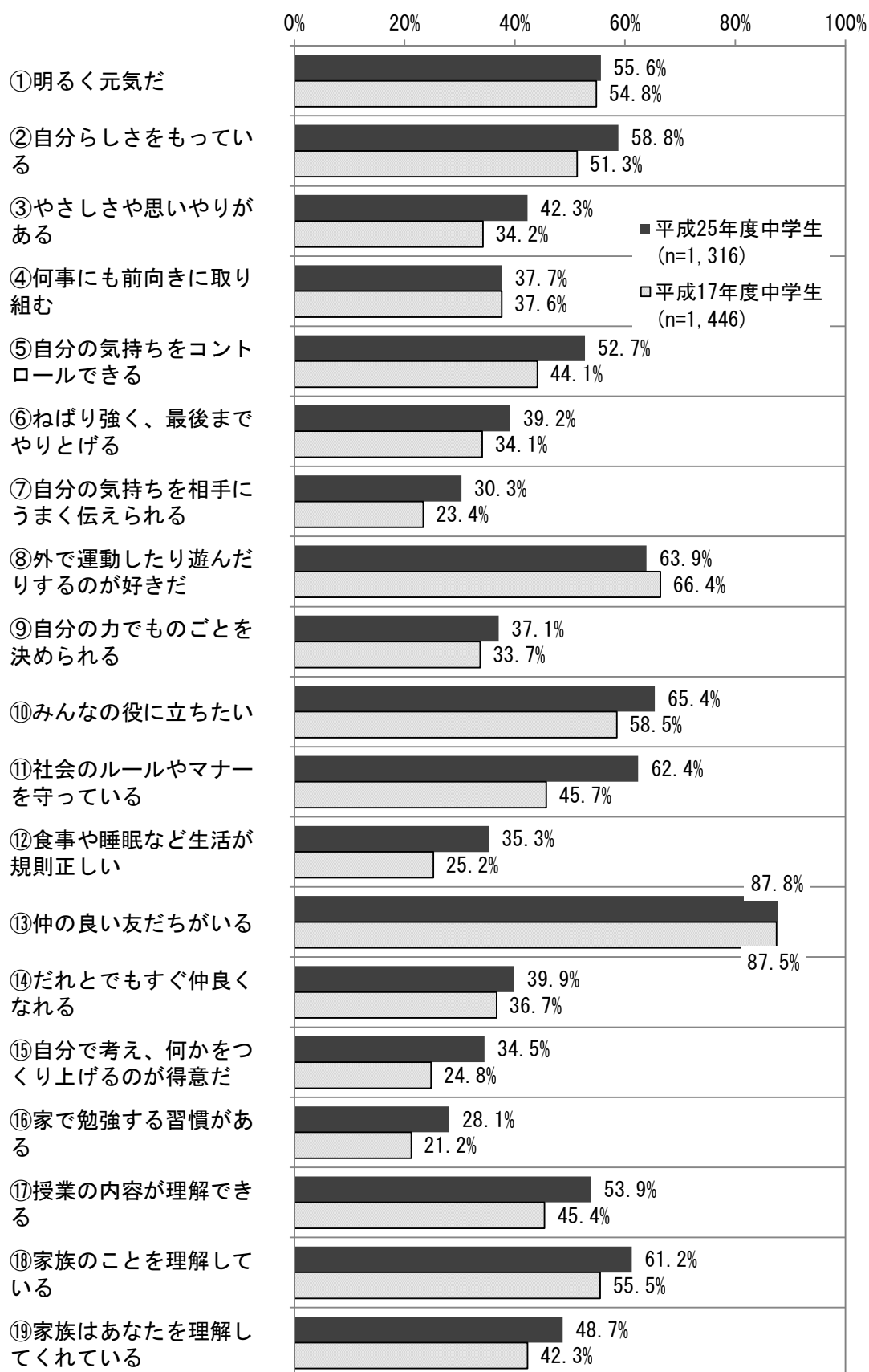


図 I-17 自分自身について 「そう思う」(高校生 n=1,684)

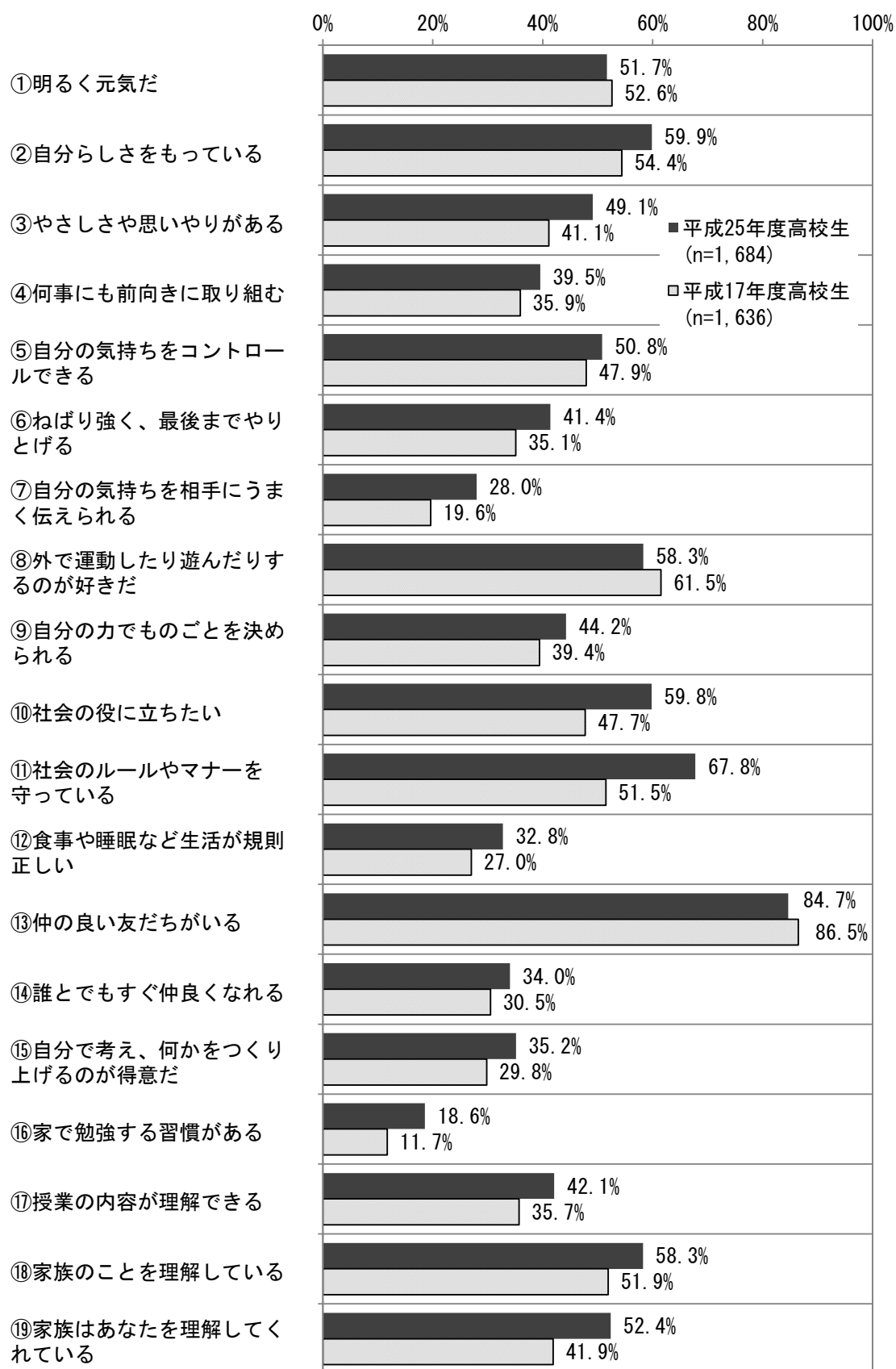
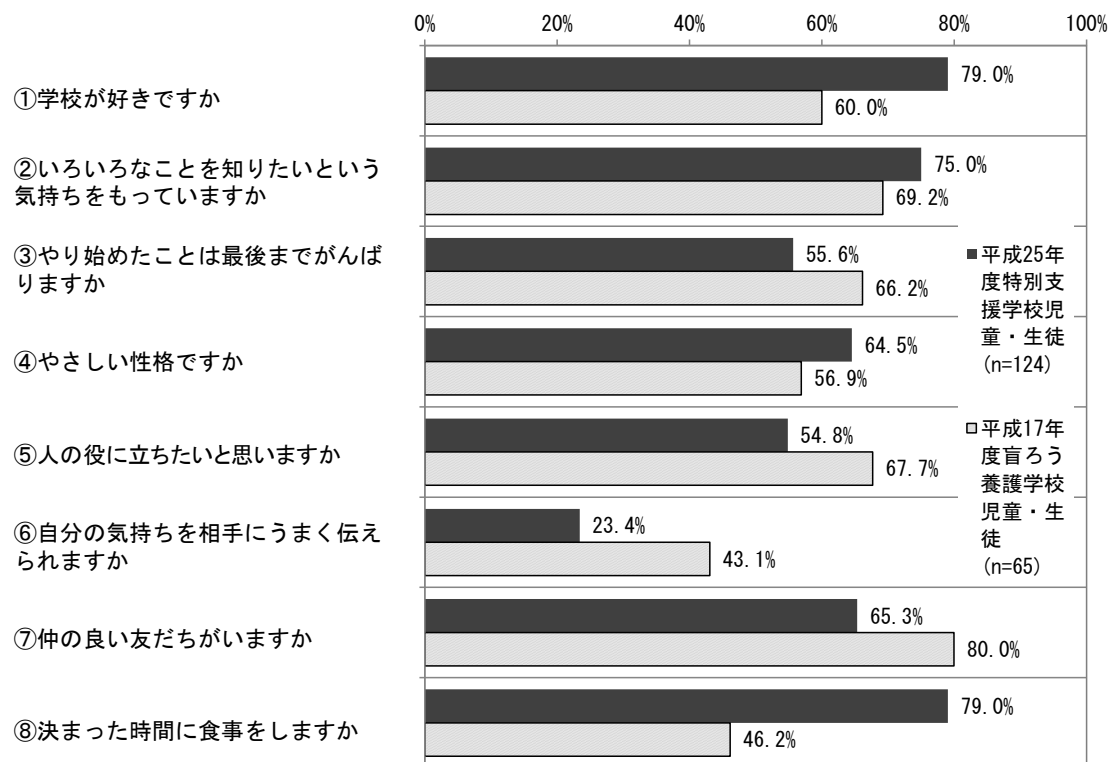


図 I-18 自分自身について 「はい」(特別支援学校児童・生徒 n=65)



I-2 子どもに影響を与えている存在、自分とかかわりの深いもの

保護者に『子どもに影響を与えている存在』を聞いたところ、いずれの校種に子をもつ場合にも、「親」と回答する割合が最も高い。次いで、小中高の保護者では「友人」、特別支援学校の保護者では「学校の教員」をあげ、3番目に割合が高かったのは小学校と特別支援学校では「兄弟姉妹」、中学校と高等学校では「携帯電話やスマートフォン」であった。

児童・生徒に『自分とかかわりの深いもの』を聞いたところ、小学生は「家族」、「友人」、「ゲーム」の順に回答の割合が高く、中高生ではともに「友人や先輩」、「家族」、「携帯電話やスマートフォン」の順であった。特別支援学校児童・生徒では、「家族」、「テレビ」、「本」の回答の割合が高かった。

保護者が子どもに最も影響を与えている存在としてあげている「親」の回答の割合について平成17年度調査結果と比較したところ、小学校保護者の回答は平成25年度調査では93.9%、平成17年度調査では83.9%であり、中学校保護者の回答は平成25年度調査では86.4%であり、平成17年度調査では75.2%であった。高等学校保護者の回答は平成25年度調査では82.2%であり、平成17年度調査では71.3%であった。特別支援学校保護者の回答は平成25年度調査では83.1%であり、平成17年度調査では73.1%であった。

児童・生徒が考える『自分とかかわりの深いもの』を平成17年度調査結果と比較すると、小学生の最も回答の割合の高かったのはいずれも「家族」であり、平成25年度調査では88.8%、平成17年度調査では83.3%であった。中高生の回答で最も多かった「友人や先輩」については、平成25年度調査では中学生71.8%、高校生76.0%であり、平成17年度調査では中学生76.9%、高校生81.0%であった。特別支援学校児童・生徒の回答で最も多かった「家族」は平成25年度調査では78.2%、平成17年度調査では53.8%であった。

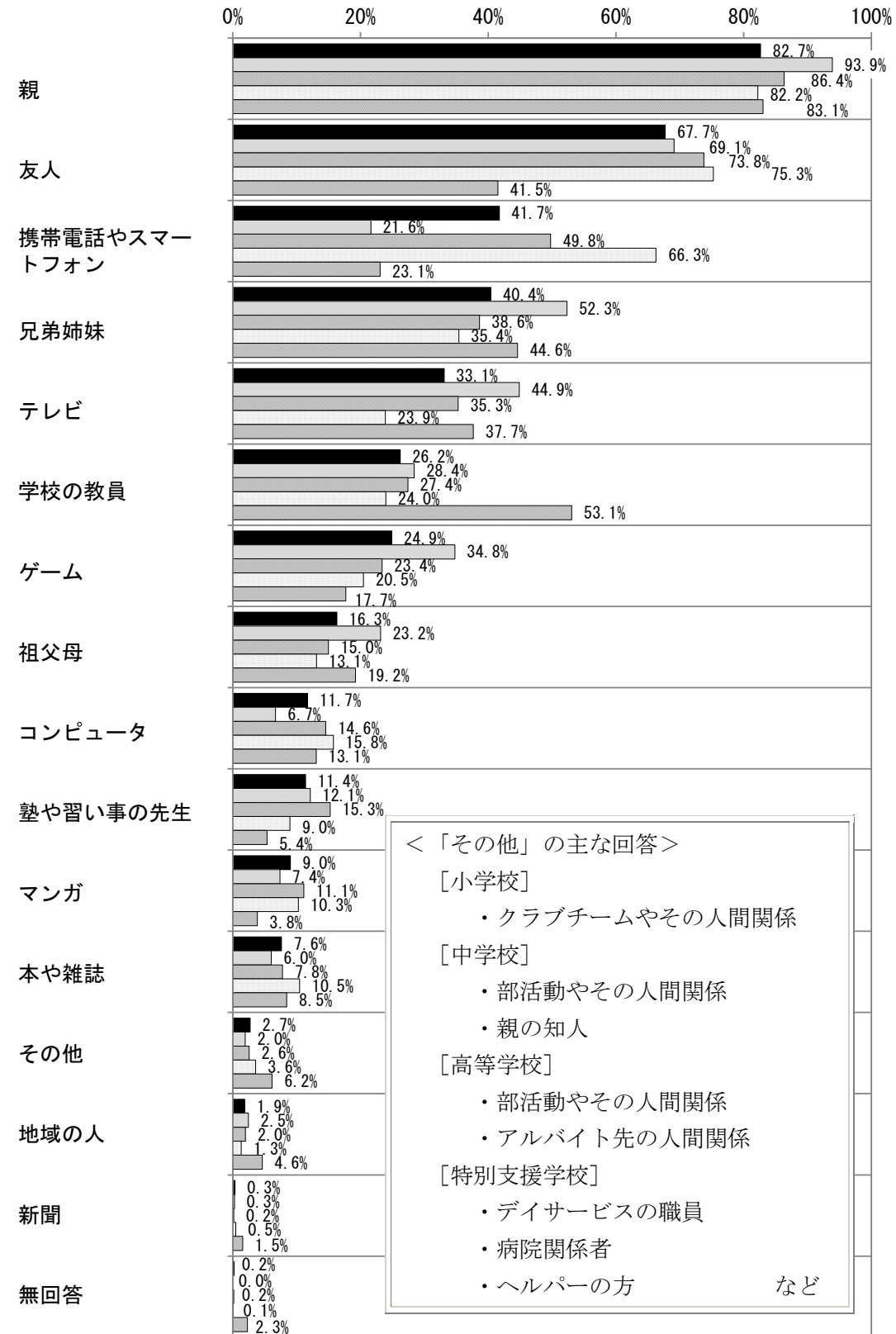
『子どもに影響を与えている存在』を保護者に聞いたところ、いずれの校種においても「親」と回答する割合が最も高かった(保護者(小):93.9%、保護者(中):86.4%、保護者(高):82.2%、保護者(特):83.1%)。次いで、小中高の保護者では「友人」(保護者(小):69.1%、保護者(中):73.8%、保護者(高):75.3%)、特別支援学校の保護者では「学校の教員」(53.1%)の割合が高く、3番目に割合が高かったのは小学校と特別支援学校では「兄弟姉妹」(保護者(小):52.3%、保護者(特):44.6%)であり、中学校と高等学校では「携帯電話やスマートフォン」(保護者(中):49.8%、保護者(高):63.3%)であった。

『自分とかかわりの深いもの』を児童・生徒に聞いたところ、小学生は「家族」(88.8%)、「友人」(76.2%)、「ゲーム」(29.6%)の順に回答の割合が高く、中高生ではともに「友人や先輩」(中学生:71.8%、高校生:76.0%)、「家族」(中学生:68.7%、高校生:66.1%)、「携帯電話やスマートフォン」(中学生:33.1%、高校生:47.0%)の順に回答の割合が高かった。特別支援学校児童・生徒では、「家族」(78.2%)、「テレビ」(44.4%)、「本」(33.1%)の回答の割合が高かった。(表I-5、図I-19~21参照)

表 I-5 子どもに影響を与えている存在、自分とかかわりの深いもの(上位5項目)

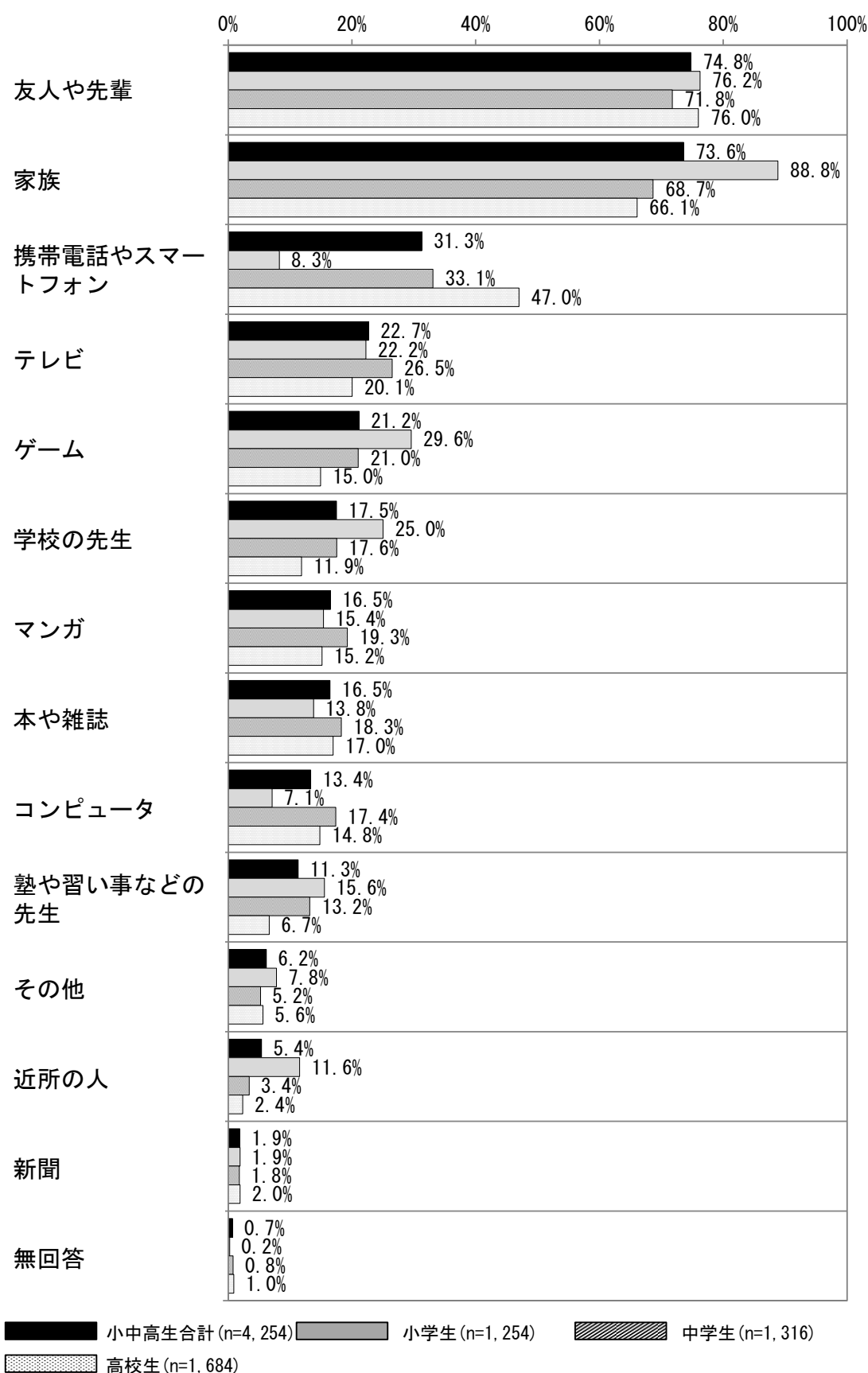
	子どもに影響を与えている存在				自分とかかわりの深いもの		
	保護者				児童・生徒		
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	小学校	中学校	高等学校
1位	親	親	親	親	家族	友人や先輩	友人や先輩
	93.9%	86.4%	82.2%	83.1%	88.8%	71.8%	76.0%
2位	友人	友人	友人	学校の教員	友人	家族	家族
	69.1%	73.8%	75.3%	53.1%	76.2%	68.7%	66.1%
3位	兄弟姉妹	携帯電話やスマートフォン	携帯電話やスマートフォン	兄弟姉妹	ゲーム	携帯電話やスマートフォン	携帯電話やスマートフォン
	52.3%	49.8%	66.3%	44.6%	29.6%	33.1%	47.0%
4位	テレビ	兄弟姉妹	兄弟姉妹	友人	学校の先生	テレビ	テレビ
	44.9%	38.6%	35.4%	41.5%	25.0%	26.5%	20.1%
5位	ゲーム	テレビ	学校の教員	テレビ	テレビ	ゲーム	本や雑誌
	34.8%	35.3%	24.0%	37.7%	22.2%	21.0%	17.0%

図 I-19 子どもに影響を与えている存在(保護者 n=3, 632)



保護者合計 (n=3, 632)
 保護者(小) (n=1, 179)
 保護者(中) (n=1, 167)
 保護者(高) (n=1, 059)
 保護者(特) (n=130)

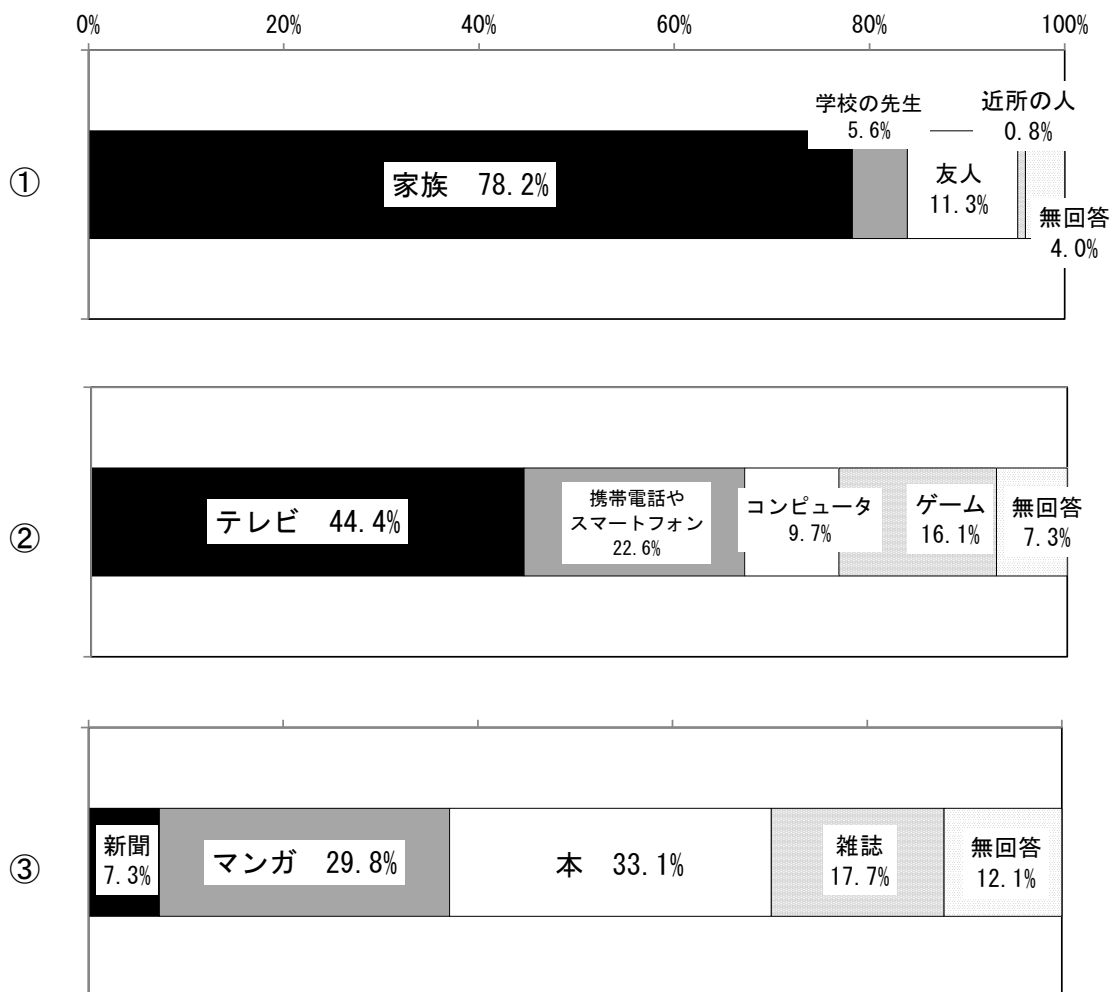
図 I-20 自分とかかわりの深いもの (小中高生 n=4, 254)



<「その他」の主な回答>

- [小中高生共通] ・スポーツ ・音楽 ・親戚 ・おもちゃ（人形、カード、模型等）
- [小学生] ・ペット等の動物
- [中学生] ・ペット等の動物 ・部活動やその人間関係 ・恋人
- [高校生] ・アルバイトやその人間関係 ・部活動やその人間関係 ・恋人
など

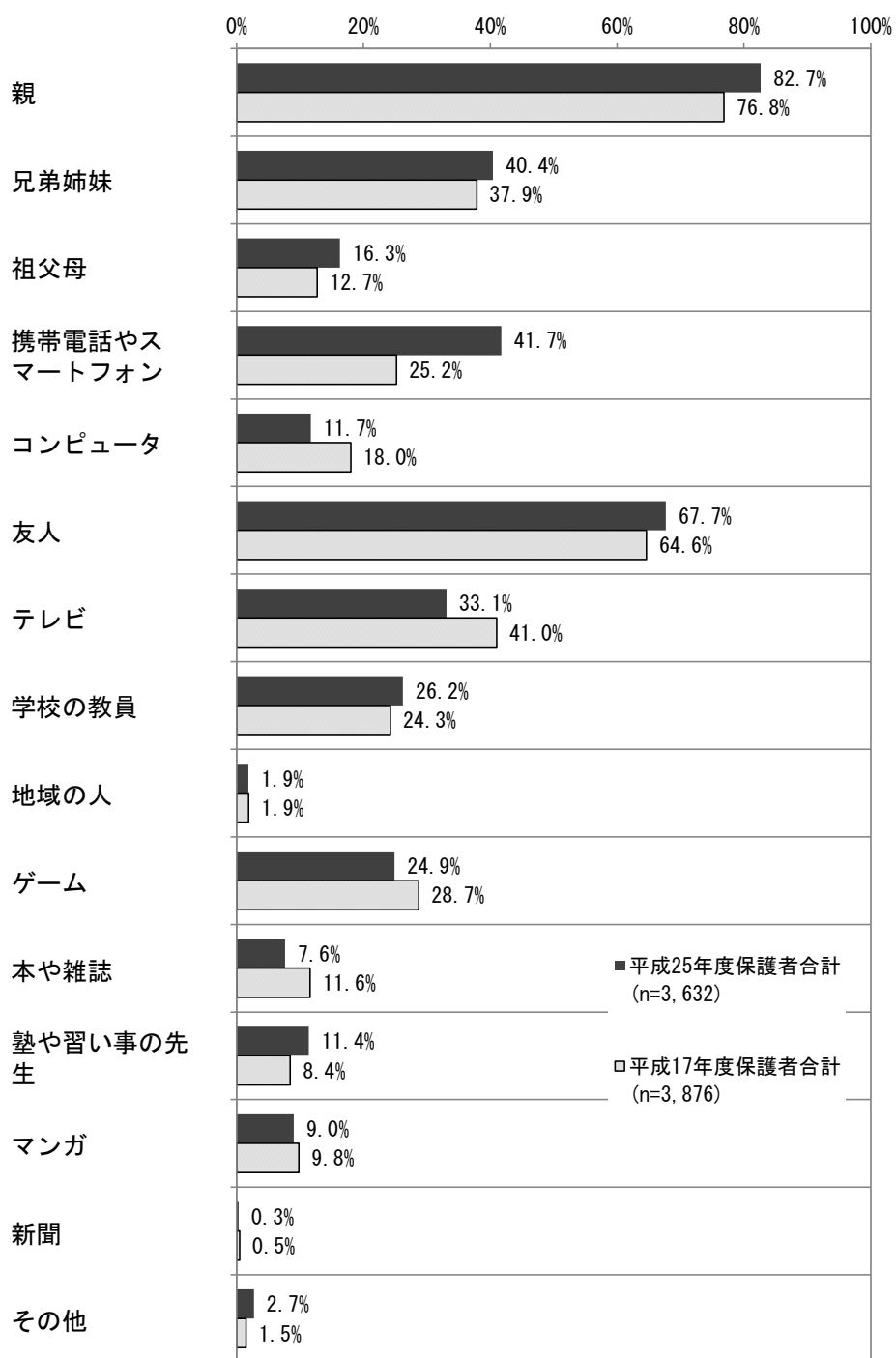
図 I-21 自分とかかわりの深いもの（特別支援学校児童・生徒 n=124）



保護者が考える『子どもに影響を与えている存在』を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「親」(93.9%)、「友人」(69.1%)、「兄弟姉妹」(52.3%)であり、平成 17 年度調査では「親」(83.9%)、「友人」(61.1%)、「テレビ」(49.5%)であった。中学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「親」(86.4%)、「友人」(73.8%)、「携帯電話やスマートフォン」(49.8%)であり、平成 17 年度調査では「親」(75.2%)、「友人」(66.5%)、「テレビ」(39.4%)であった。高等学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「親」(82.2%)、「友人」(75.3%)、「携帯電話やスマートフォン」(66.3%)であり、平成 17 年度調査では「親」(71.3%)、「友人」(67.0%)、「携帯電話」(37.6%)であった。特別支援学校保護者の回答は平成 25 年度調査では「親」(83.1%)、「学校の教員」(53.1%)、「兄弟姉妹」(44.6%)であり、平成 17 年度調査では「親」(71.7%)、「テレビ」(52.8%)、「友人」(50.9%)であった。

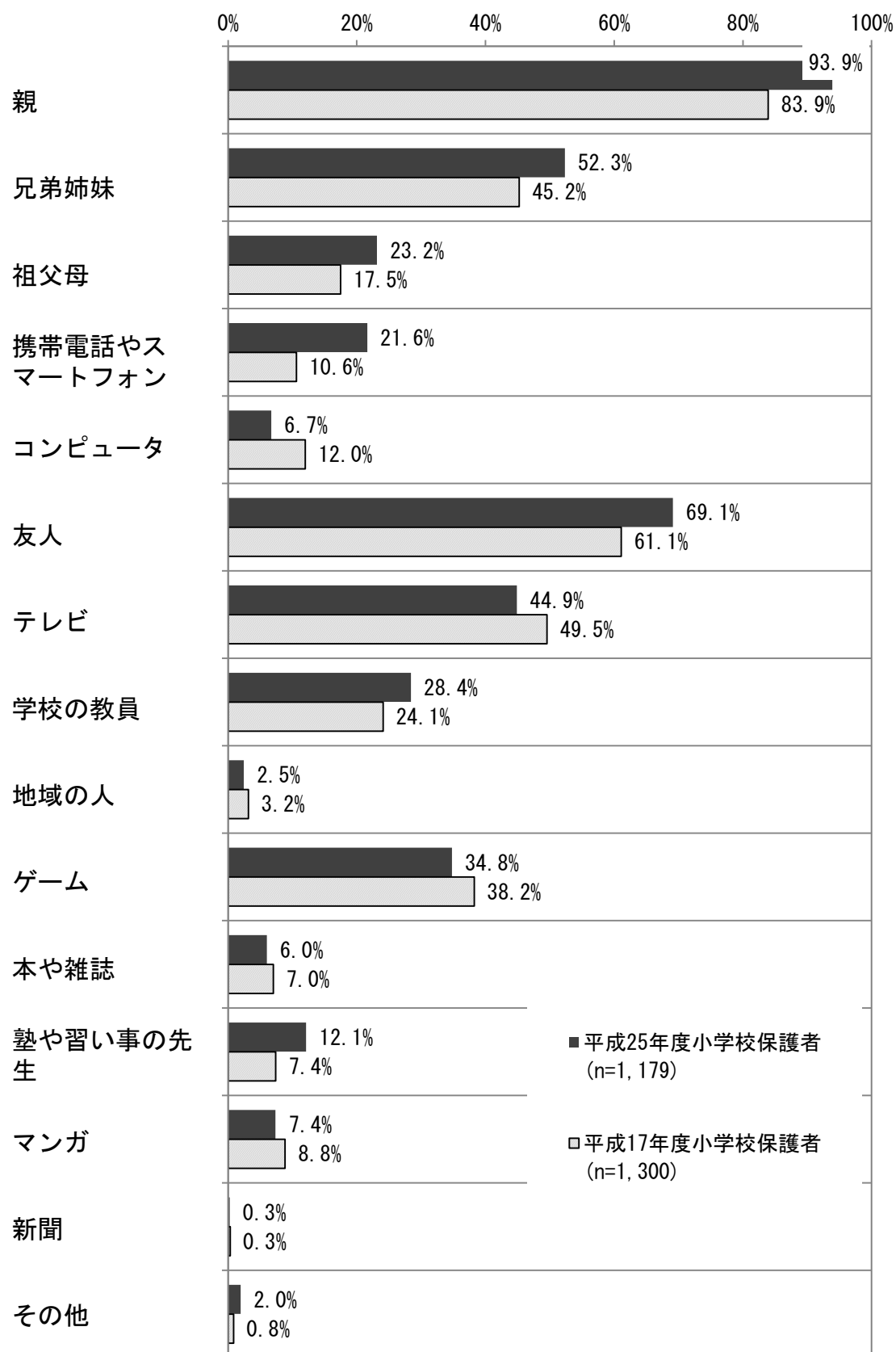
児童・生徒が考える『自分とかかわりの深いもの』を平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「家族」(88.8%)、「友人」(76.2%)、「ゲーム」(29.6%)であり、平成 17 年度調査では「家族」(83.3%)、「友人」(76.1%)、「テレビ」(28.2%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「友人や先輩」(71.8%)、「家族」(68.7%)、「携帯電話やスマートフォン」(33.1%)であり、平成 17 年度調査では「友人や先輩」(76.9%)、「家族」(62.2%)、「携帯電話」(35.7%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「友人や先輩」(76.0%)、「家族」(66.1%)、「携帯電話やスマートフォン」(47.0%)であり、平成 17 年度調査では「友人や先輩」(81.0%)、「家族」(58.7%)、「携帯電話」(46.6%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「家族」(78.2%)、「テレビ」(44.4%)、「本」(33.1%)であり、平成 17 年度調査では「家族」(53.8%)、「マンガ」(53.8%)、「友人」(33.8%)、「テレビ」(33.8%)であった。(図 I-22～31 参照)

図 I-22 子どもに影響を与えている存在(保護者)



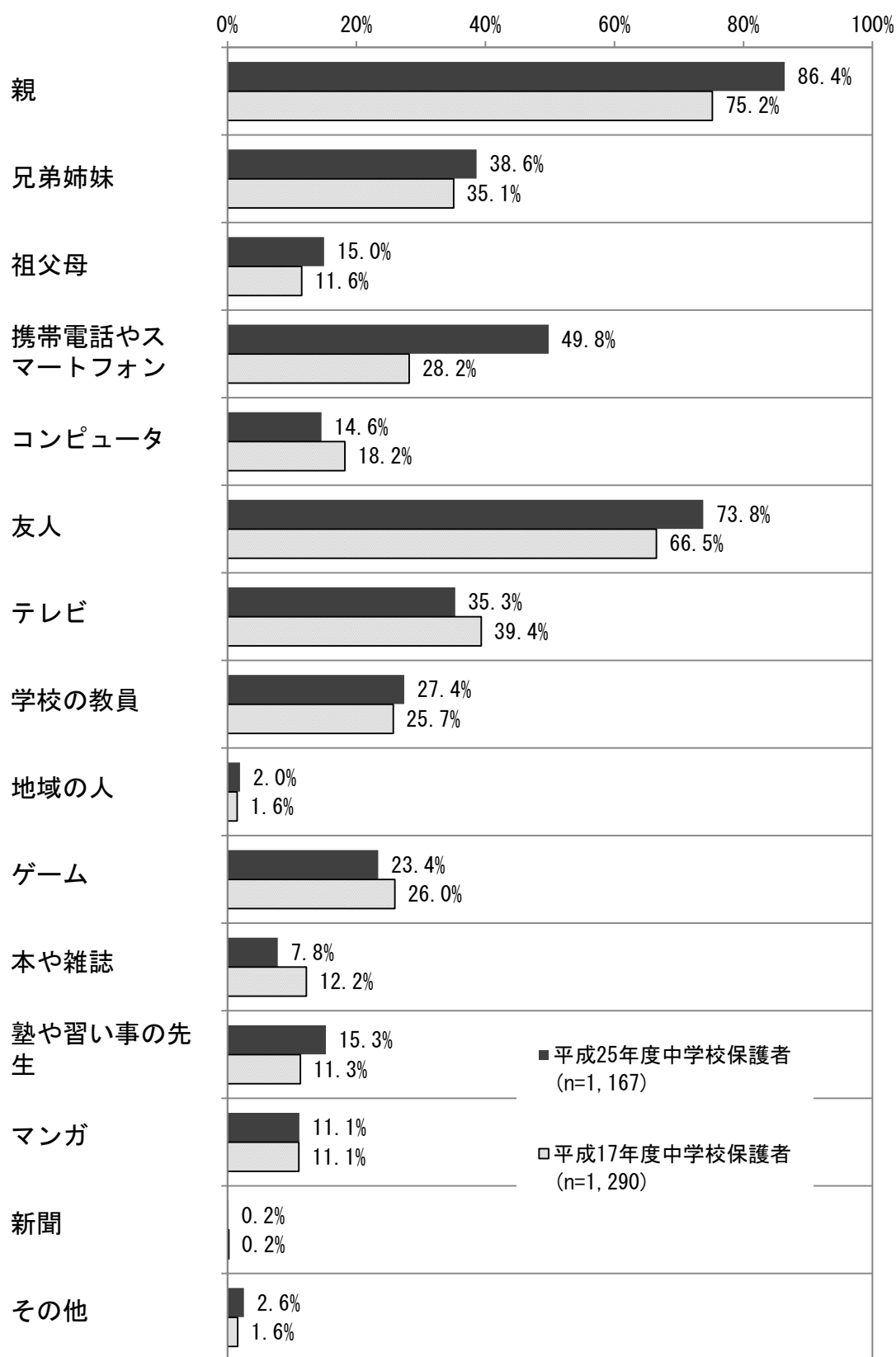
※ 「携帯電話やスマートフォン」・・・平成17年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成17年度調査 「インターネット」

図 I-23 子どもに影響を与えている存在(保護者：小学校)



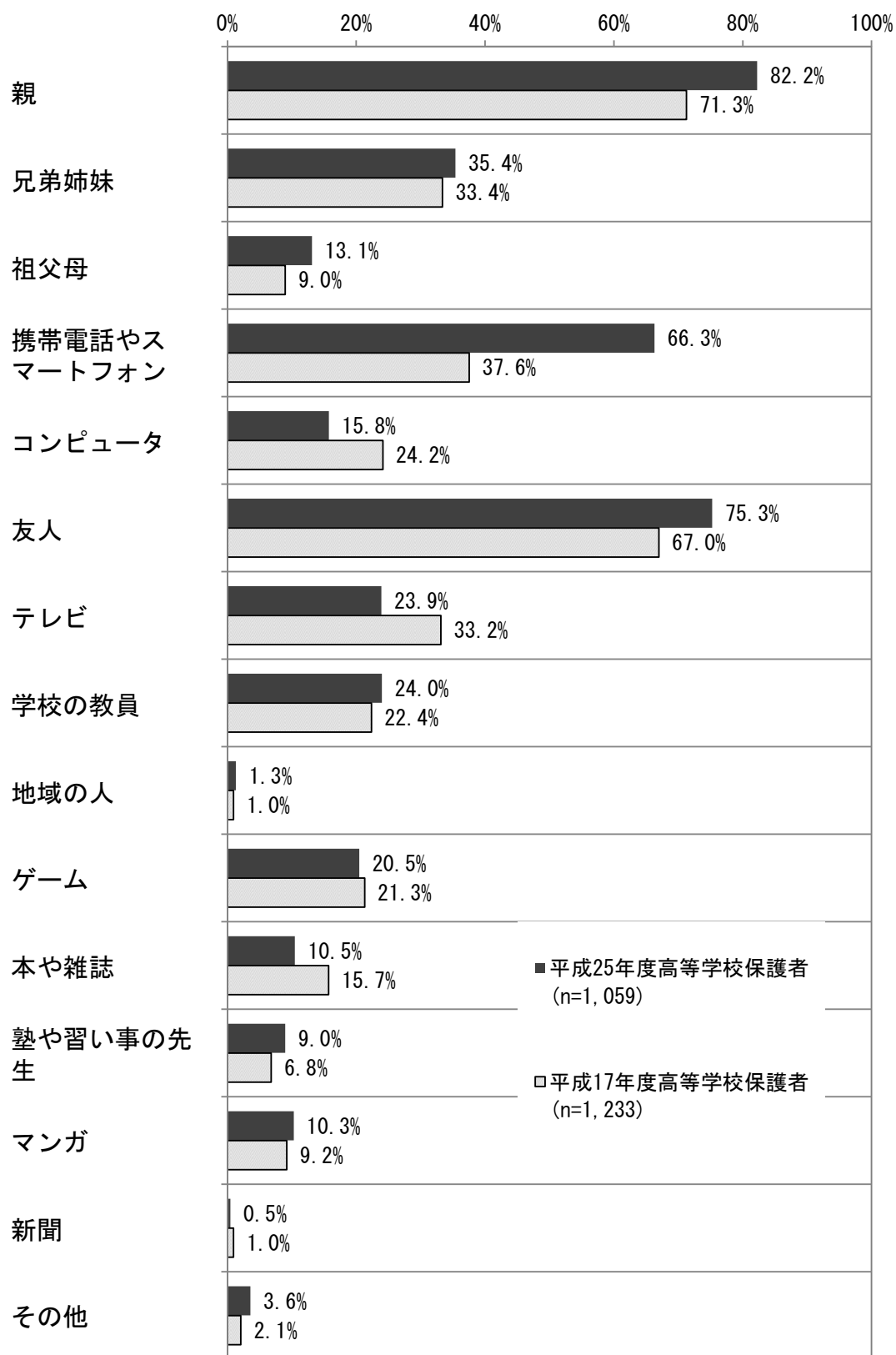
※「携帯電話やスマートフォン」・・・平成17年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成17年度調査 「インターネット」

図 I-24 子どもに影響を与えている存在(保護者：中学校)



※ 「携帯電話やスマートフォン」・・・平成17年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成17年度調査 「インターネット」

図 I-25 子どもに影響を与えている存在(保護者：高等学校)



※「携帯電話やスマートフォン」・・・平成17年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成17年度調査 「インターネット」

図 I-26 子どもに影響を与えている存在(保護者：特別支援学校)

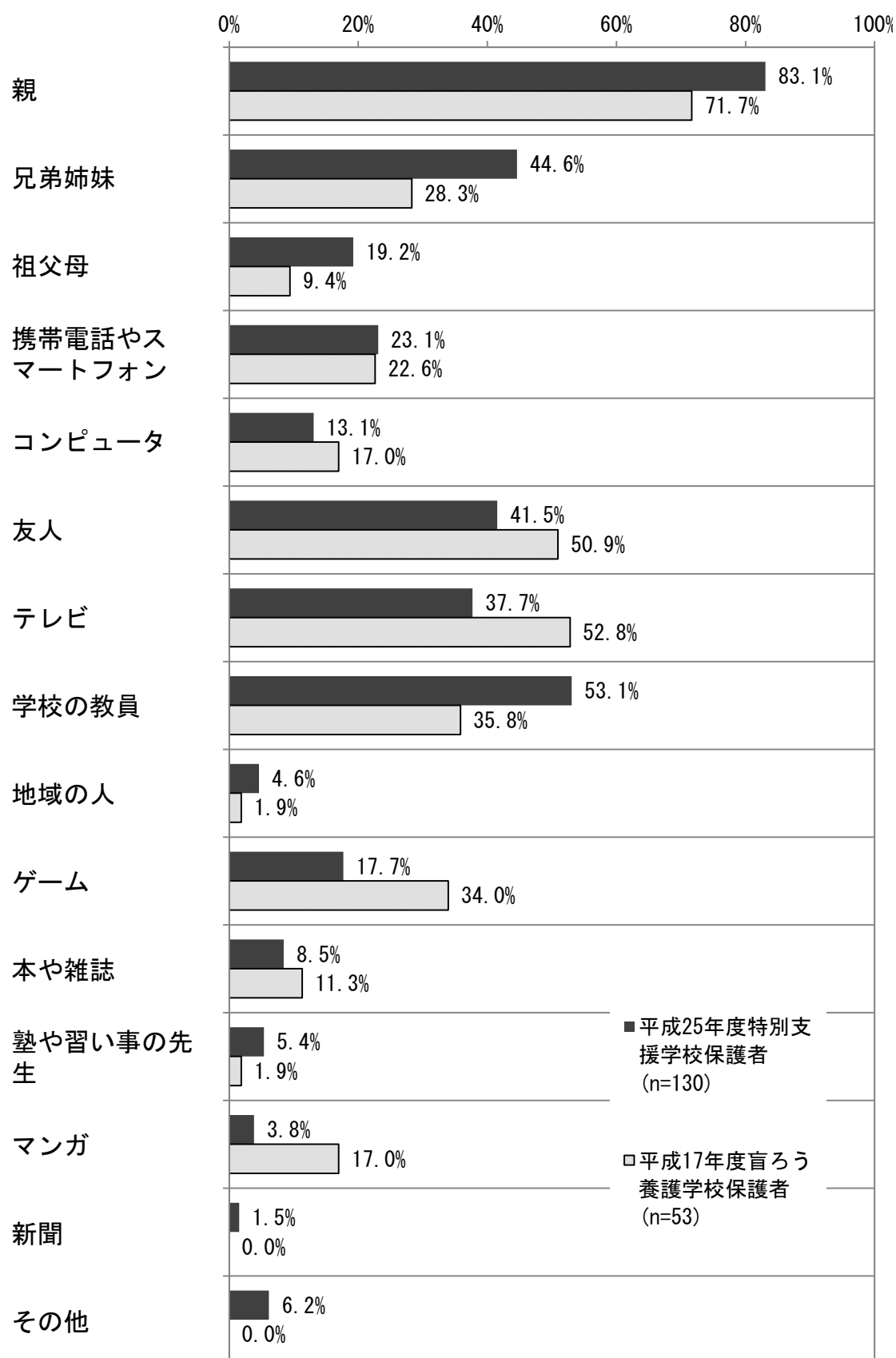
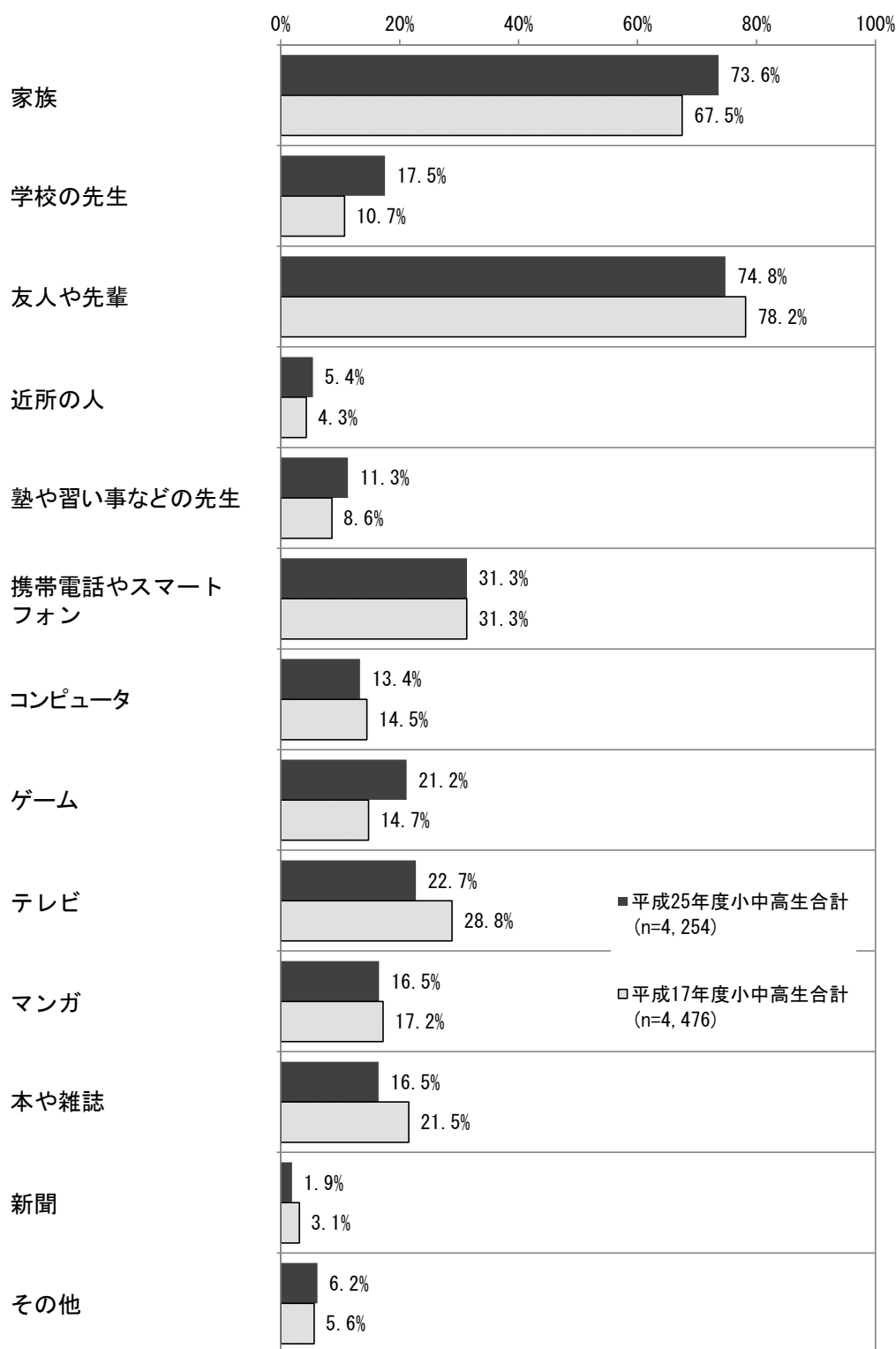
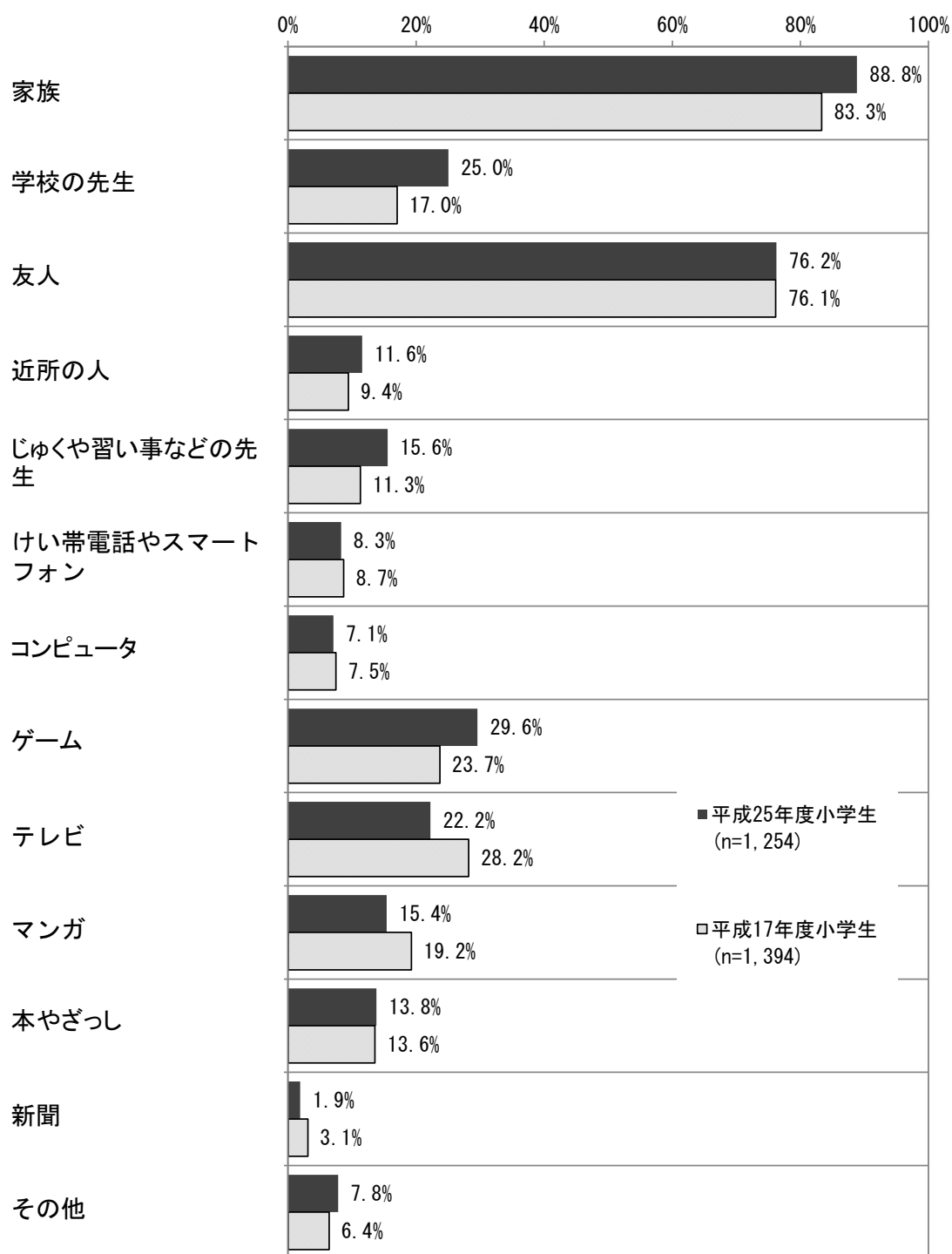


図 I-27 自分とかかわりの深いもの(児童・生徒 小中高生合計)



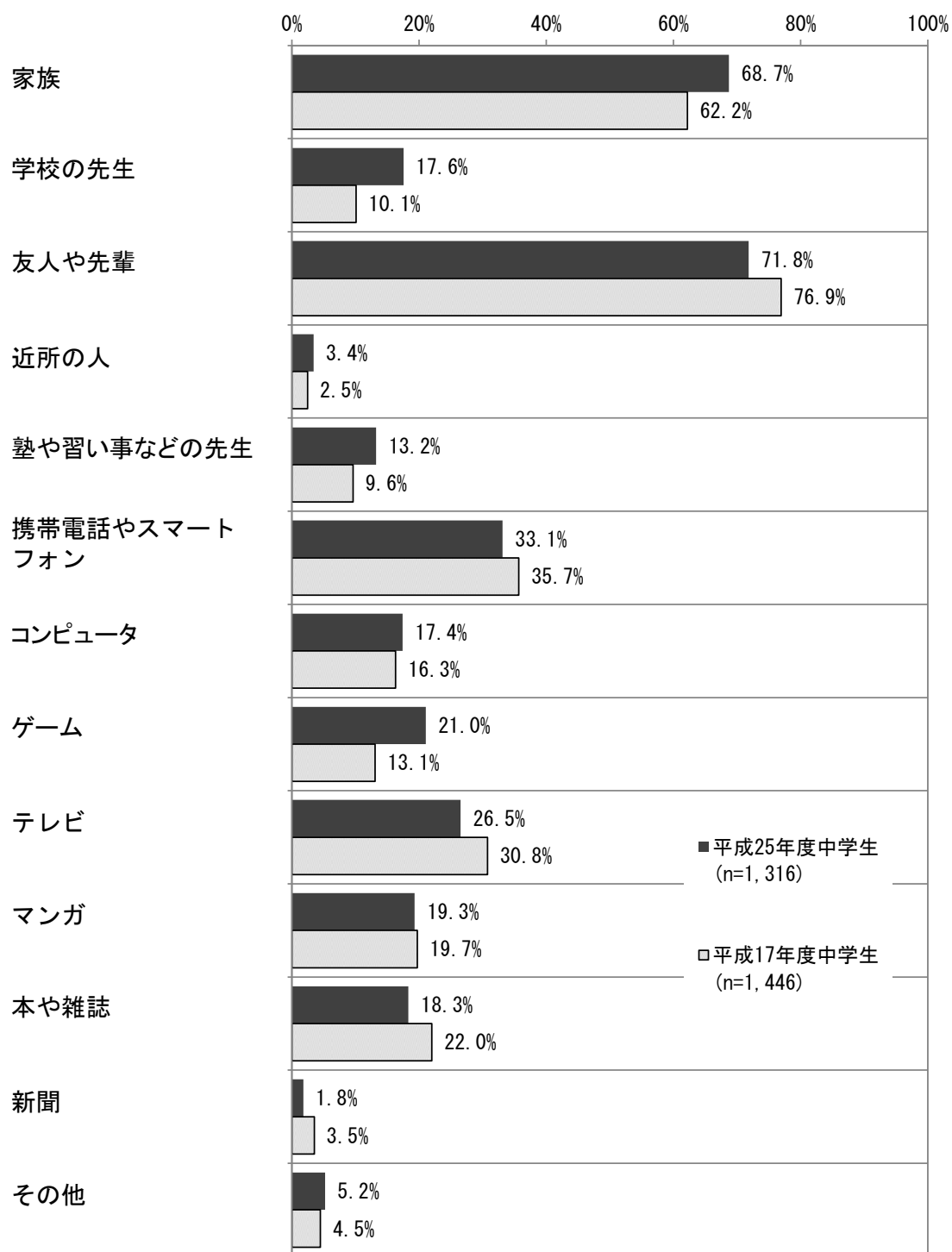
※ 「携帯電話やスマートフォン」・・・平成 17 年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・・・・・・平成 17 年度調査 「インターネット」

図 I-28 自分とかかわりの深いもの(小学生)



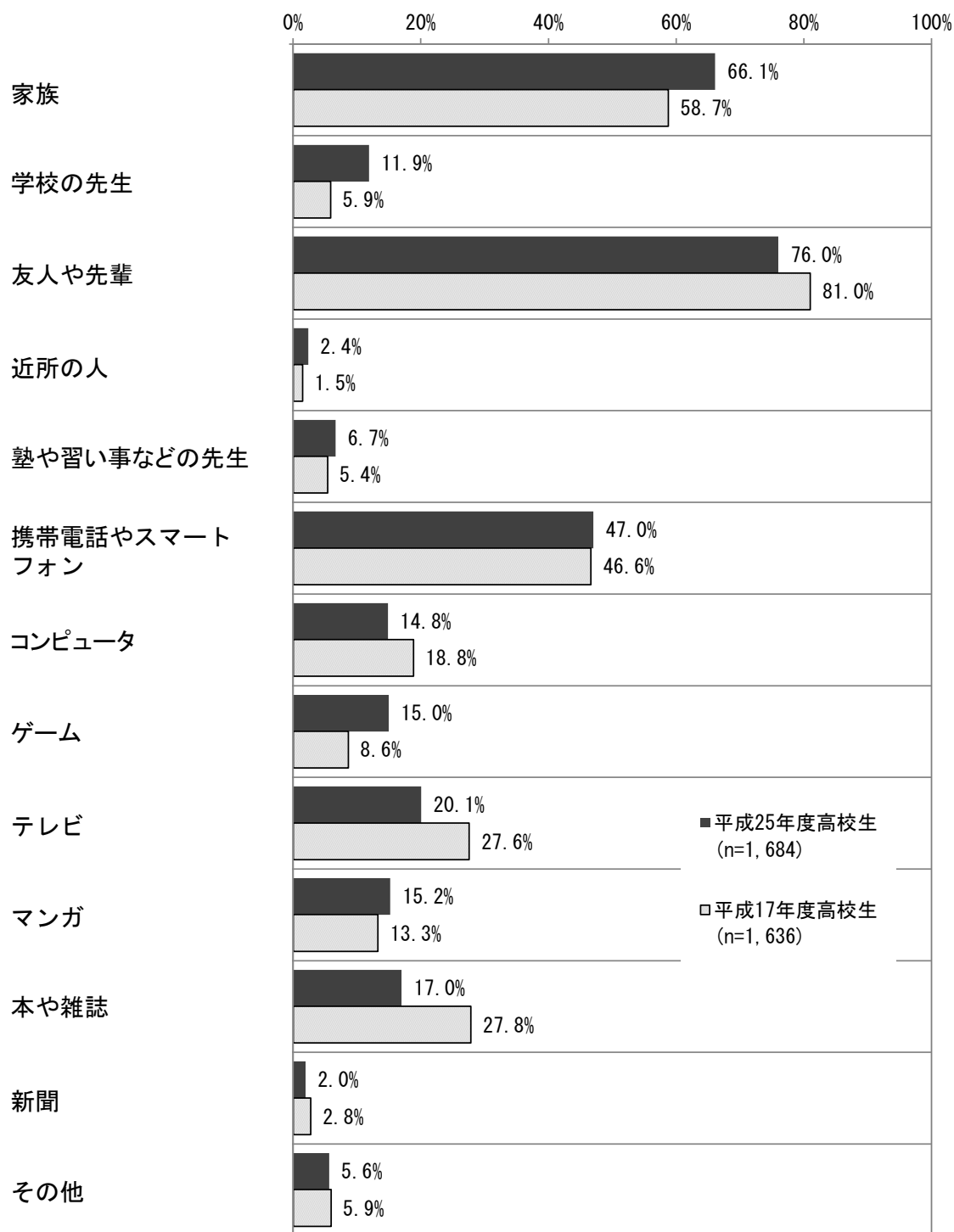
※ 「けい帯電話やスマートフォン」・・・平成 17 年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・・・・平成 17 年度調査 「インターネット」

図 I-29 自分とかかわりの深いもの(中学生)



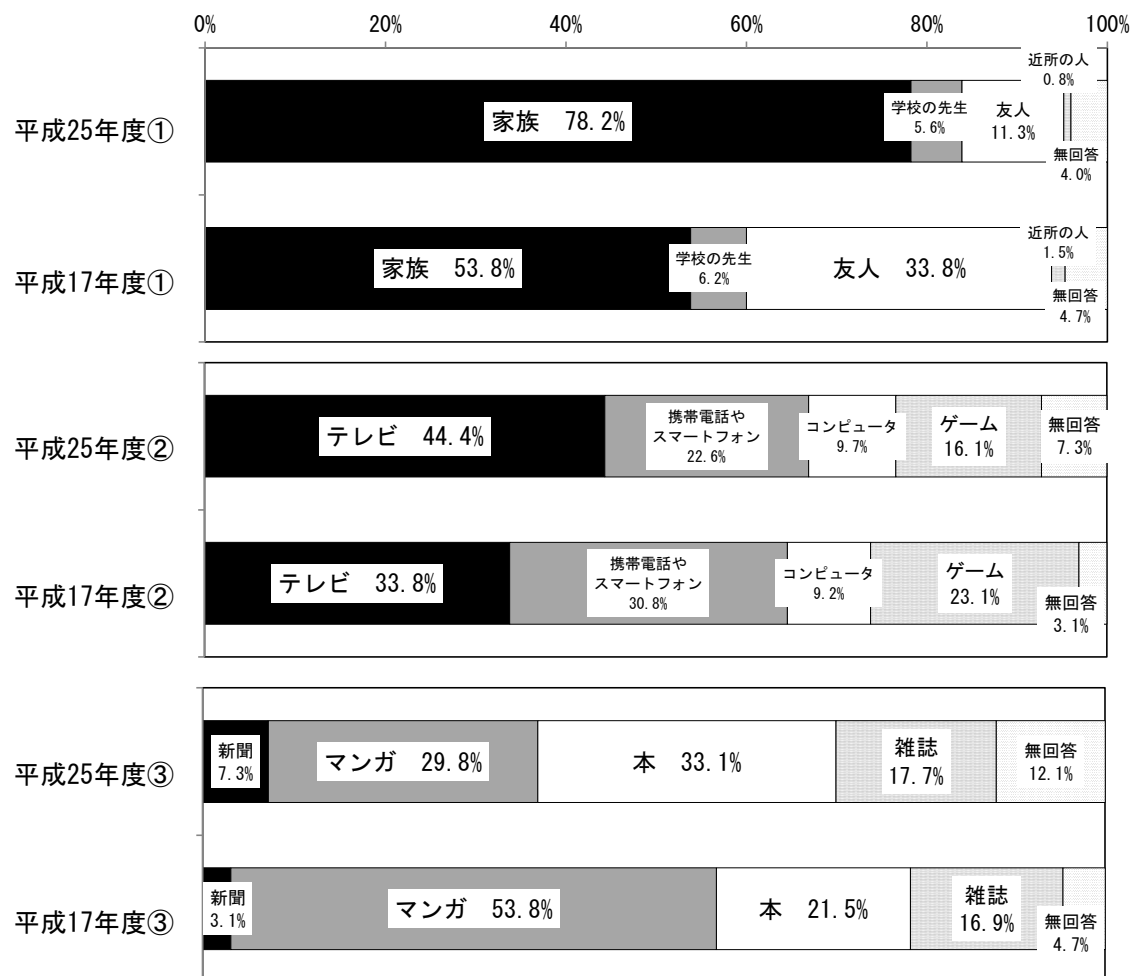
※ 「携帯電話やスマートフォン」・・・平成17年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成17年度調査 「インターネット」

図 I-30 自分とかかわりの深いもの(高校生)



※ 「携帯電話やスマートフォン」・・・平成 17 年度調査 「携帯電話」
 「コンピュータ」・・・平成 17 年度調査 「インターネット」

図 I-31 自分とかかわりの深いもの(特別支援学校児童・生徒 平成25年度 n=124、平成17年度 n=65)



I-3 夢中になれるとき

小中高生には「夢中になれるとき、充実感を感じられるとき」を、特別支援学校児童・生徒には「楽しいと感じるとき」についてそれぞれ聞いたところ、小中学生は「友だちと遊んだり、話したりしているとき」、「趣味など自分の好きなことをしているとき」、「スポーツをしているとき」の順に、高校生では「趣味など自分の好きなことをしているとき」、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」、「スポーツをしているとき」の順に回答の割合が高くなっている。また、特別支援学校児童・生徒では、「自分の好きなことをしているとき」、「友だちといっしょにいるとき」、「好きな先生の授業を受けているとき」と「スポーツをしているとき」の順に回答の割合が高くなっている。

小中高生が考える『夢中になれるとき』について平成17年度調査結果と比較すると、小中学生の回答で最も割合が高かったのはいずれの調査においても「友だちと遊んだり、話したりしているとき」であり、平成25年度調査では小学生：64.6%、中学生：71.5%であり、平成17年度調査では小学生：71.7%、中学生：73.9%であった。高校生の回答は平成25年度調査では「趣味など自分の好きなことをしているとき」(73.2%)であり、平成17年度調査では「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(74.4%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成25年度調査では「自分の好きなことをしているとき」(75.0%)であり、平成17年度調査では「友だちといっしょにいるとき」(69.2%)であった。

『夢中になれるとき』について児童・生徒に聞いたところ、小中学生は「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(小学生：64.6%、中学生：71.5%)、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(小学生：60.4%、中学生：69.9%)、「スポーツをしているとき」(小学生：43.3%、中学生：44.2%)の順に回答の割合が高く、高校生では「趣味など自分の好きなことをしているとき」(73.2%)、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(70.5%)、「スポーツをしているとき」(38.4%)の順となっている。

『楽しいと感じるとき』について特別支援学校児童・生徒に聞いたところ、「自分の好きなことをしているとき」(75.0%)、「友だちといっしょにいるとき」(53.2%)、「好きな先生の授業を受けているとき」(33.1%)、「スポーツをしているとき」(33.1%)の順に回答の割合が高くなっている。(図 I-32, 33 参照)

図 I-32 夢中になれるとき(小中高生)

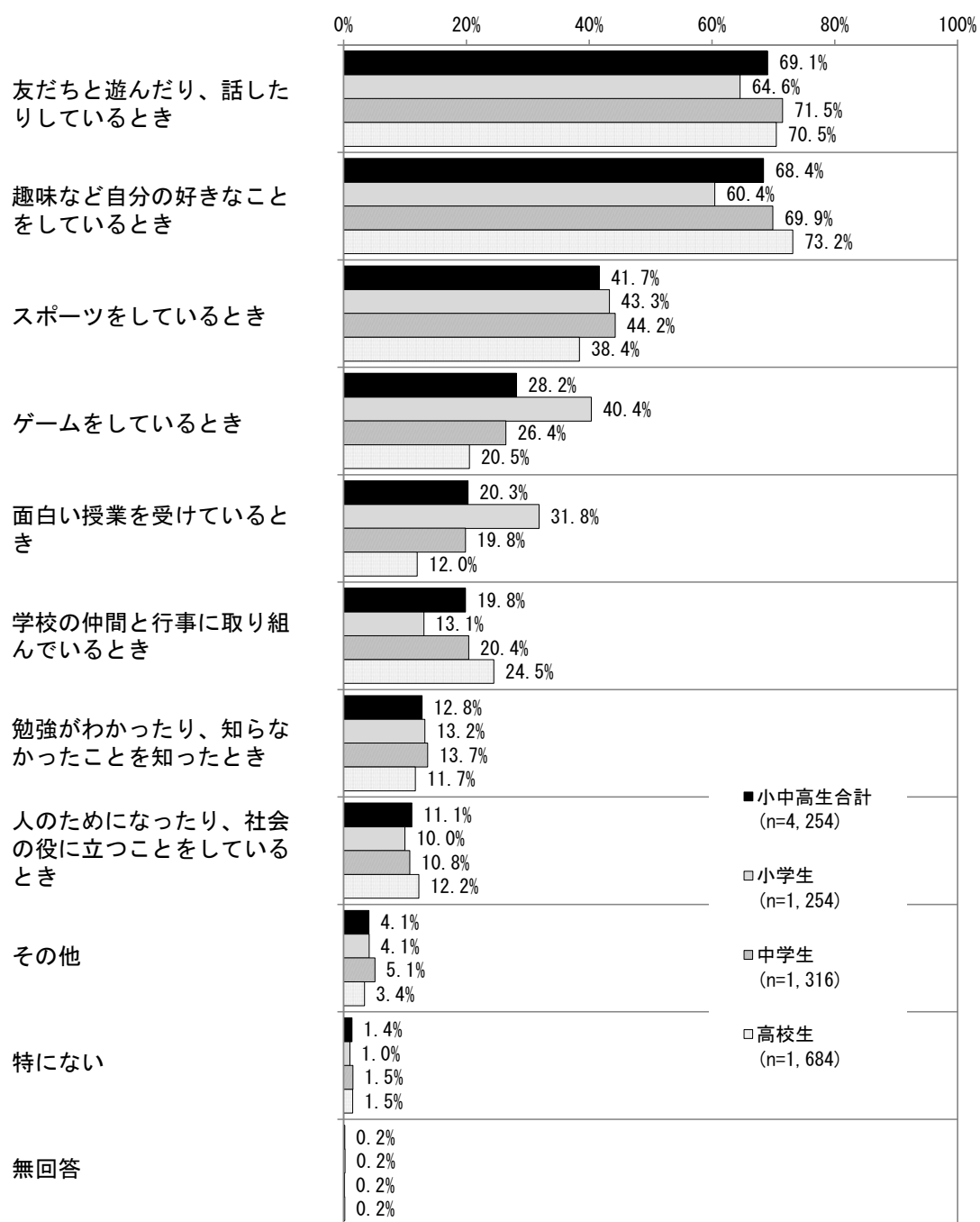
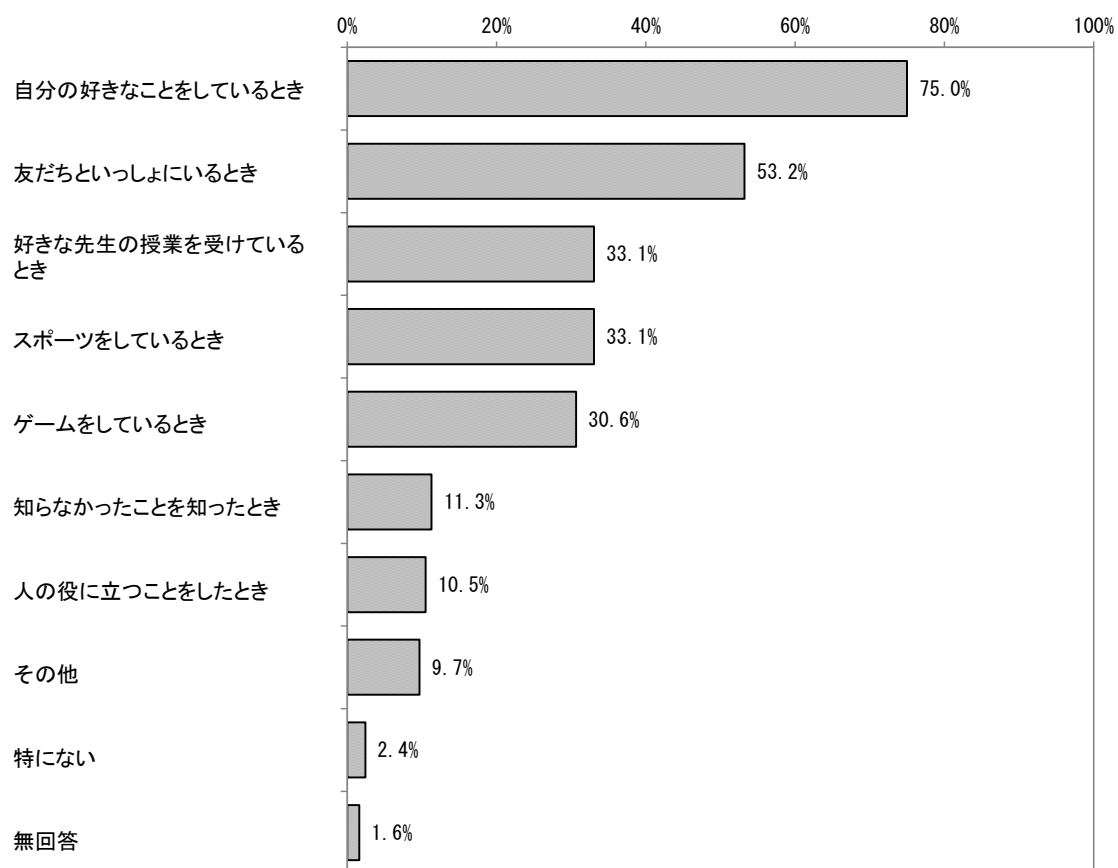


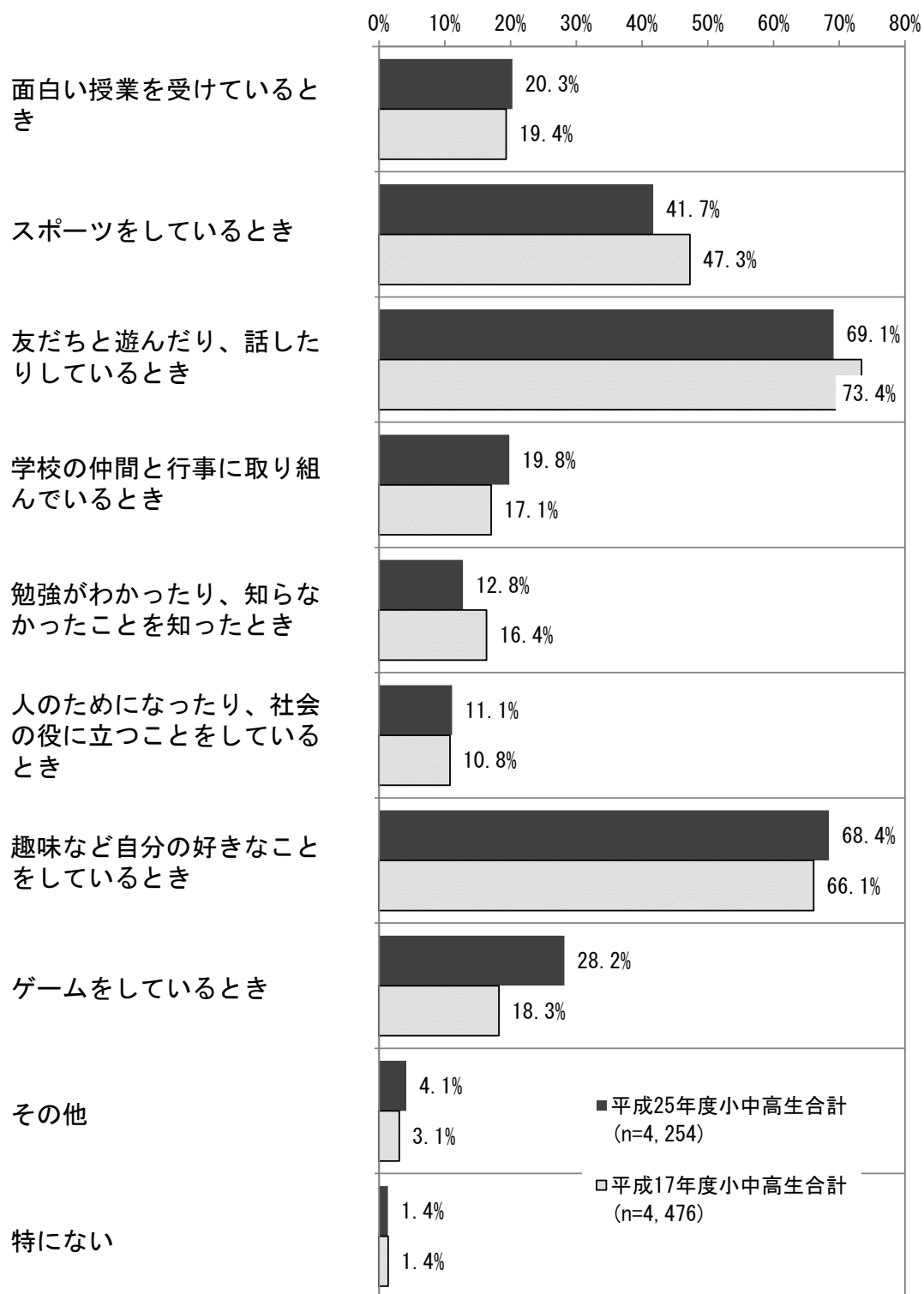
図 I-33 楽しいと感じるとき(特別支援学校児童・生徒 n=124)



小中高生が考える『夢中になれるとき』について平成 17 年度調査結果と比較すると、小中学生の回答は平成 25 年度調査では「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(小学生:64.6%、中学生:71.5%)、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(小学生:60.4%、中学生:69.9%)、「スポーツをしているとき」(小学生:43.3%、中学生:44.2%)であり、平成 17 年度調査では「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(小学生:71.7%、中学生:73.9%)、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(小学生:61.2%、中学生:66.8%)、「スポーツをしているとき」(小学生:44.3%、中学生:53.0%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「趣味など自分の好きなことをしているとき」(73.2%)、「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(70.5%)、「スポーツをしているとき」(38.4%)であり、平成 17 年度調査では「友だちと遊んだり、話したりしているとき」(74.4%)、「趣味など自分の好きなことをしているとき」(69.7%)、「スポーツをしているとき」(44.8%)であった。

特別支援学校児童・生徒が考える『楽しいと感じるとき』について、平成 25 年度調査では「自分の好きなことをしているとき」(75.0%)、「友だちといっしょにいるとき」(53.2%)、「好きな先生の授業を受けているとき」(33.1%)、「スポーツをしているとき」(33.1%)であり、平成 17 年度調査では「友だちといっしょにいるとき」(69.2%)、「自分の好きなことをしているとき」(56.9%)、「ゲームをしているとき」(41.5%)であった。

図 I-34 夢中になれるとき(小中高生合計)



※「スポーツをしているとき」・・・平成17年度調査「スポーツで体を動かしているとき」

図 I-35 夢中になれるとき(小学生)

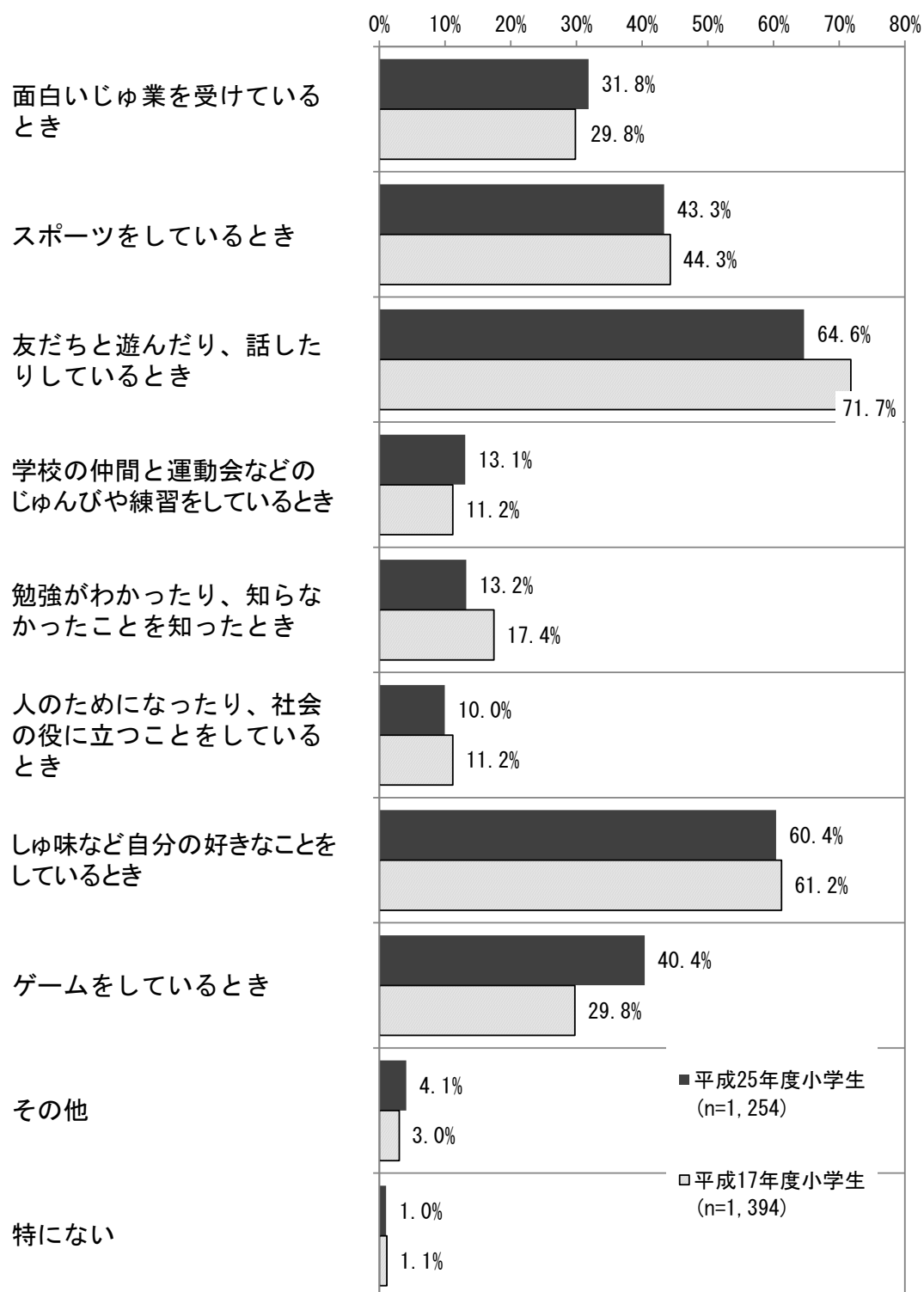


図 I-36 夢中能れるとき(中学生)

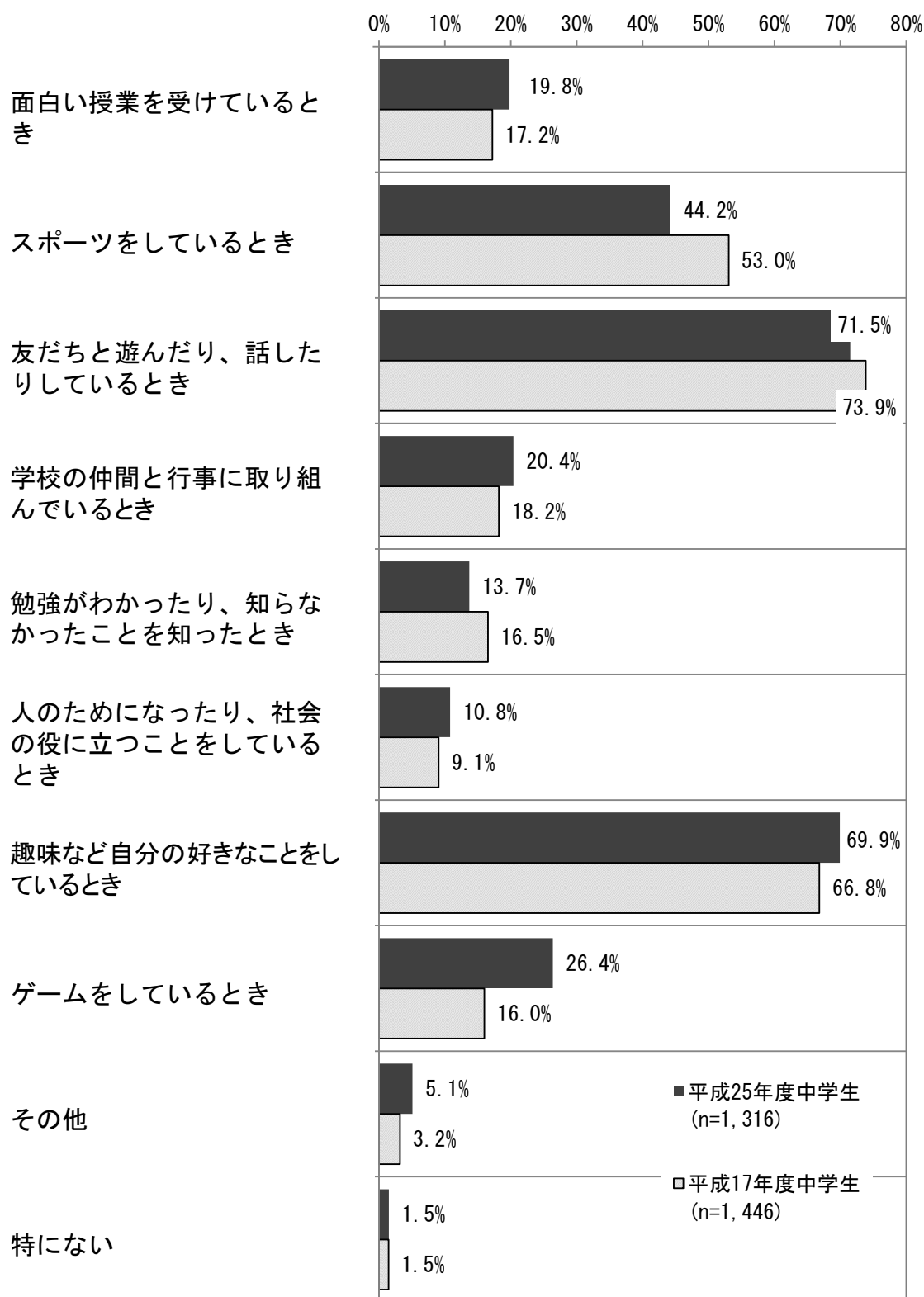


図 I-37 夢中になれるとき(高校生)

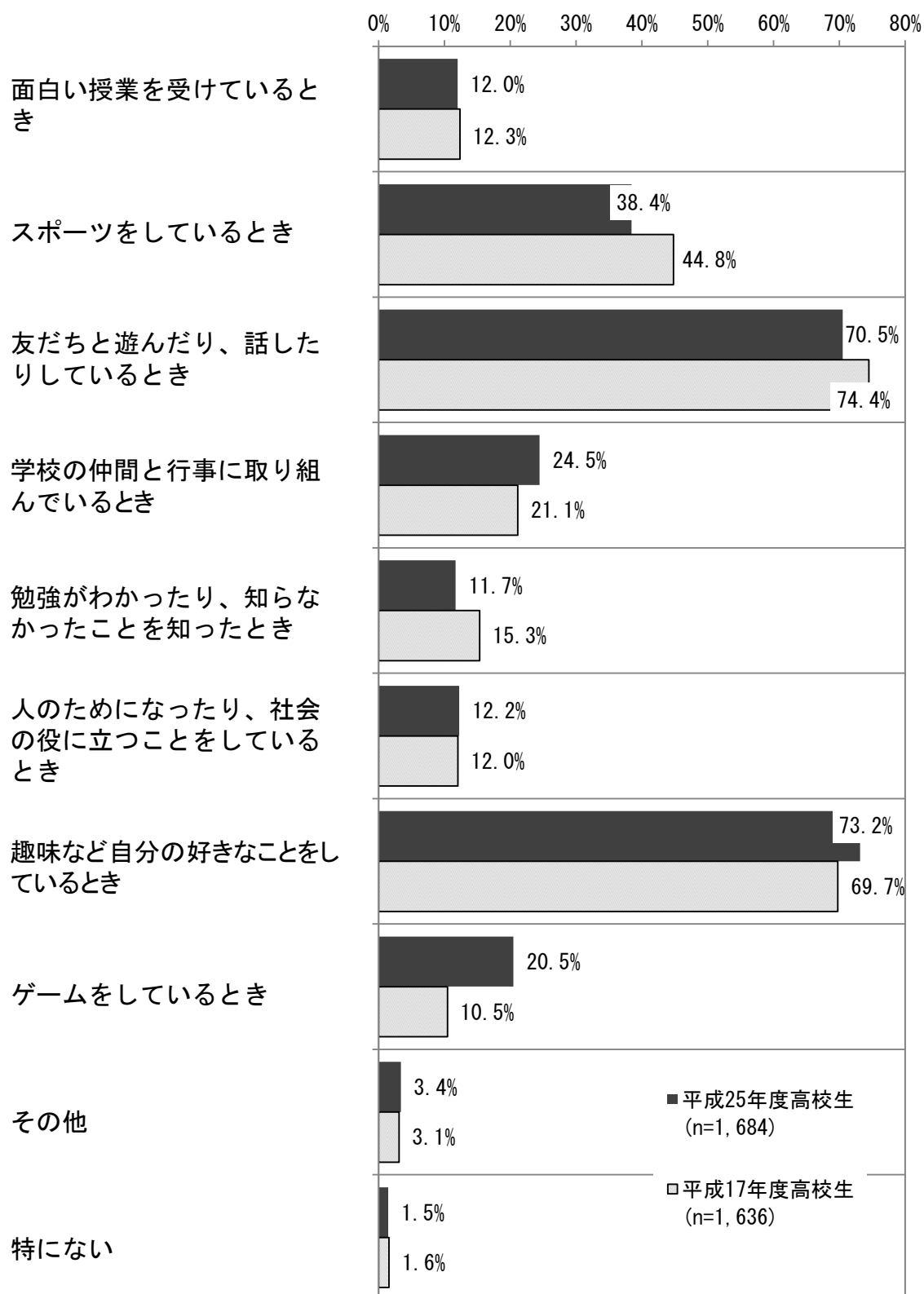
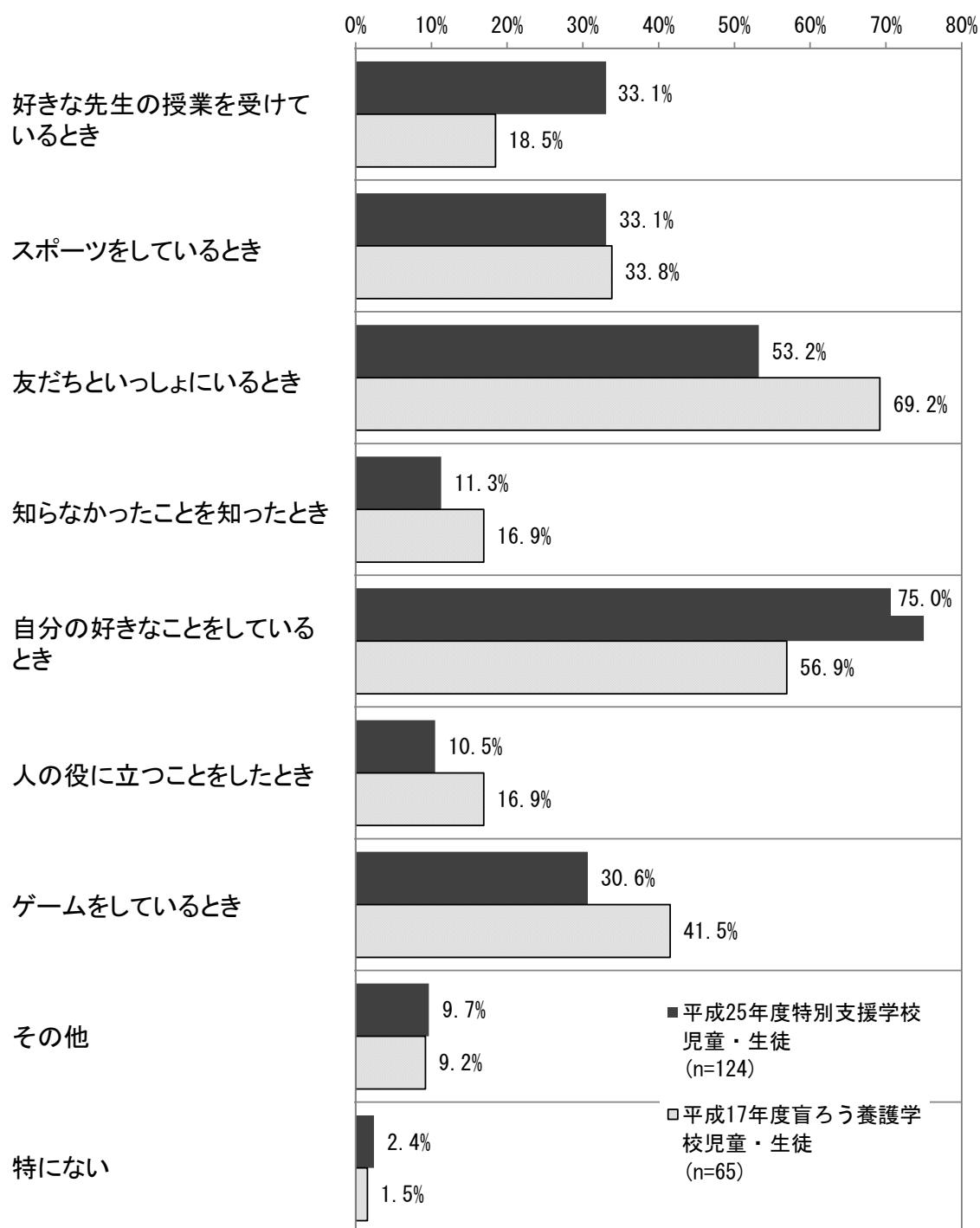


図 I-38 楽しいと感じるとき(特別支援学校児童・生徒)



I-4 悩んでいること

子どもに『悩んでいること』について聞いたところ、小学生の回答は「悩みはない」、「将来のこと」、「友だちのこと」の順に多く、中学生では「将来のこと」、「悩みはない」、「友だちのこと」、高校生では「将来のこと」、「悩みはない」、「学校のこと」の順となっている。特別支援学校児童・生徒の回答は、「将来のこと」、「悩みはない」、「その他」と続いている。

平成17年度調査結果と比較すると、小学生の回答で最も割合の高かったのはいずれの調査においても「悩みはない」であり、平成25年度調査では45.1%、平成17年度調査では36.7%であった。中学生及び特別支援学校児童・生徒の回答で最も割合の高かったのはいずれの調査においても「将来のこと」であり、平成25年度調査では中学生45.1%、高校生63.1%、特別支援学校児童・生徒28.2%であり、平成17年度調査では中学生50.1%、高校生65.9%、特別支援学校児童・生徒30.8%であった。

児童・生徒に『悩んでいること』を聞いたところ、小学生の回答は「悩みはない」(45.1%)、「将来のこと」(29.3%)、「友だちのこと」(19.4%)の順に多く、中学生では「将来のこと」(45.1%)、「悩みはない」(32.9%)、「友だちのこと」(19.5%)、高校生では「将来のこと」(63.1%)、「悩みはない」(19.8%)、「学校のこと」(17.2%)の順となっている。特別支援学校児童・生徒の回答は、「将来のこと」(28.2%)、「悩みはない」(25.0%)の次に「その他」(11.3%)と続いている。(表I-6、図I-39,40参照)

表 I-6 悩んでいること(上位5項目)

	小学生	中学生	高校生	特別支援学校 児童・生徒
1位	悩みはない 45.1%	将来のこと 45.1%	将来のこと 63.1%	将来のこと 28.2%
2位	将来のこと 29.3%	悩みはない 32.9%	悩みはない 19.8%	悩みはない 25.0%
3位	友だちのこと 19.4%	友だちのこと 19.5%	学校のこと 17.2%	その他 11.3%
4位	体のこと 15.2%	学校のこと 15.2%	友だちのこと 16.2%	学校のこと 9.7%
5位	家族のこと 10.7%	家族のこと 10.3%	家族のこと 10.2%	友だちのこと 6.5%

図 I-39 悩んでいること (小中高生)

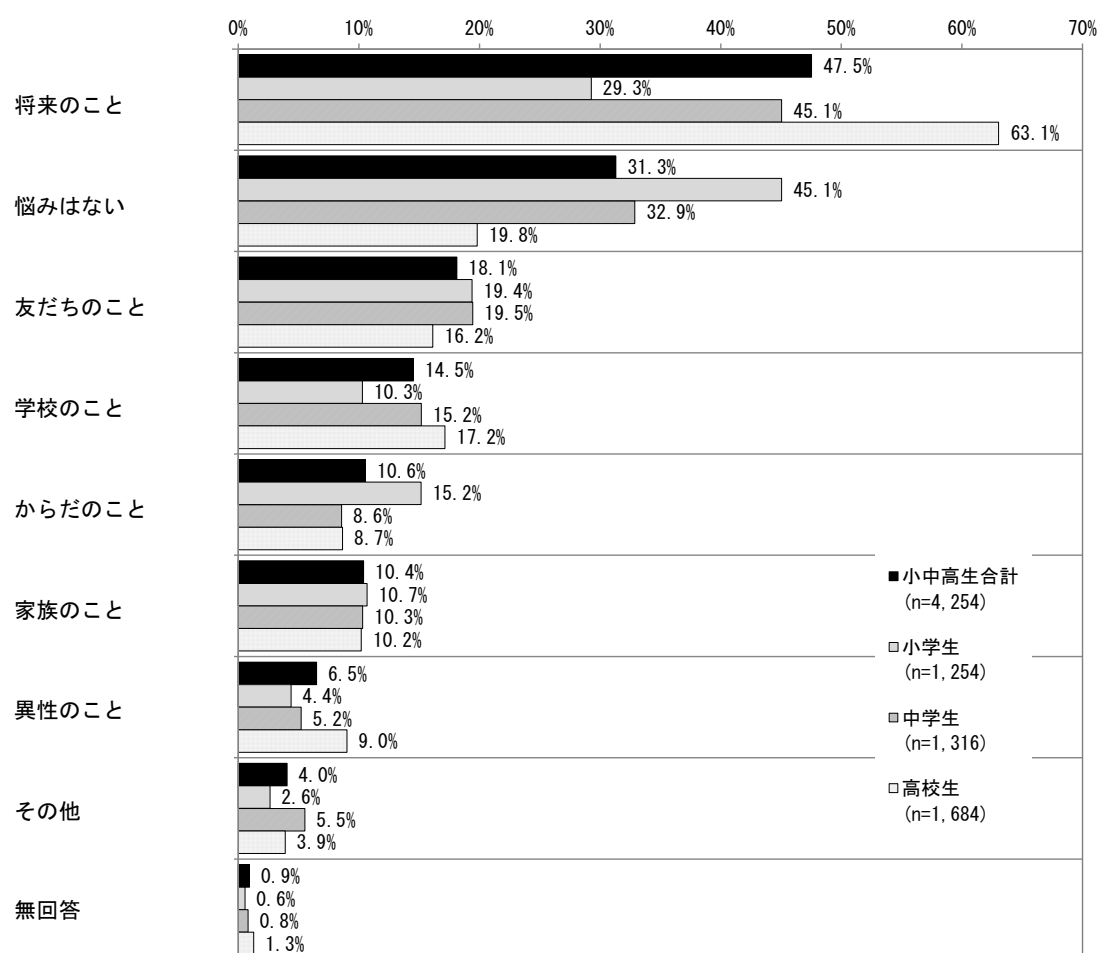
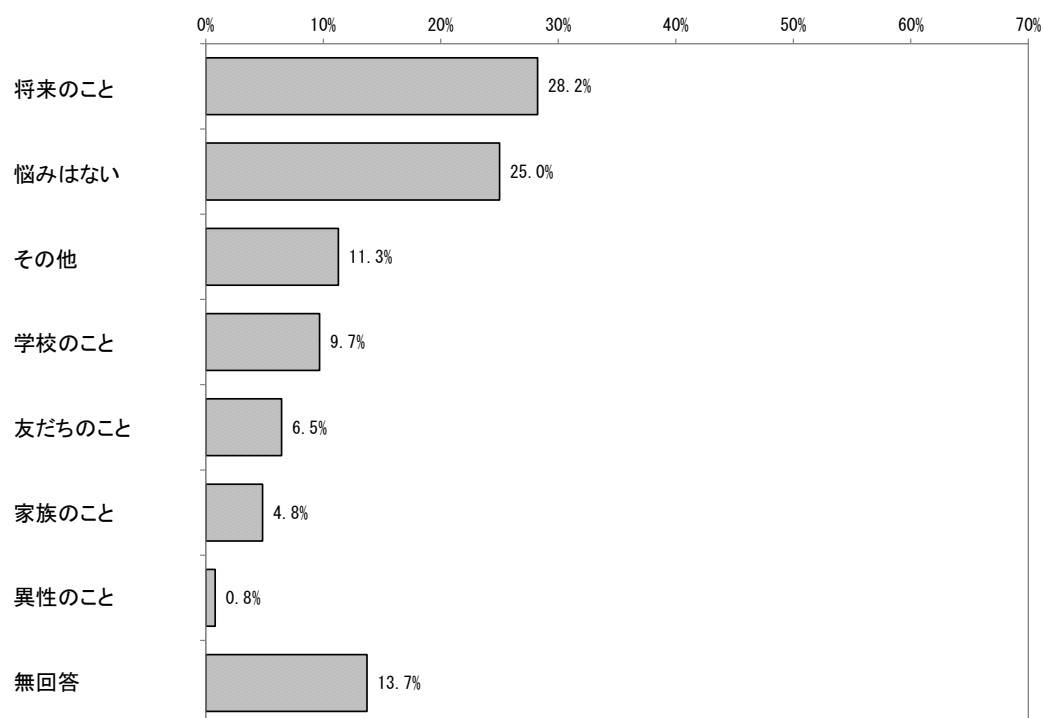


図 I-40 悩んでいること (特別支援学校児童・生徒 n=124)



<「その他」の主な回答>

・日々の生活のこと ・からだのこと など

児童・生徒が『悩んでいること』について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「悩みはない」(45.1%)、「将来のこと」(29.3%)、「友だちのこと」(19.4%)であり、平成 17 年度調査では「悩みはない」(36.7%)、「将来のこと」(31.8%)、「友だちのこと」(25.8%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「将来のこと」(45.1%)、「悩みはない」(32.9%)、「友だちのこと」(19.5%)であり、平成 17 年度調査では「将来のこと」(50.1%)、「悩みはない」(23.7%)、「友だちのこと」(23.0%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「将来のこと」(63.1%)、「悩みはない」(19.8%)、「学校のこと」(17.2%)であり、平成 17 年度調査では「将来のこと」(65.9%)、「学校のこと」(17.4%)、「友だちのこと」(17.2%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「将来のこと」(28.2%)、「悩みはない」(25.0%)、「その他」(11.3%)であり、平成 17 年度調査では「将来のこと」(30.8%)、「悩みはない」(29.2%)、「友だちのこと」、「家族のこと」、「その他」(いずれも 7.7%)であった。(図 I-41～45 参照)

図 I-41 悩んでいること(小中高生合計)

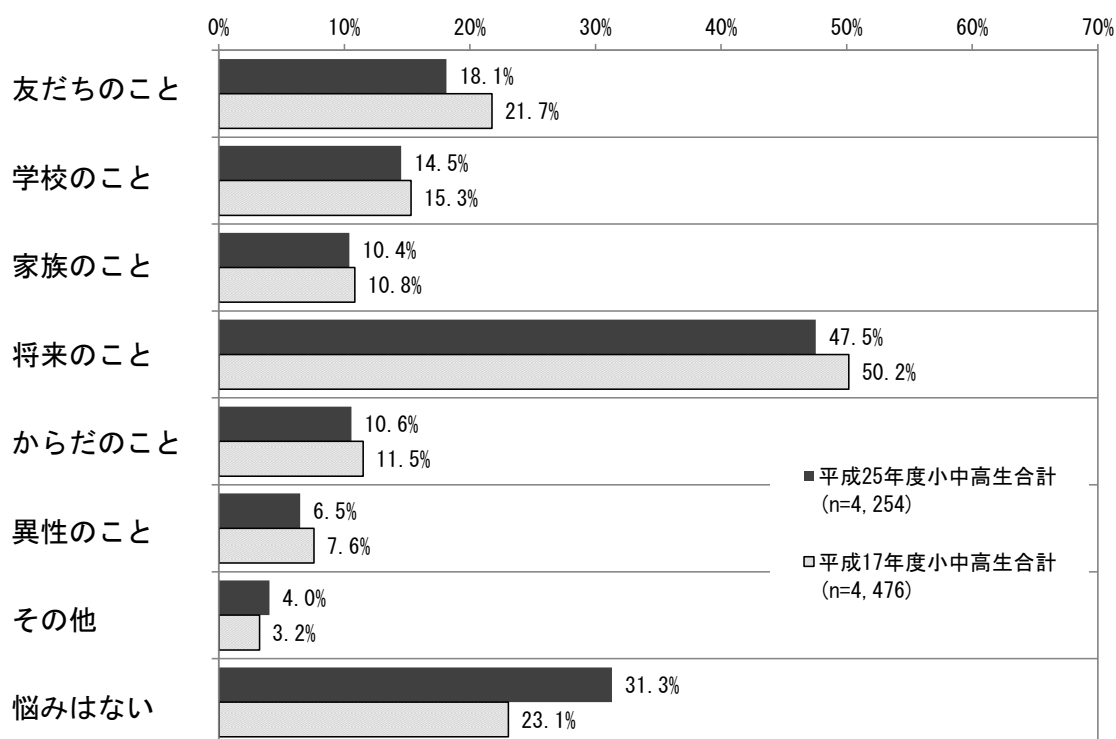


図 I-42 悩んでいること(小学生)

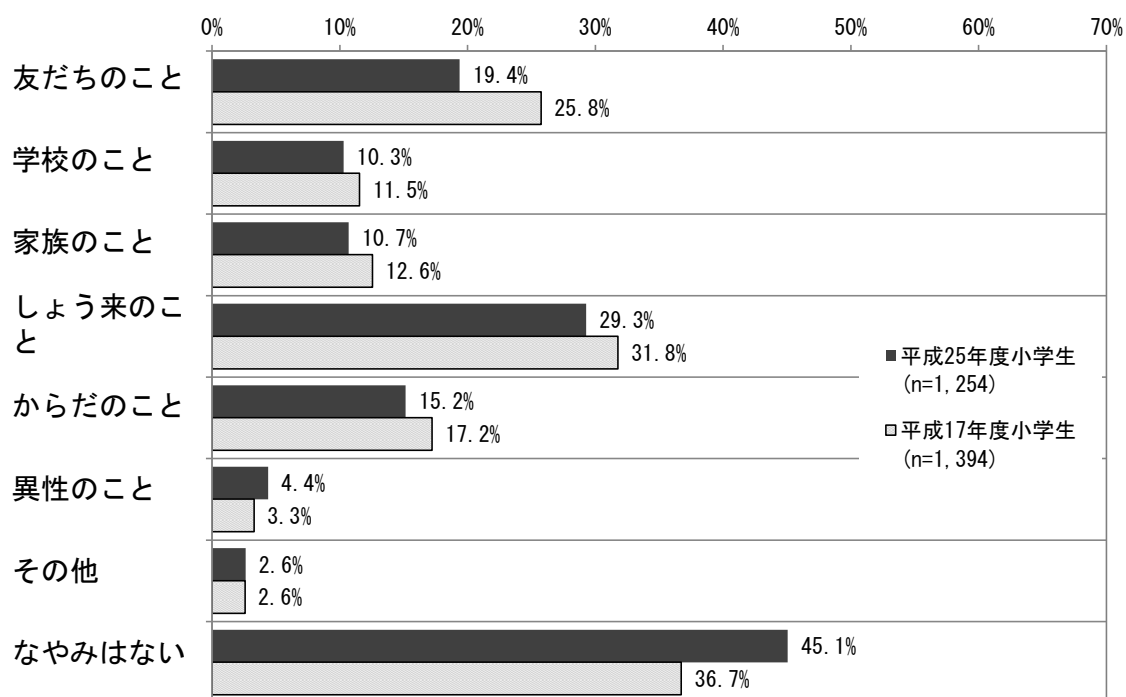


図 I-43 悩んでいること(中学生)

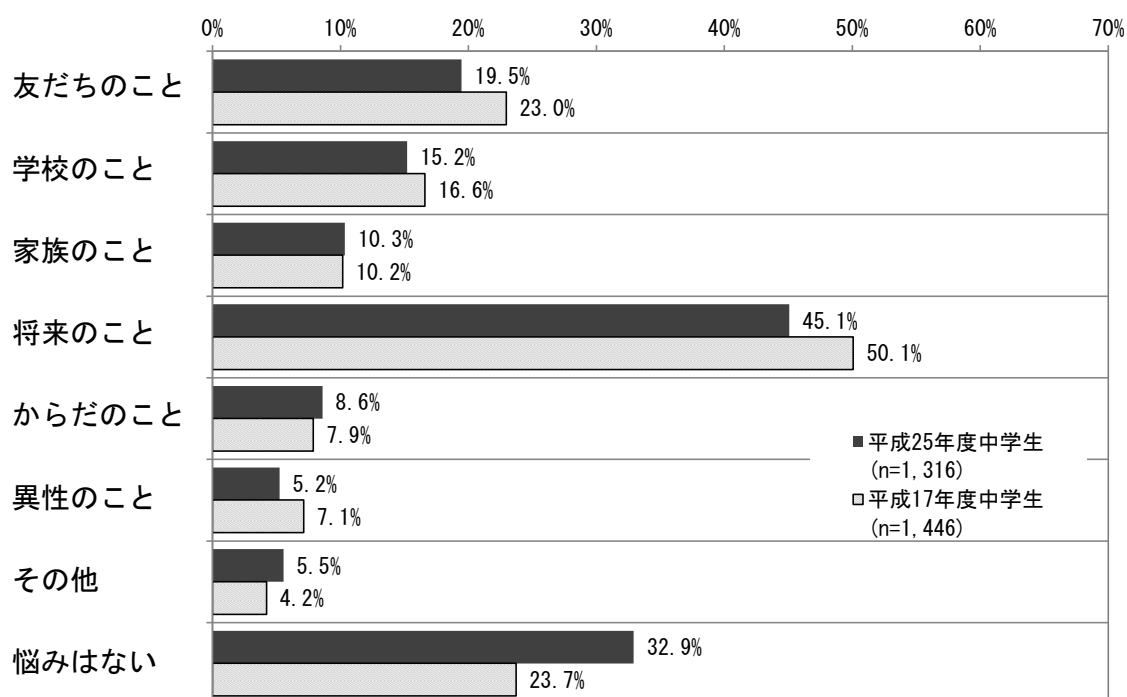


図 I-44 悩んでいること(高校生)

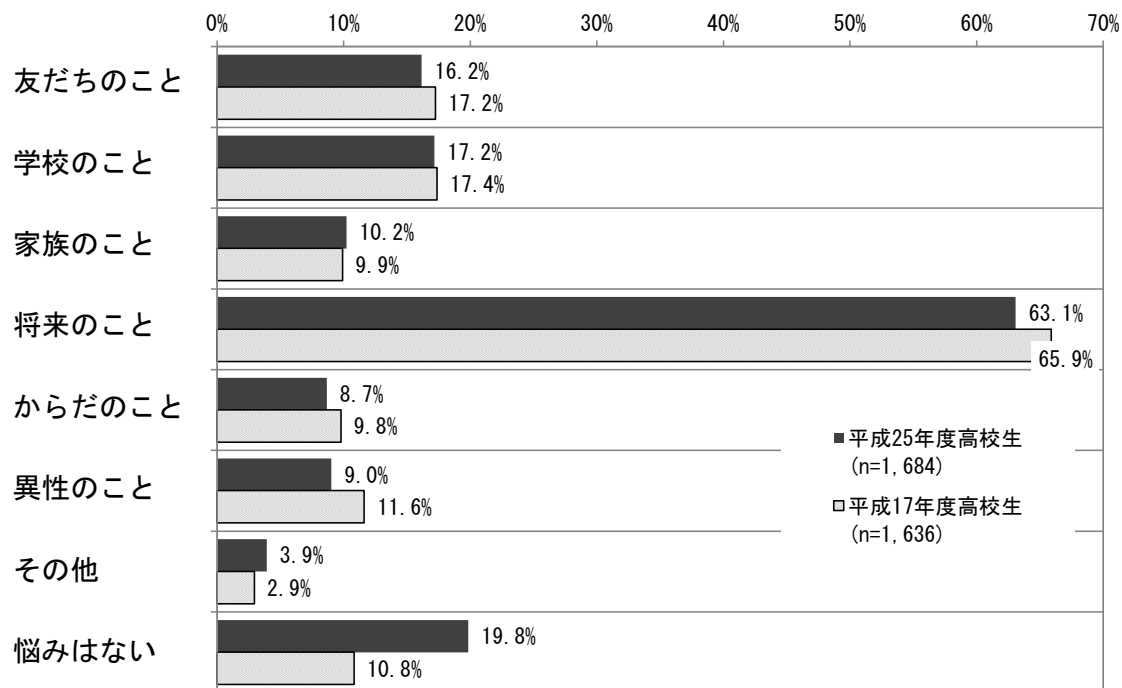
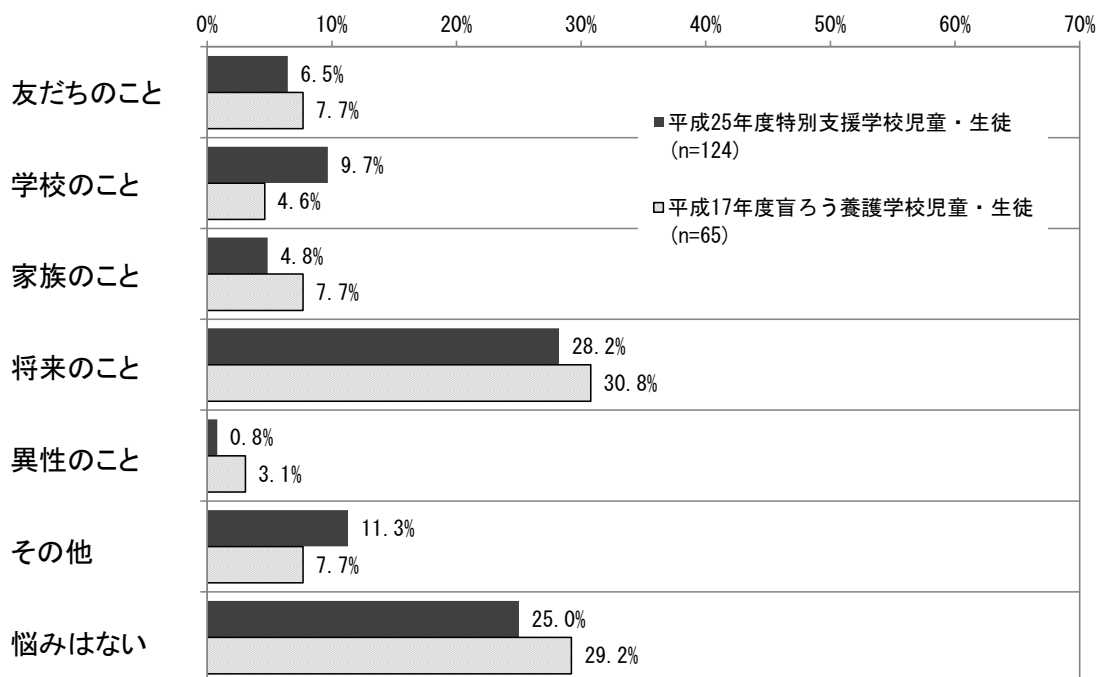


図 I-45 悩んでいること(特別支援学校児童・生徒)



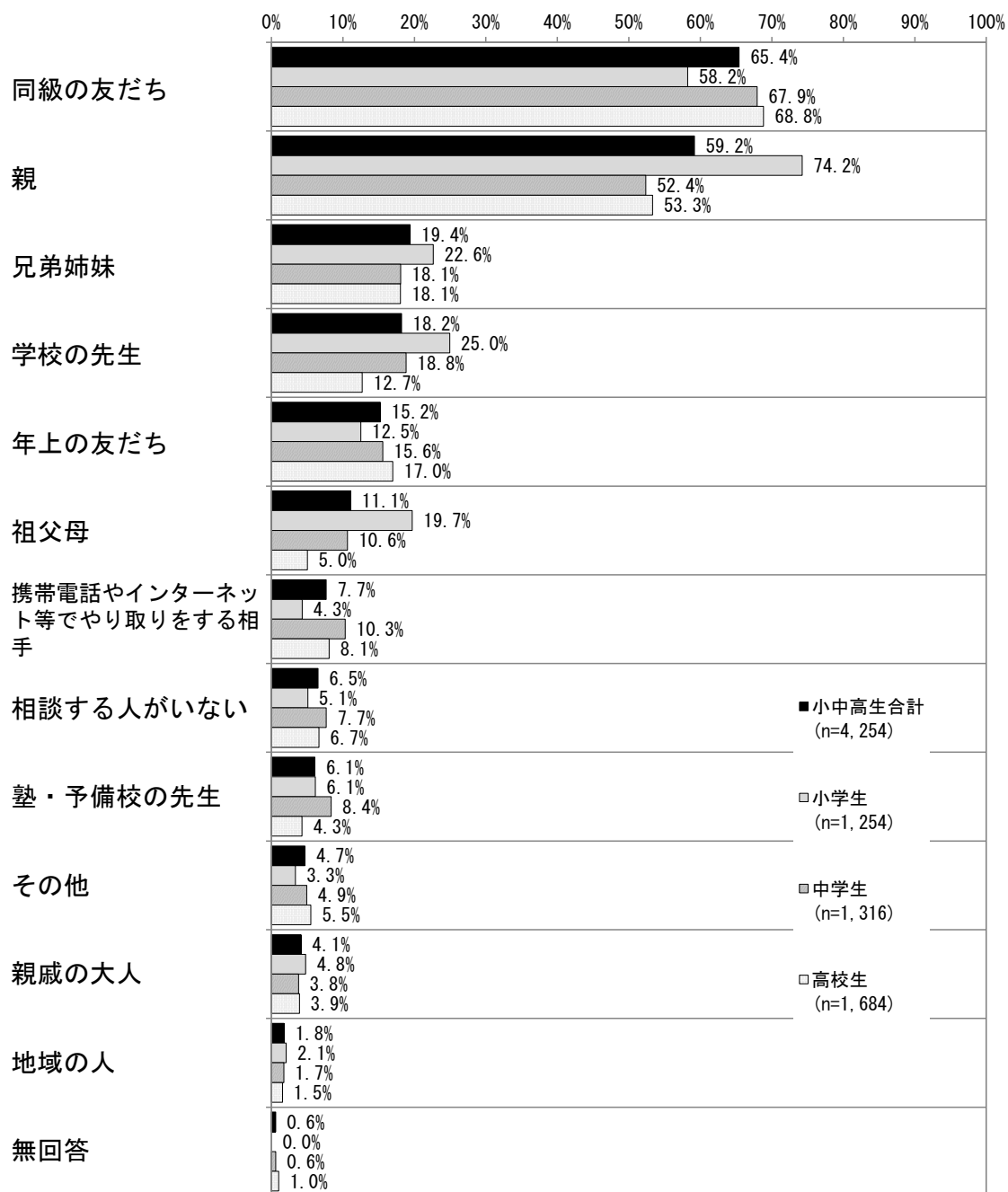
I - 5 相談相手

子どもに、悩んだときの『相談相手』について聞いたところ、小学生の回答は「親」、「同級の友だち」、「学校の先生」の順に多く、中学生では「同級の友だち」、「親」、「学校の先生」、高校生では「同級の友だち」、「親」、「兄弟姉妹」の順となっている。特別支援学校児童・生徒の回答は、「家族」、「学校の先生」、「同級の友だち」の順に割合が高くなっている。

平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答で最も割合の高かったのはいずれの調査においても「親」であり、平成 25 年度調査では 74.2%、平成 17 年度調査では 68.8%であった。中高生の回答で最も割合の高かったのはいずれの調査においても「同級の友だち」であり、平成 25 年度調査では中学生 67.9%、高校生 68.8%であり、平成 17 年度調査では中学生 70.5%、高校生 75.9%であった。特別支援学校児童・生徒の回答で最も割合の高かったのは、平成 25 年度調査では「家族」(62.1%)であり、平成 17 年度調査では「家族」(40.0%)であった。

『相談相手』について児童・生徒に聞いたところ、小学生の回答は「親」(74.2%)、「同級の友だち」(58.2%)、「学校の先生」(25.0%)の順に多く、中学生では「同級の友だち」(67.9%)、「親」(52.4%)、「学校の先生」(18.8%)、高校生では「同級の友だち」(68.8%)、「親」(53.3%)、「兄弟姉妹」(18.1%)の順となっている。特別支援学校児童・生徒の回答は、「家族」(62.1%)、「学校の先生」(41.1%)、「同級の友だち」(22.6%)の順に割合が高くなっている。(図 I-46, 47 参照)

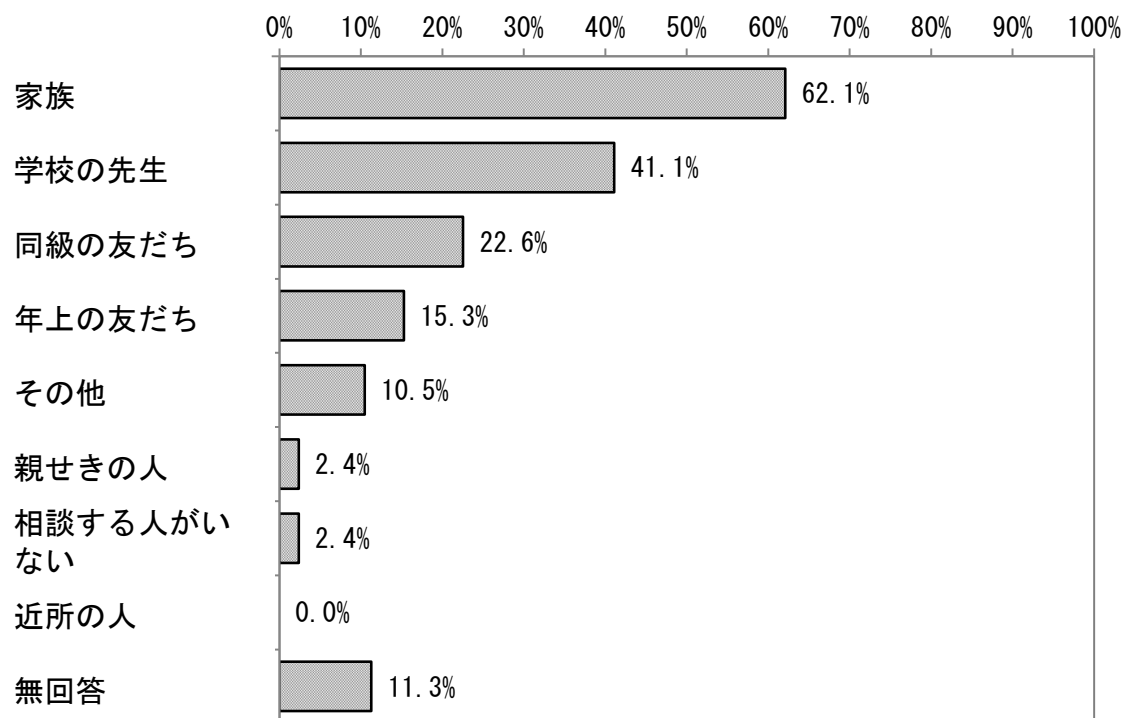
図 I-46 相談相手(小中高生)



< 「その他」の主な回答 >

[小中高生共通]	・いここ等	・年下の友だち		
[小学生]	・児童相談所の人	・塾の友だち		
[中学生]	・電話相談員	・塾の友だち	・カウンセラー	・恋人
[高校生]	・病院の先生	・カウンセラー	・恋人	など

図 I-47 相談相手(特別支援学校児童・生徒 n=124)

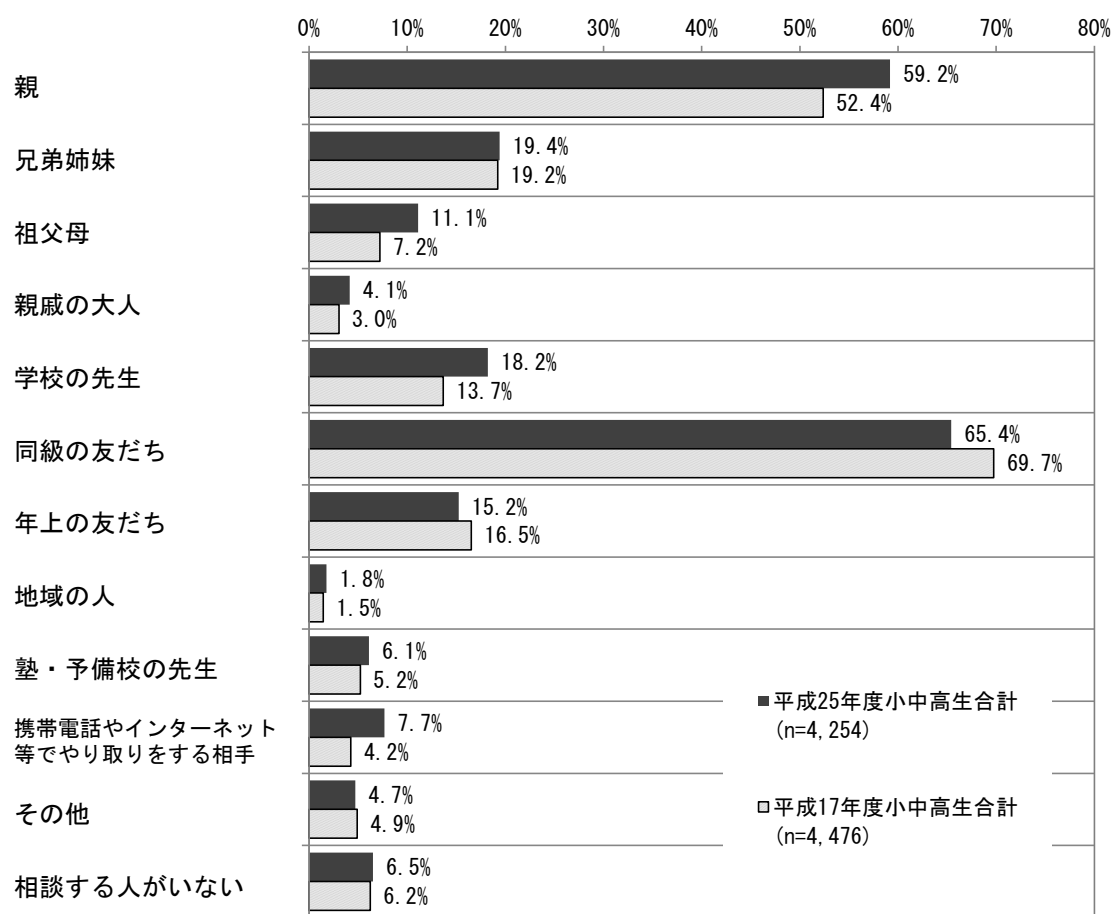


<「その他」の主な回答>

- ・カウンセラー
- ・施設の先生 など

児童・生徒の『相談相手』について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「親」(74.2%)、「同級の友だち」(58.2%)、「学校の先生」(25.0%)であり、平成 17 年度調査では「親」(68.8%)、「同級の友だち」(61.8%)、「兄弟や姉妹」(23.6%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「同級の友だち」(67.9%)、「親」(52.4%)、「学校の先生」(18.8%)であり、平成 17 年度調査では「同級の友だち」(70.5%)、「親」(47.2%)、「兄弟姉妹」(16.9%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「同級の友だち」(68.8%)、「親」(53.3%)、「兄弟姉妹」(18.1%)であり、平成 17 年度調査では「同級の友だち」(75.9%)、「親」(43.0%)、「年上の友だち」(18.9%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「家族」(62.1%)、「学校の先生」(41.1%)、「同級の友だち」(22.6%)であり、平成 17 年度調査では「家族」(40.0%)、「学校の先生」(29.2%)、「年上の友だち」(29.2%)であった。(図 I-48～52 参照)

図 I-48 相談相手(小中高生合計)



※「携帯電話やインターネット等でやり取りをする相手」

・・・平成 17 年度調査「インターネットやチャットの相手」

図 I-49 相談相手(小学生)

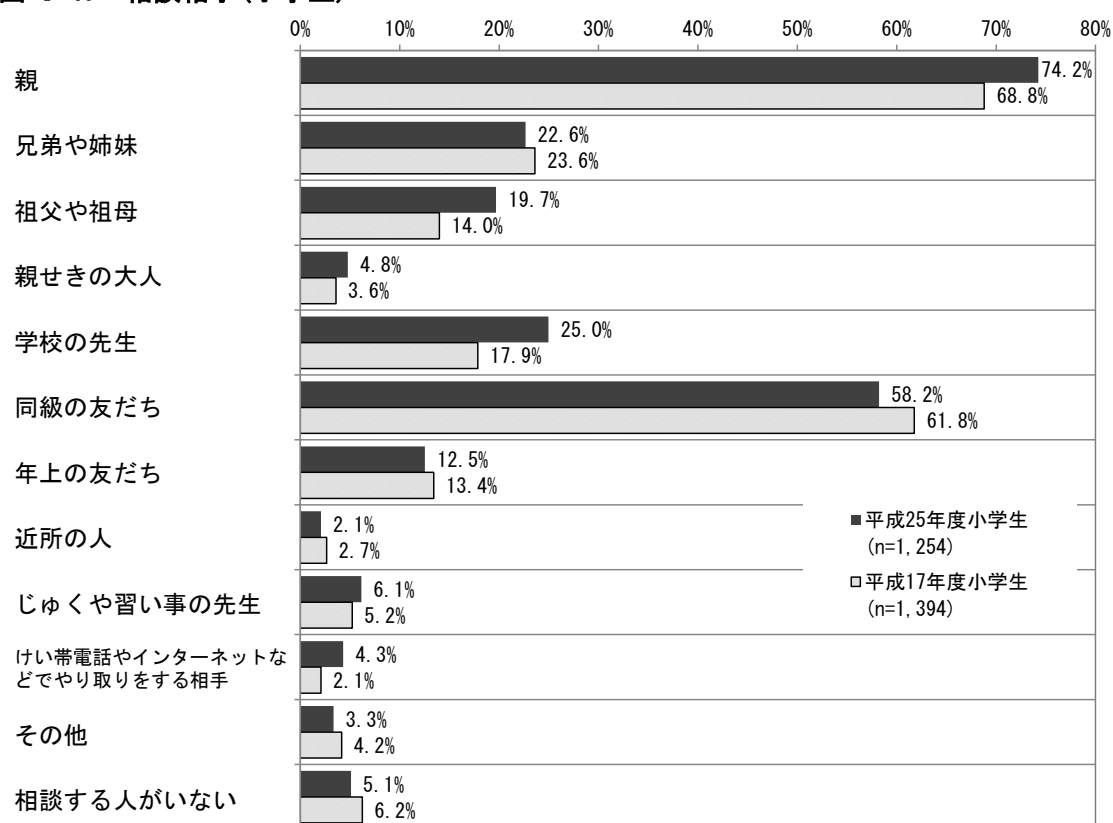


図 I-50 相談相手(中学生)

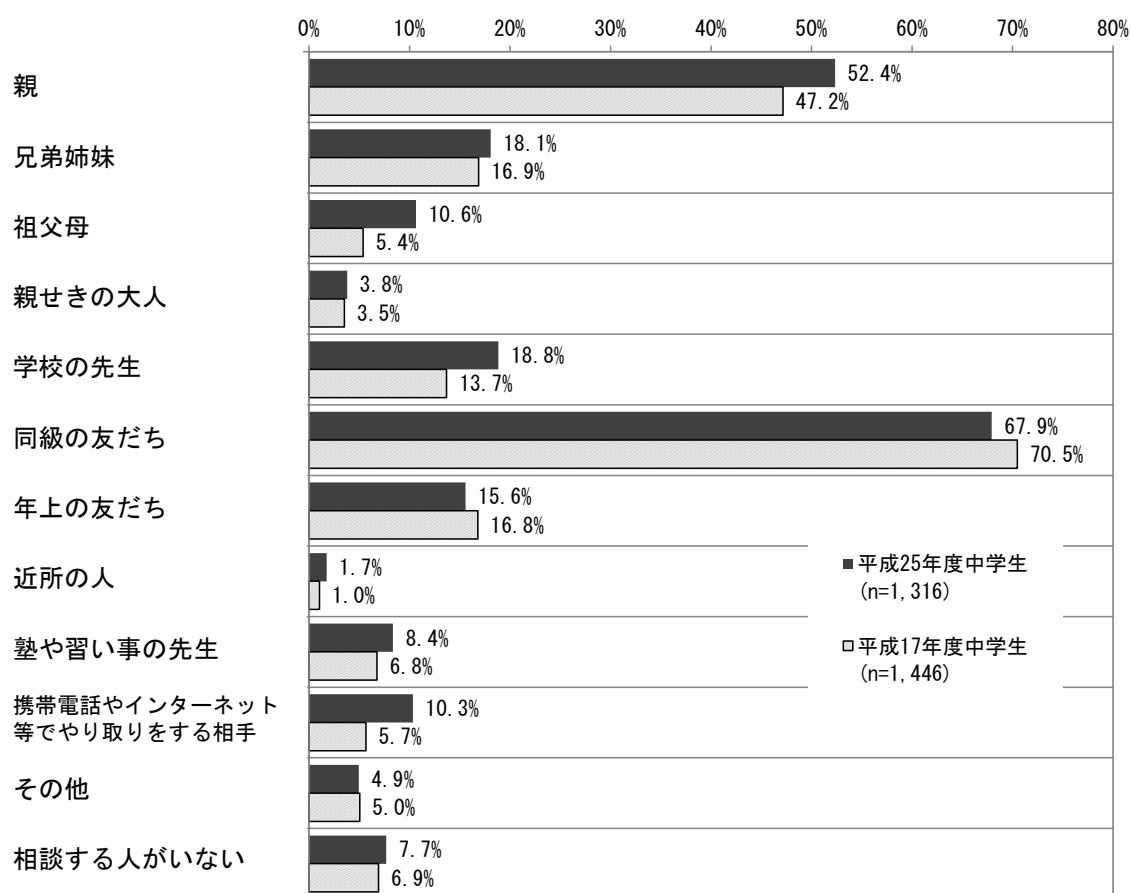


図 I-51 相談相手(高校生)

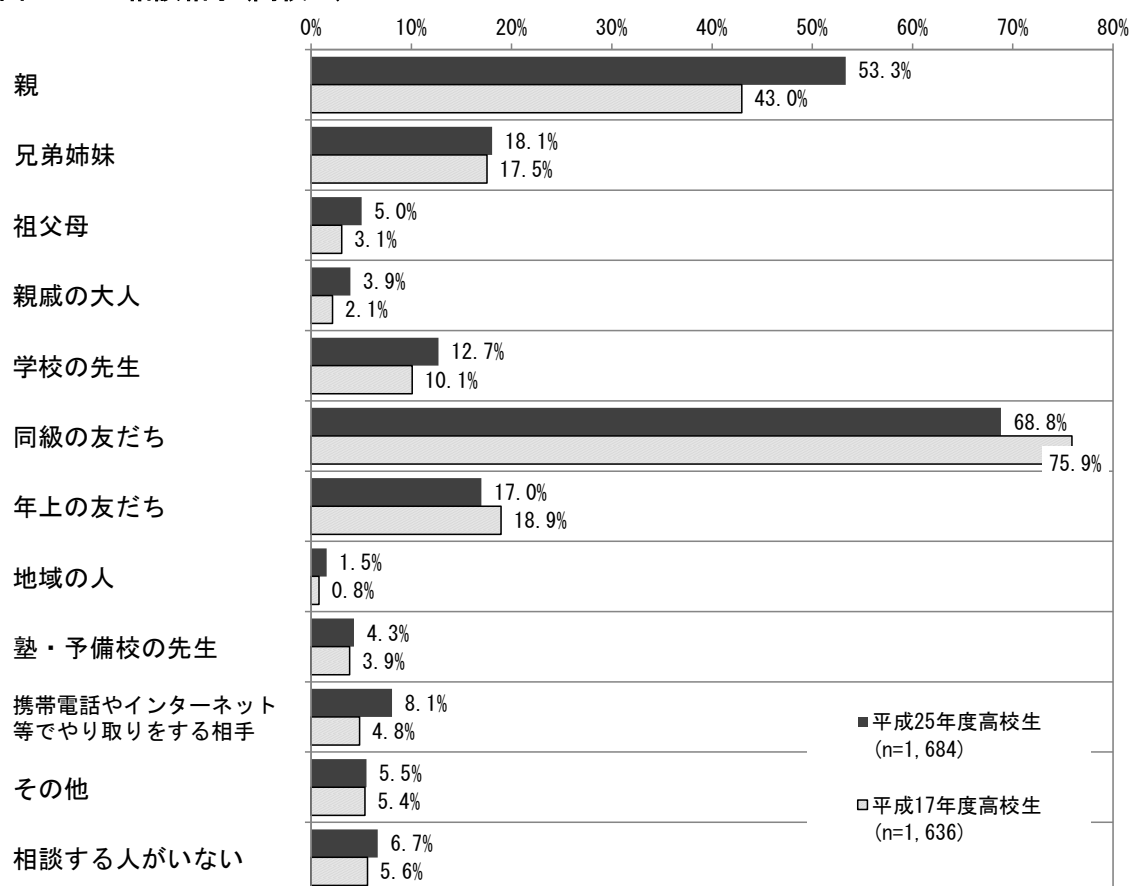
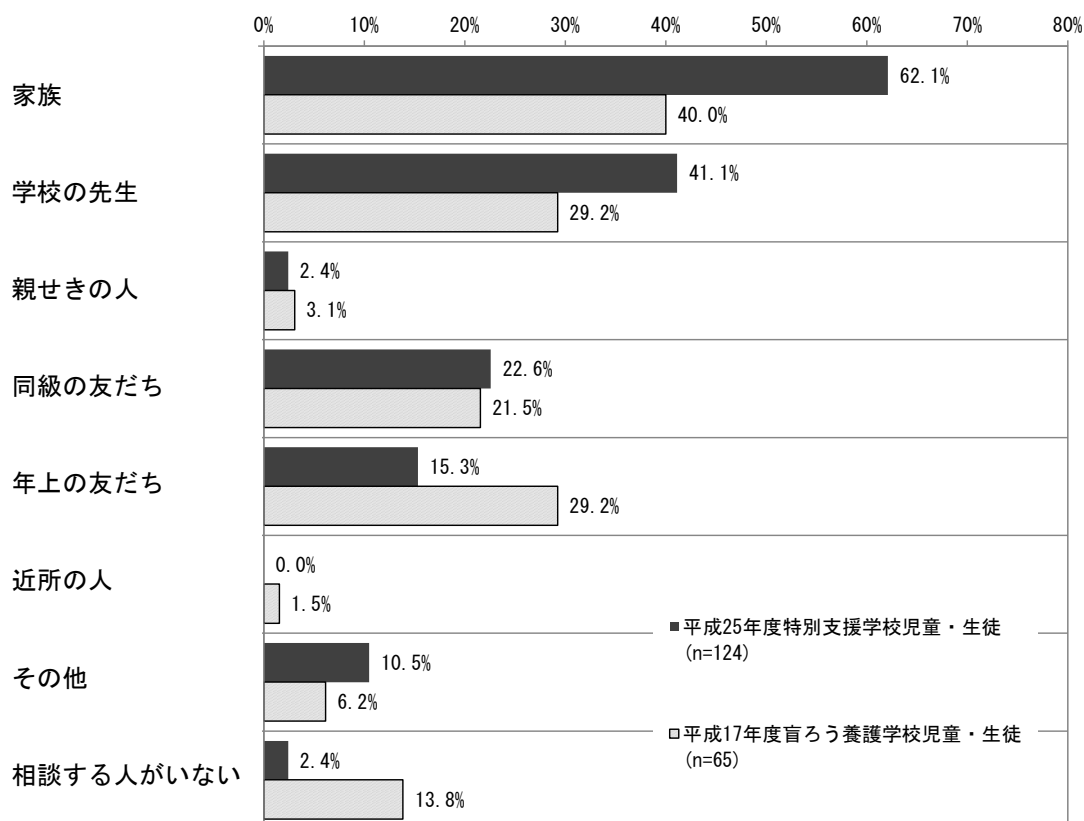


図 I-52 相談相手(特別支援学校児童・生徒)



I - 6 ルール・マナーの意識

『ルール・マナーの意識』について児童・生徒に聞いたところ、「よくないと思う」との回答の割合が高かった項目は、小学生では「インターネットやメールで人の悪口を書く」、「約束を守らない」、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」の順に多く、中学生では「万引きをする」、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」、「約束を守らない」の順が多かった。特別支援学校児童・生徒の回答では、「約束を守らない」、「人のものを勝手に使う」、「インターネットやメールで人の悪口を書く」、「遊ぶために夜遅く外出する」の割合が高かった。

それぞれの校種で、最も割合の高かった項目を平成 17 年度調査と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「インターネットやメールで人の悪口を書く」(95.5%)であり、平成 17 年度調査では「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(89.7%)であった。中学生ではいずれの調査においても「万引きをする」ことを「よくないと思う」と回答する割合が高く、平成 25 年度調査では中学生 95.4%、高校生 94.5%であり、平成 17 年度調査では中学生 93.4%、高校生 91.4%であった。特別支援学校児童・生徒の回答は、平成 25 年度調査では「約束を守らない」と「人のものを勝手に使う」が共に 86.3%と最も多く、平成 17 年度調査では「約束を守らない」が 96.9%であった。

『ルール・マナーの意識』について児童・生徒に聞いたところ、「よくないと思う」との回答の割合が高かった項目は、小学生では「インターネットやメールで人の悪口を書く」(95.5%)、「約束を守らない」(94.9%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(94.6%)の順に多く、中学生では「万引きをする」(95.4%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(89.5%)、「約束を守らない」(88.8%)、高校生では「万引きをする」(94.5%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(93.0%)、「約束を守らない」(90.4%)の順に多かった。特別支援学校児童・生徒の回答では、「約束を守らない」(86.3%)、「人のものを勝手に使う」(86.3%)、「インターネットやメールで人の悪口を書く」(81.5%)、「遊ぶために夜遅く外出する」(81.5%)の割合が高かった。(図 I-53～62 参照)

図 I-53 ルール・マナーの意識 ①約束を守らない(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

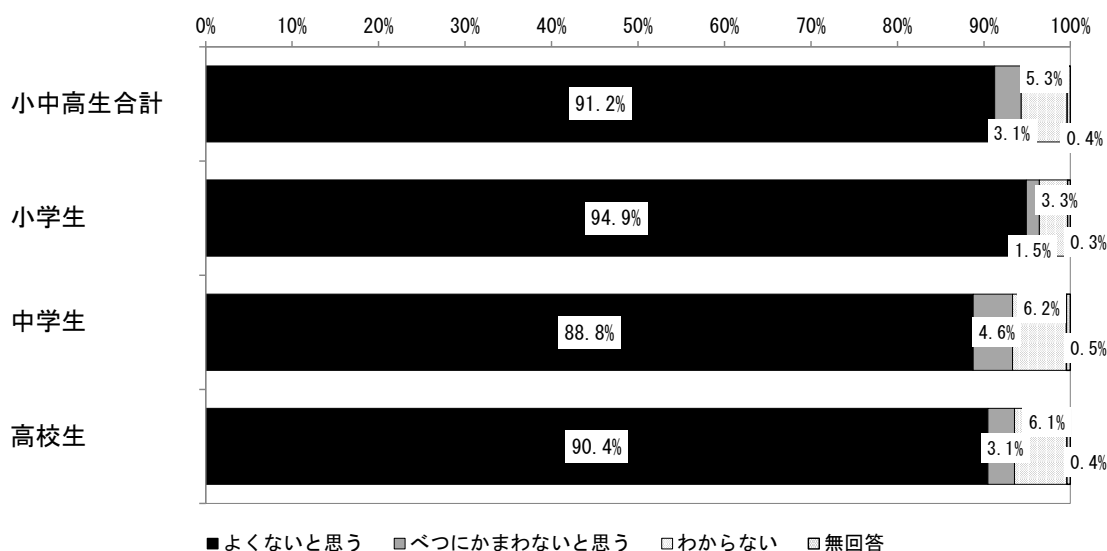


図 I-54 ルール・マナーの意識 ②電車の中で騒いだり、床に座り込む(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

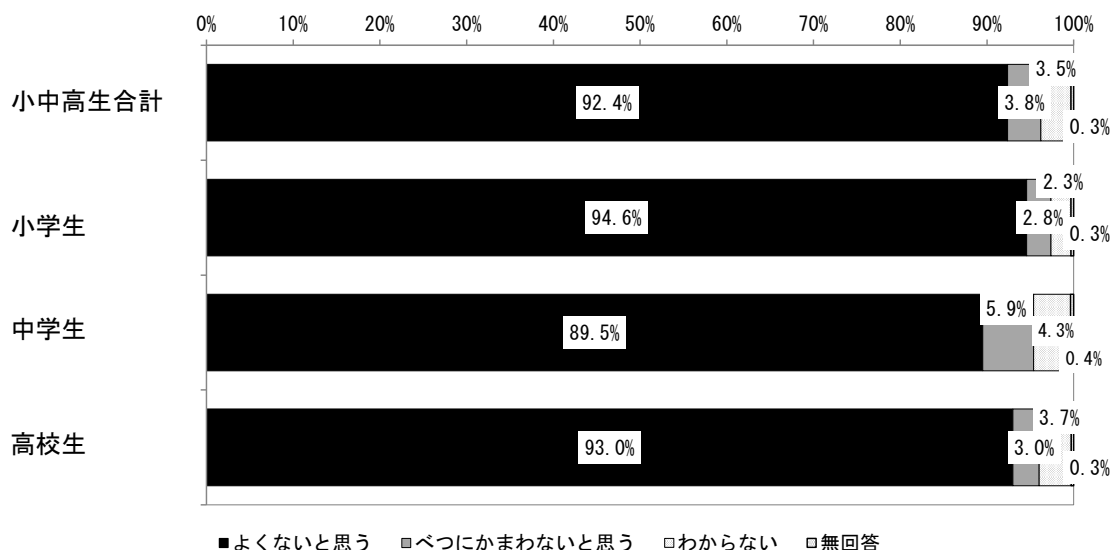


図 I-55 ルール・マナーの意識 ③小学生：電車の中で携帯電話をかける 中・高校生：電車の中で携帯電話をかけたり、化粧をする(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

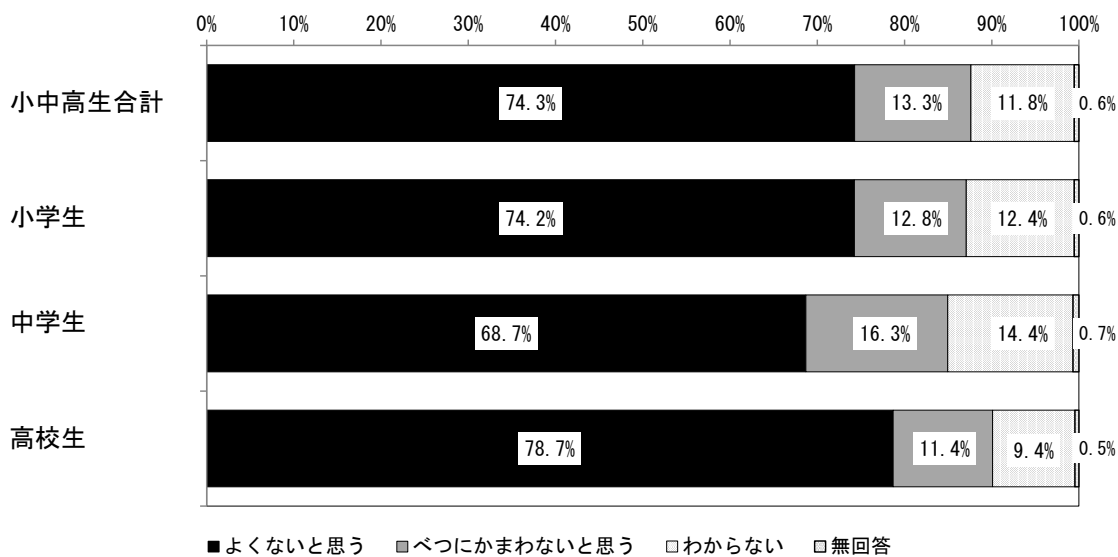


図 I-56 ルール・マナーの意識 ④注意されると無視したり反抗したりする(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

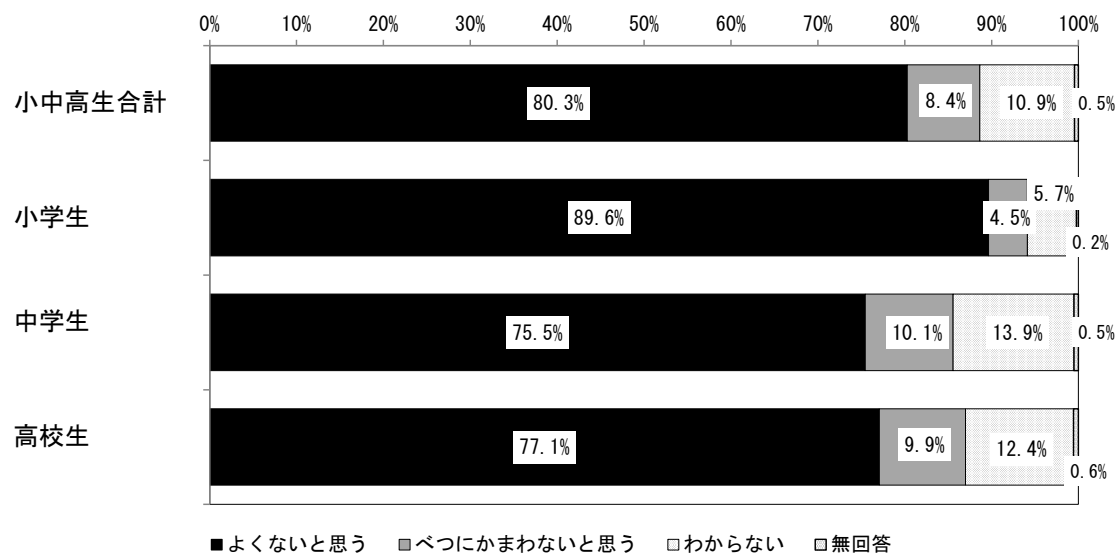


図 I-57 ルール・マナーの意識 ⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

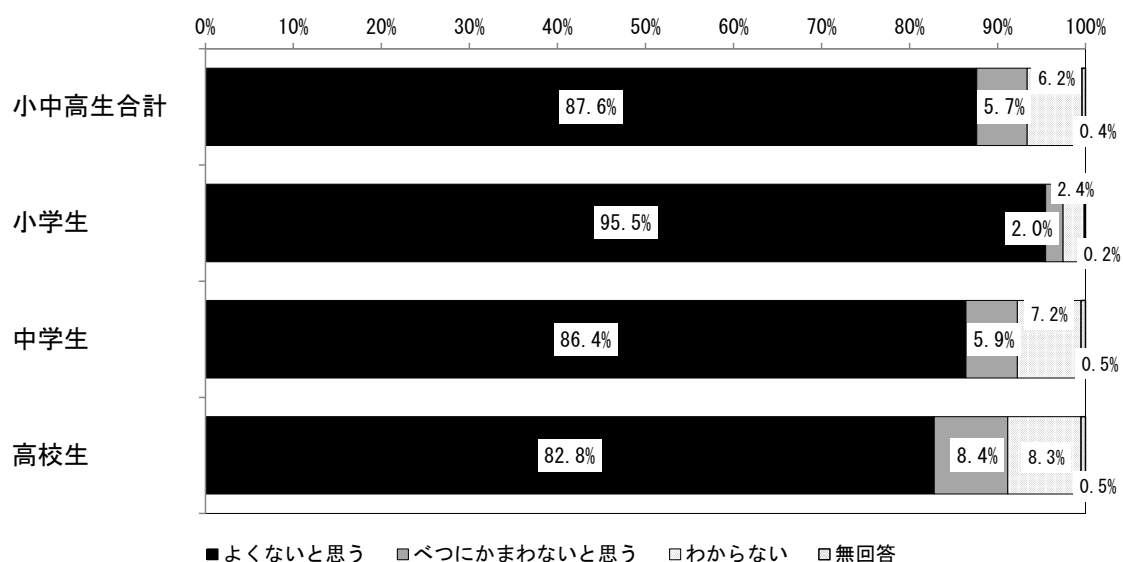


図 I-58 ルール・マナーの意識 ⑥人のものを勝手に使う(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

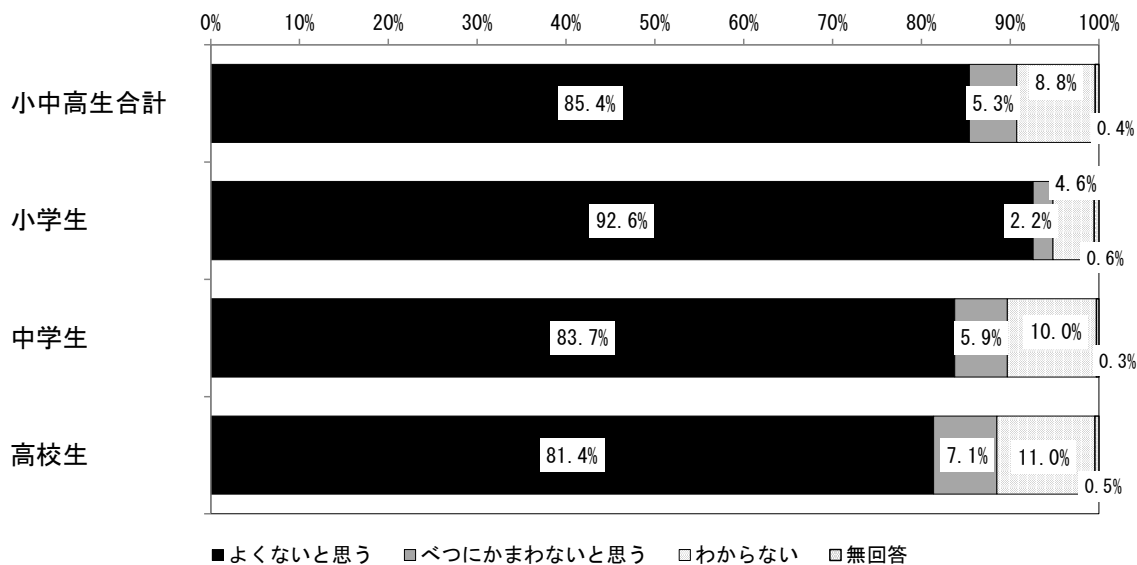


図 I-59 ルール・マナーの意識 ⑦遊ぶために夜遅く外出する(小中高生合計 n=4,254 小学生 n=1,254 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

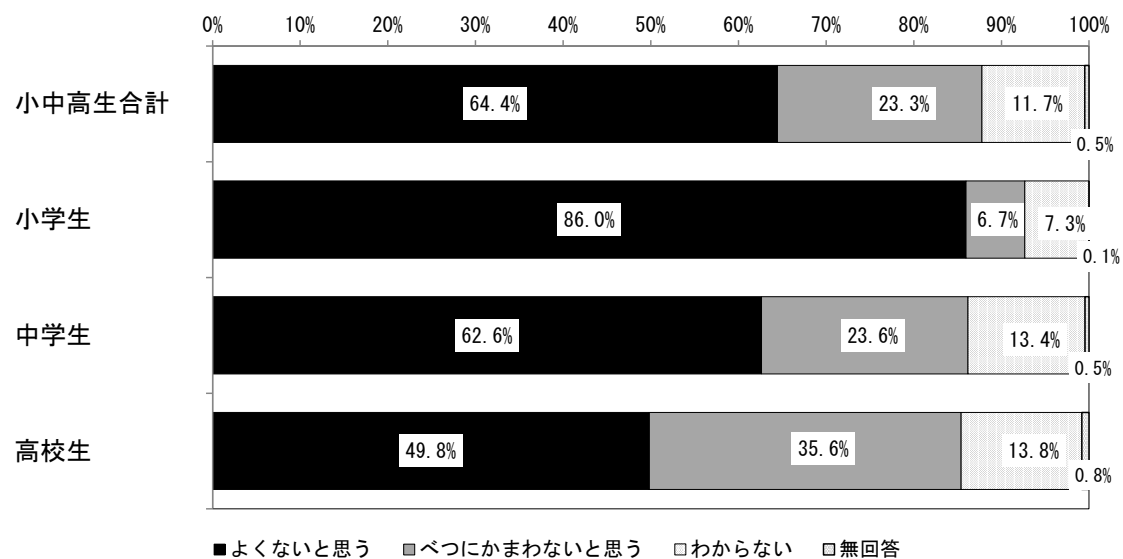


図 I-60 ルール・マナーの意識 ⑧タバコを吸ったり、酒を飲んだりする(中高生合計 n=3,000 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

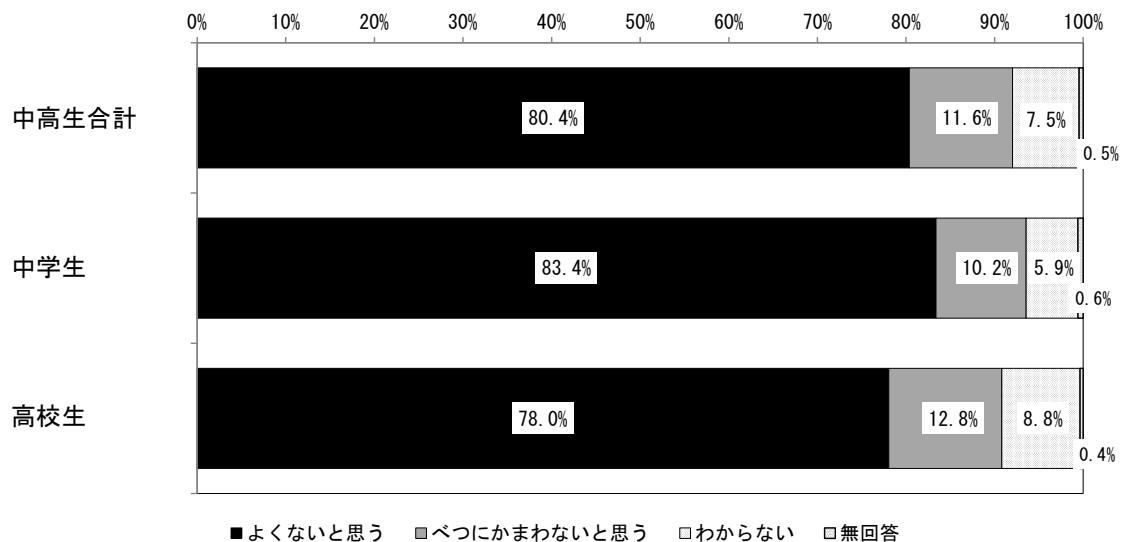


図 I-61 ルール・マナーの意識 ⑨万引きをする(中高生合計 n=3,000 中学生 n=1,316 高校生 n=1,684)

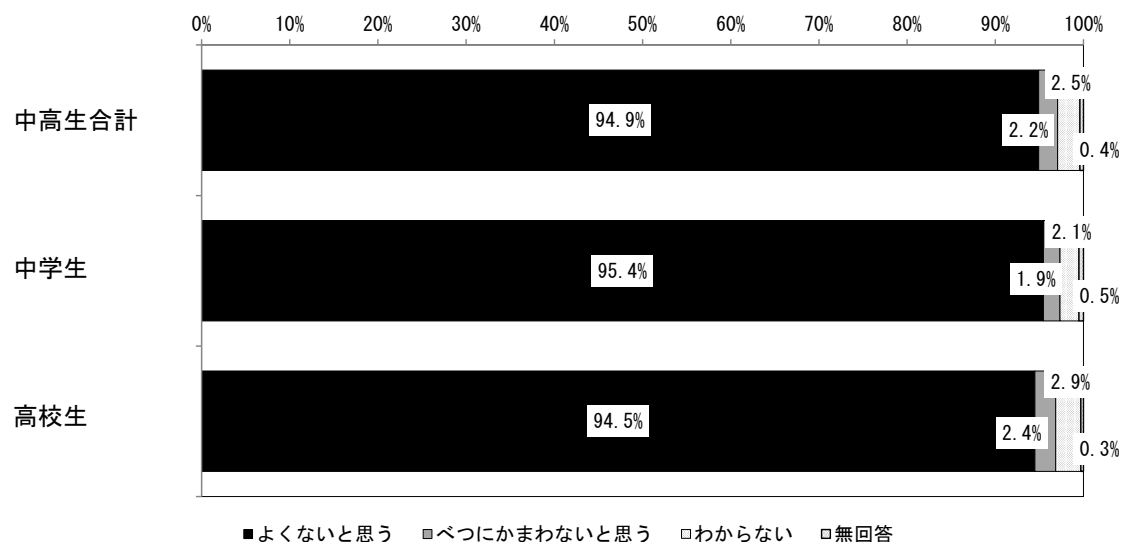
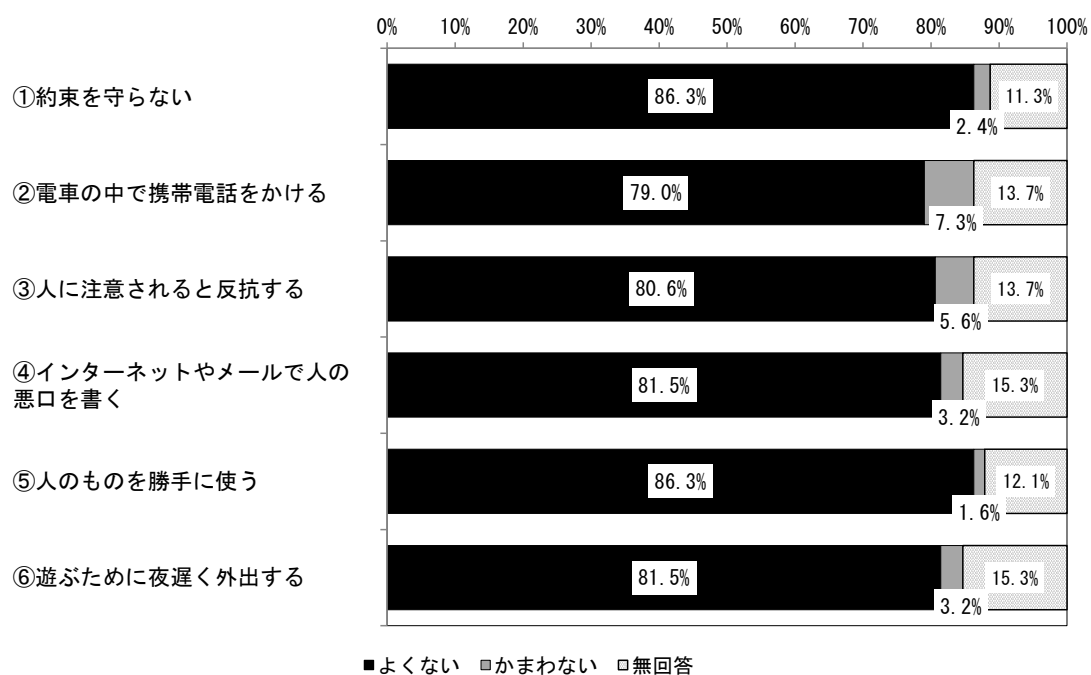


図 I-62 ルール・マナーの意識(特別支援学校児童・生徒 n=124)



『ルール・マナーの意識』について児童・生徒に聞いたところ、「よくないと思う」との回答の割合が高かった項目は、小学生の回答は平成 25 年度調査では「インターネットやメールで人の悪口を書く」(95.5%)、「約束を守らない」(94.9%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(94.6%)であり、平成 17 年度調査では「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(89.7%)、「インターネットやメールで人の悪口を書く」(87.9%)、「人のものを勝手に使う」(87.2%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「万引きをする」(95.4%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(89.5%)、「約束を守らない」(88.8%)であり、平成 17 年度調査では「万引きをする」(93.4%)、「約束を守らない」(86.2%)、「たばこを吸ったり、酒を飲んだりする」(80.6%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では「万引きをする」(94.5%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(93.0%)、「約束を守らない」(90.4%)であり、平成 17 年度調査では「万引きをする」(91.4%)、「約束を守らない」(87.8%)、「電車の中で騒いだり、床に座り込む」(77.5%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「約束を守らない」(86.3%)、「人のものを勝手に使う」(86.3%)、「インターネットやメールで人の悪口を書く」(81.5%)、「遊ぶために夜遅く外出する」(81.5%)であり、平成 17 年度調査では「約束を守らない」(96.9%)、「人のものを勝手に使う」(90.8%)、「インターネットやメールで人の悪口を書く」(80.0%)であった。(図 I-63～97 参照)

図 I-63 ルール・マナーの意識

①約束を守らない(小中高生合計 平成 25 年度 n=4, 254、平成 17 年度 n=4, 476)

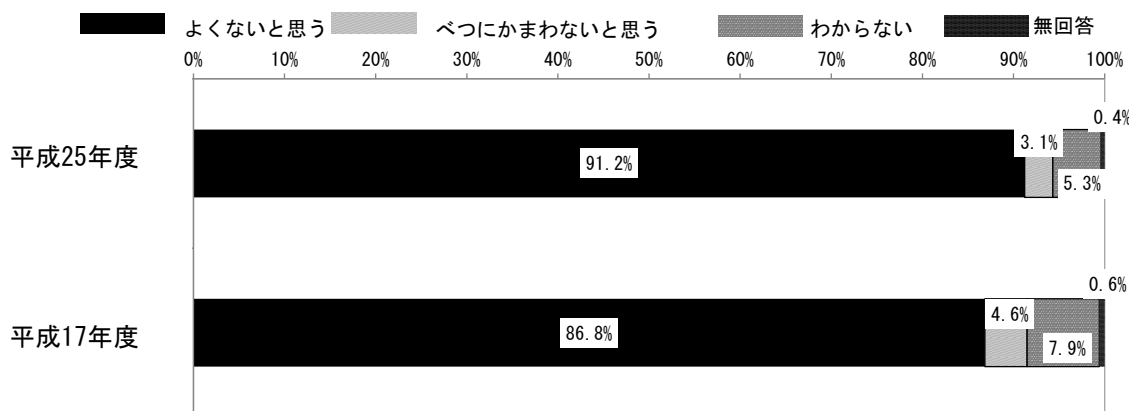


図 I-64 ルール・マナーの意識

①約束を守らない(小学生 平成 25 年度 n=1, 254、平成 17 年度 n=1, 394)

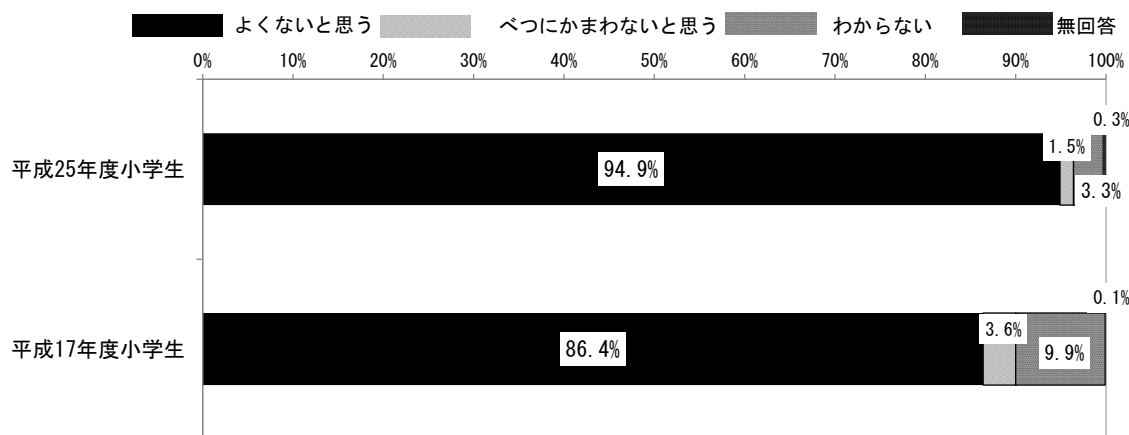


図 I-65 ルール・マナーの意識

①約束を守らない(中学生 平成 25 年度 n=1,316、平成 17 年度 n=1,446)

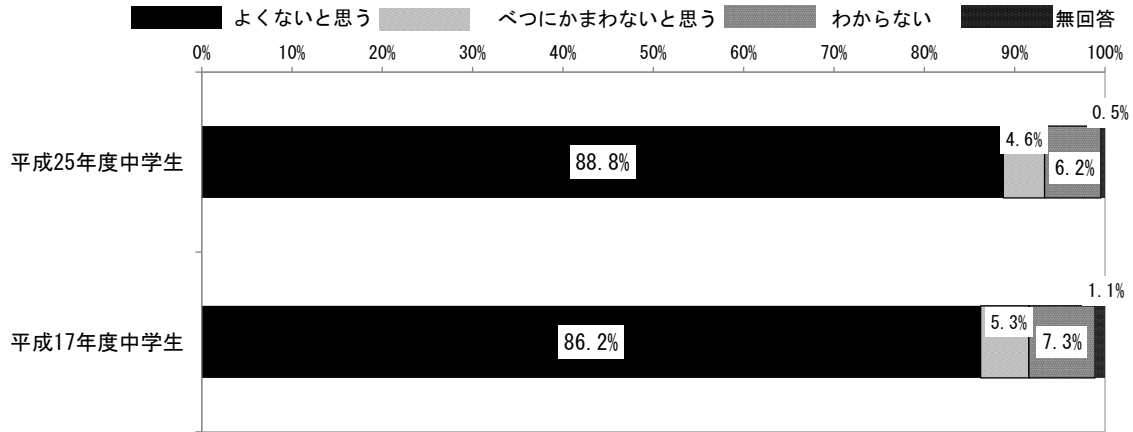


図 I-66 ルール・マナーの意識

①約束を守らない(高校生 平成 25 年度 n=1,684、平成 17 年度 n=1,636)

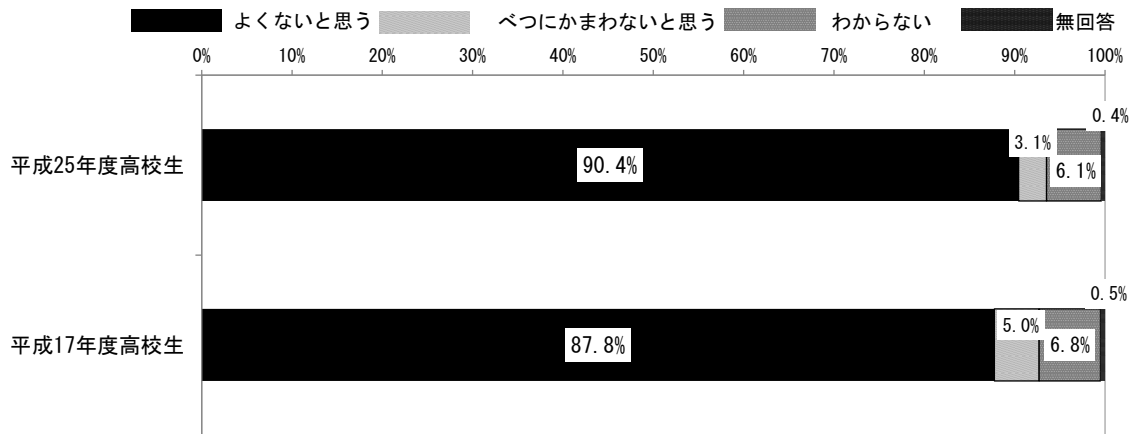


図 I-67 ルール・マナーの意識

②電車の中で騒いだり、床に座り込む(小中高生合計 平成 25 年度 n=4,254、平成 17 年度 n=4,476)

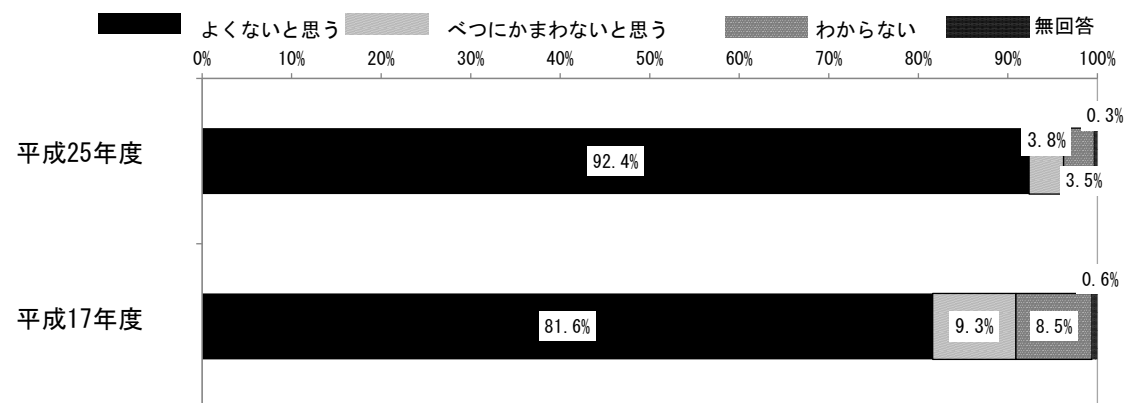


図 I-68 ルール・マナーの意識

②電車の中でさわいだり、ゆかにすわりこむ(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

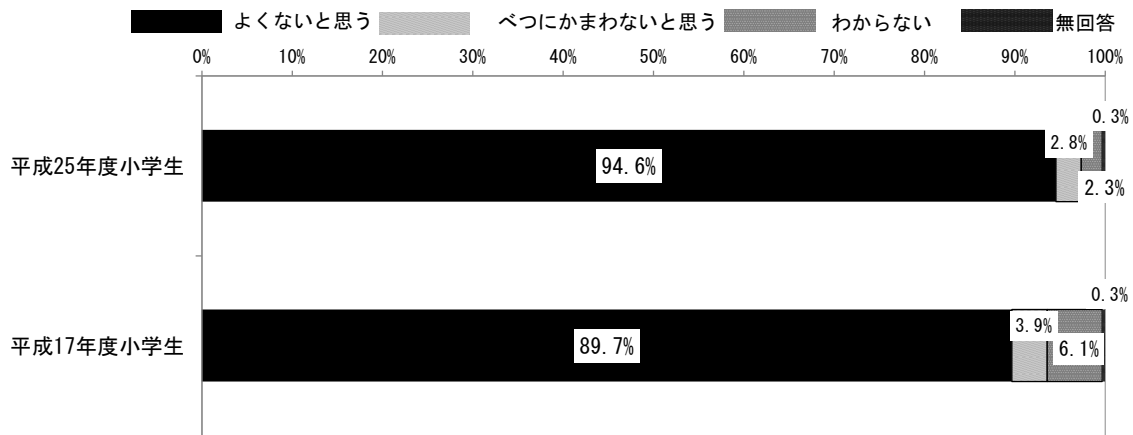


図 I-69 ルール・マナーの意識

②電車の中で騒いだり、床に座り込む(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

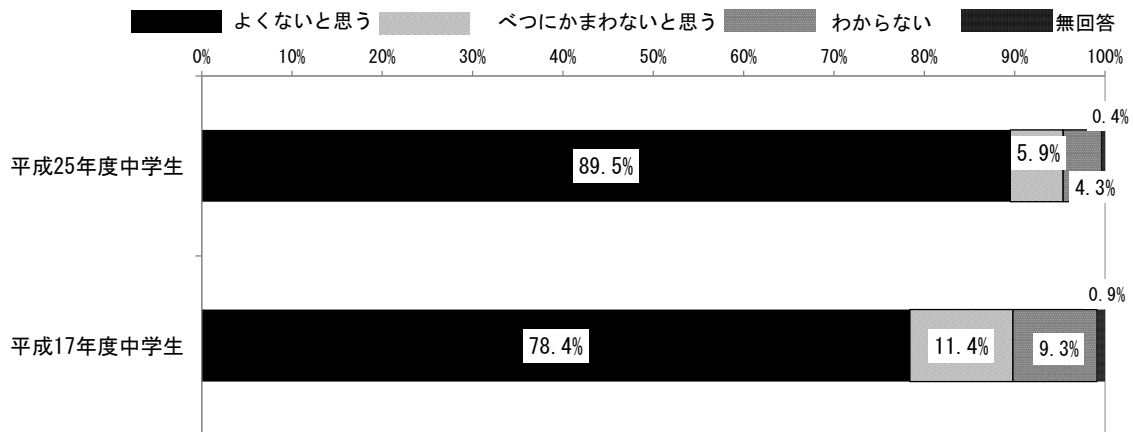


図 I-70 ルール・マナーの意識

②電車の中で騒いだり、床に座り込む(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

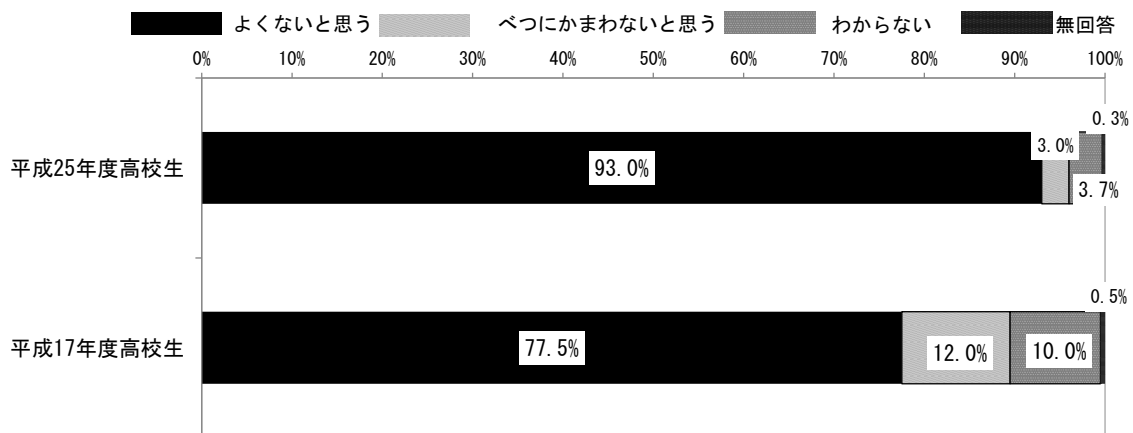


図 I-71 ルール・マナーの意識

③小学生：電車の中でけい帯電話をかける 中高生：電車の中で携帯電話をかけたリ、化粧をする(小中高生合計 平成25年度 n=4,254、平成17年度 n=4,476)

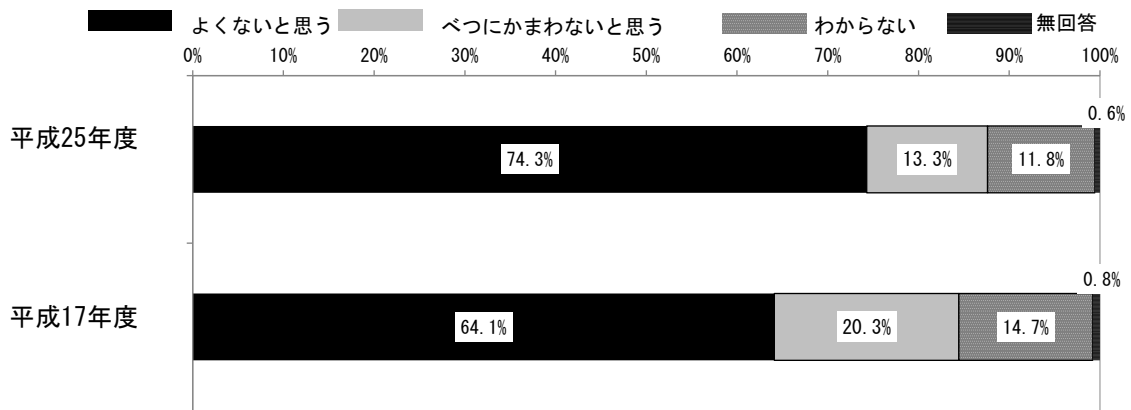


図 I-72 ルール・マナーの意識

③電車の中でけい帯電話をかける(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

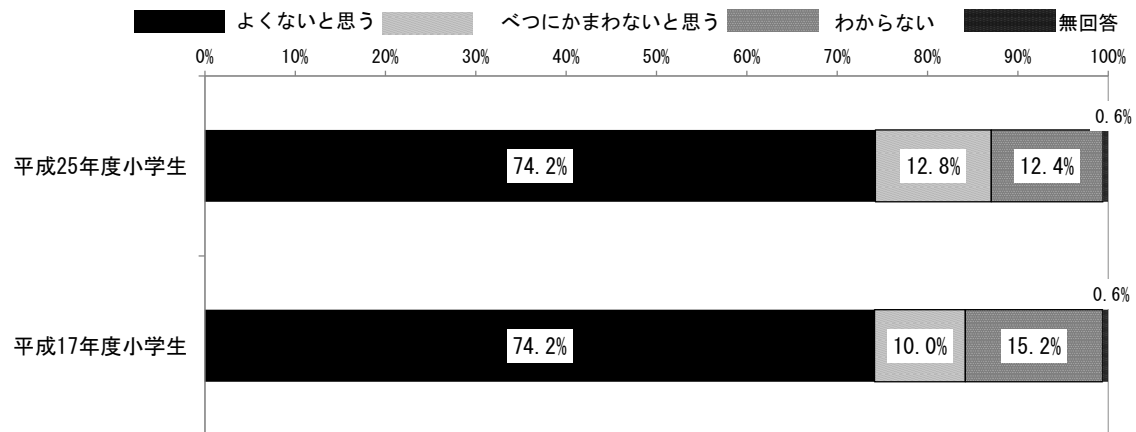


図 I-73 ルール・マナーの意識

③電車の中で携帯電話をかけたリ、化粧をする(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

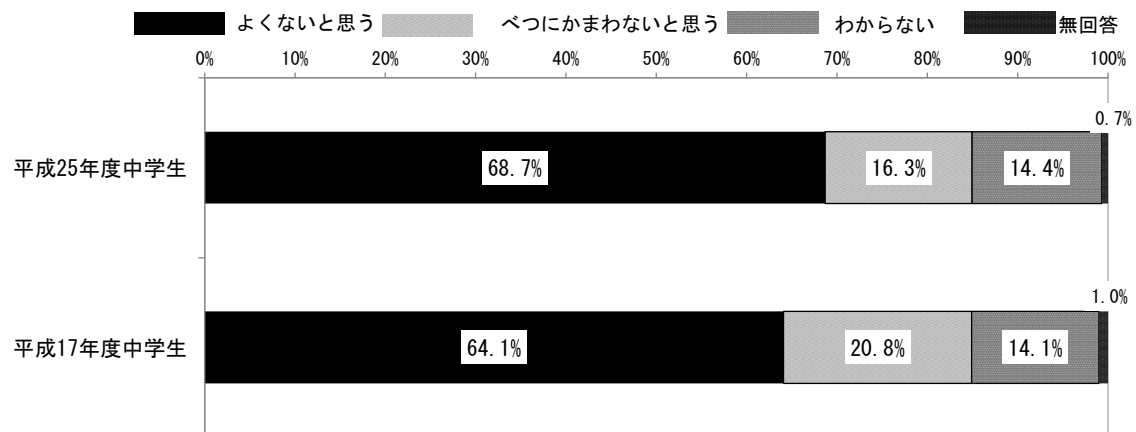


図 I-74 ルール・マナーの意識

③電車の中で携帯電話をかけたたり、化粧をする(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

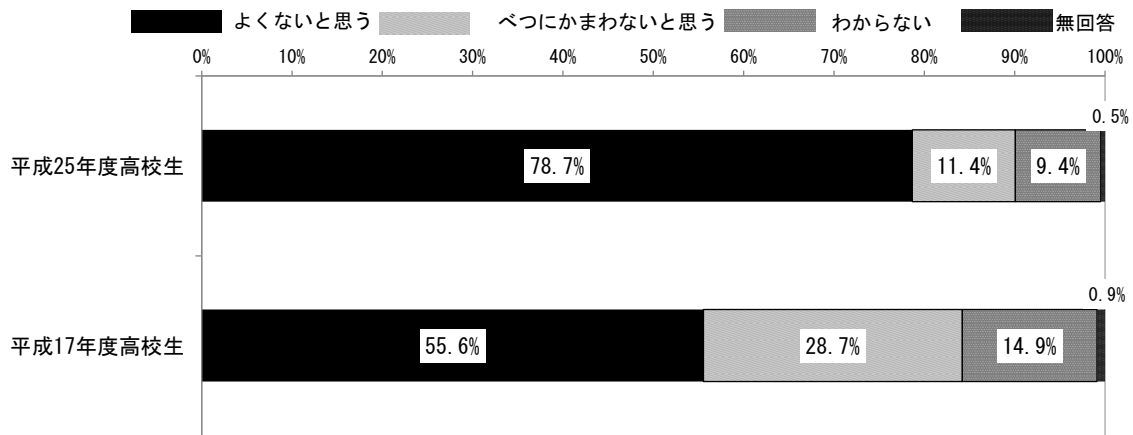


図 I-75 ルール・マナーの意識

④注意されると無視したり反抗したりする(小中高生合計 平成25年度 n=4,254、平成17年度 n=4,476)

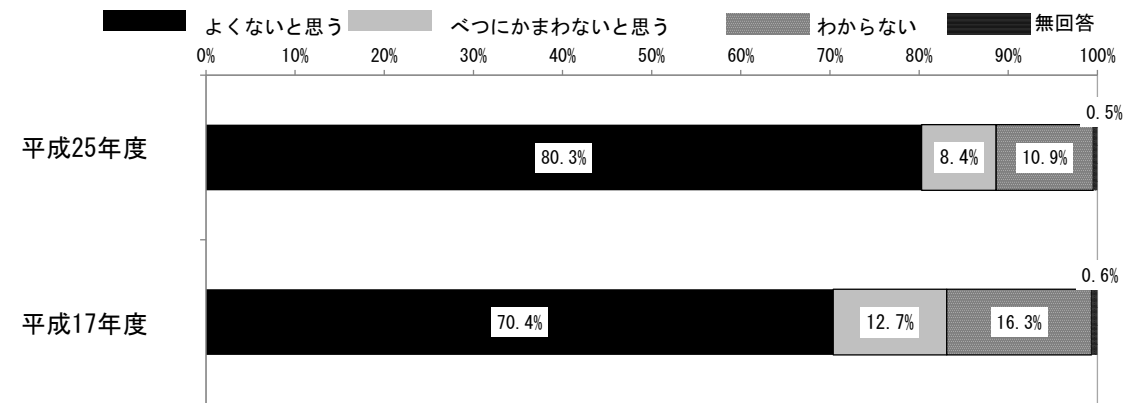


図 I-76 ルール・マナーの意識

④注意されると無視したり反抗したりする(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

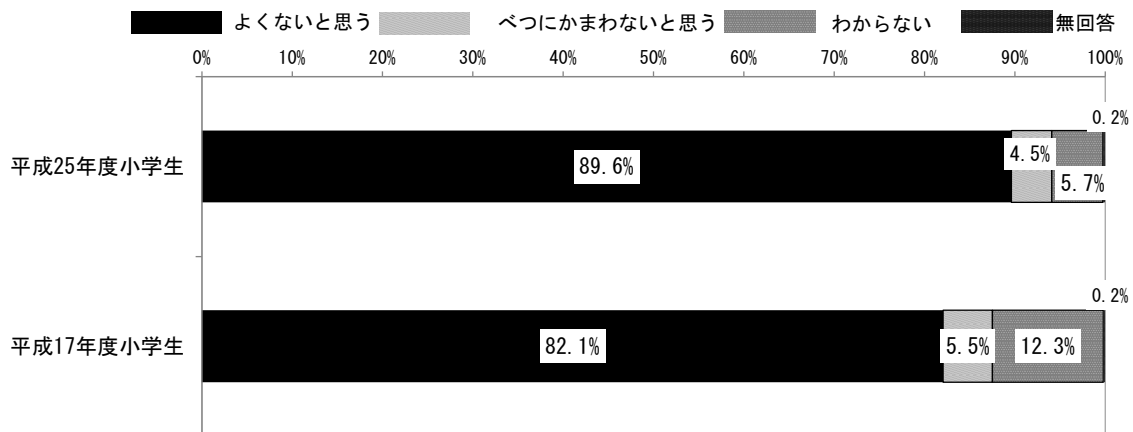


図 I-77 ルール・マナーの意識

④注意されると無視したり反抗したりする(中学生 平成 25 年度 n=1,316、平成 17 年度 n=1,446)

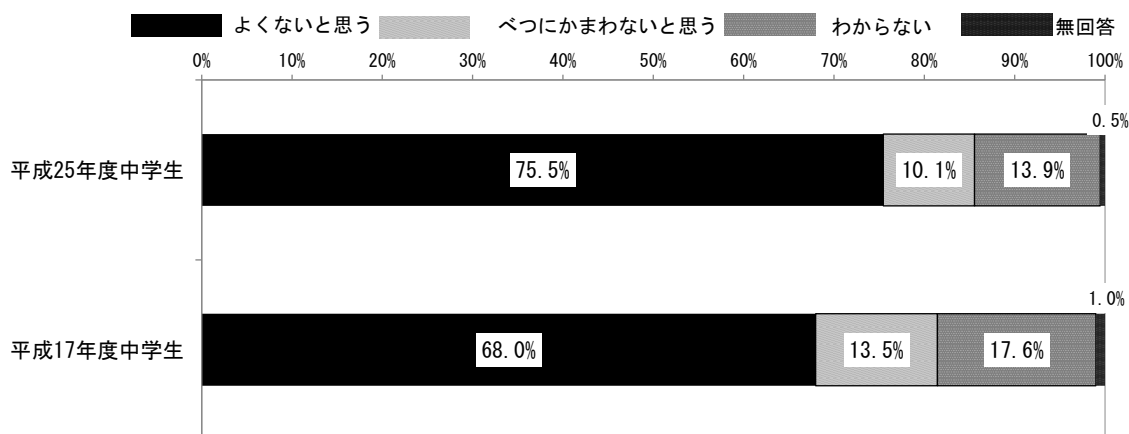


図 I-78 ルール・マナーの意識

④注意されると無視したり反抗したりする(高校生 平成 25 年度 n=1,684、平成 17 年度 n=1,636)

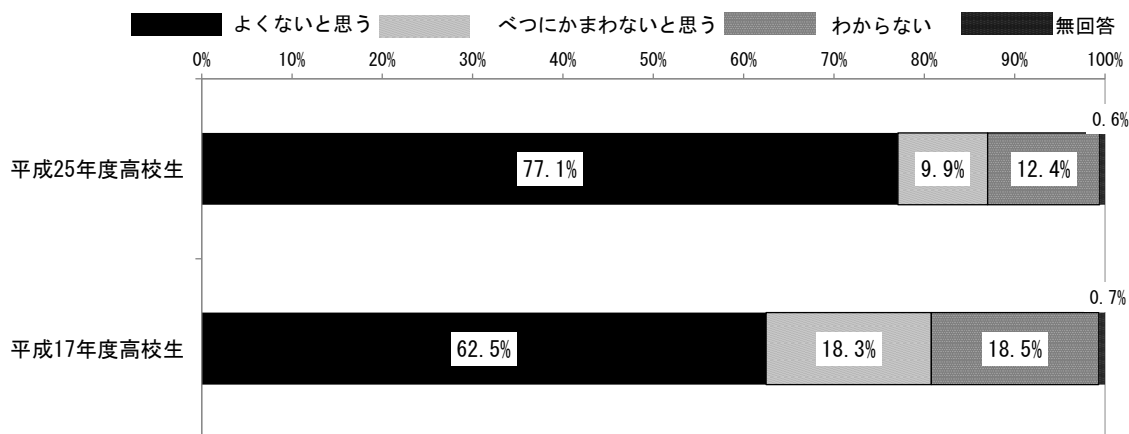


図 I-79 ルール・マナーの意識

⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(小中高生合計 平成 25 年度 n=4,254、平成 17 年度 n=4,476)

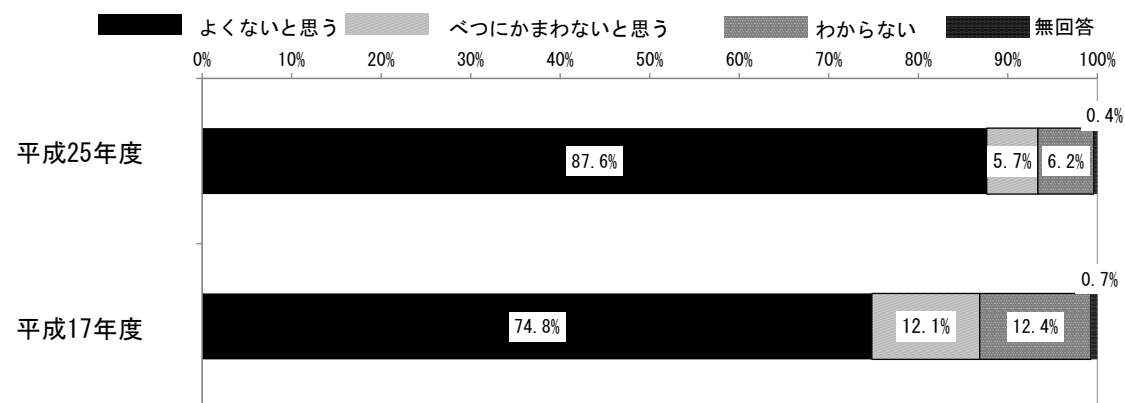


図 I-80 ルール・マナーの意識

⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

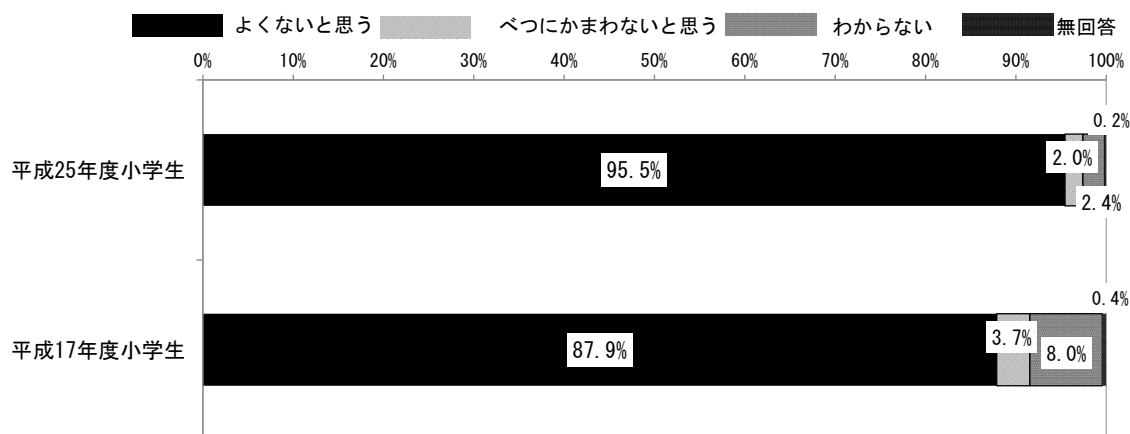


図 I-81 ルール・マナーの意識

⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

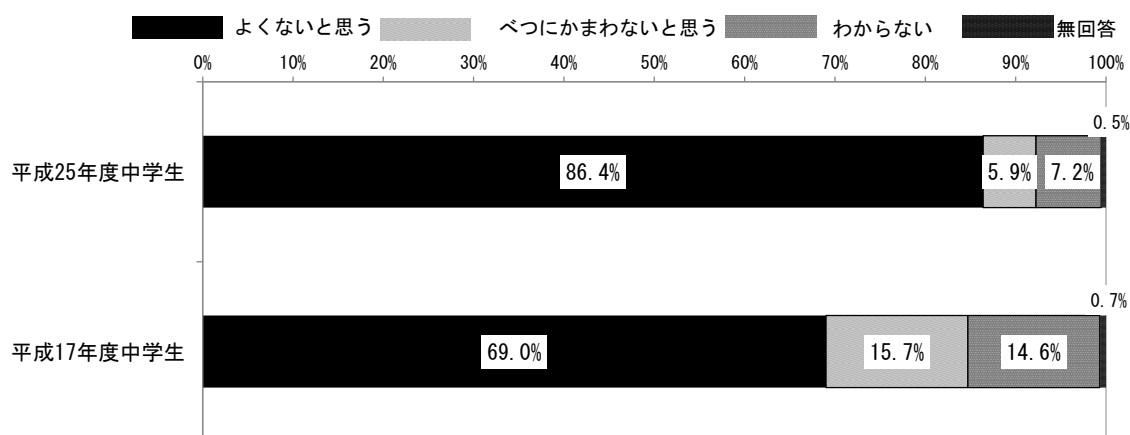


図 I-82 ルール・マナーの意識

⑤インターネットやメールで人の悪口を書く(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

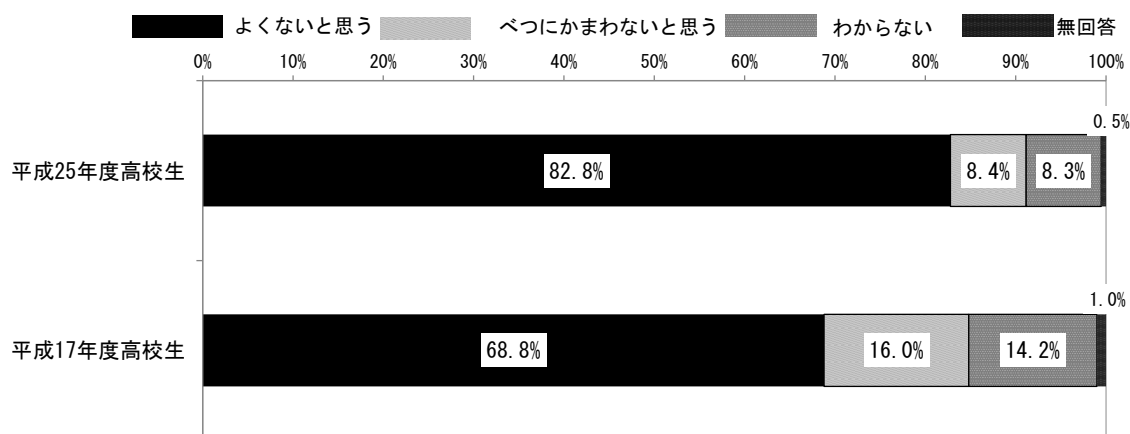


図 I-83 ルール・マナーの意識

⑥人のものを勝手に使う(小中高生合計 平成25年度 n=4,254、平成17年度 n=4,476)

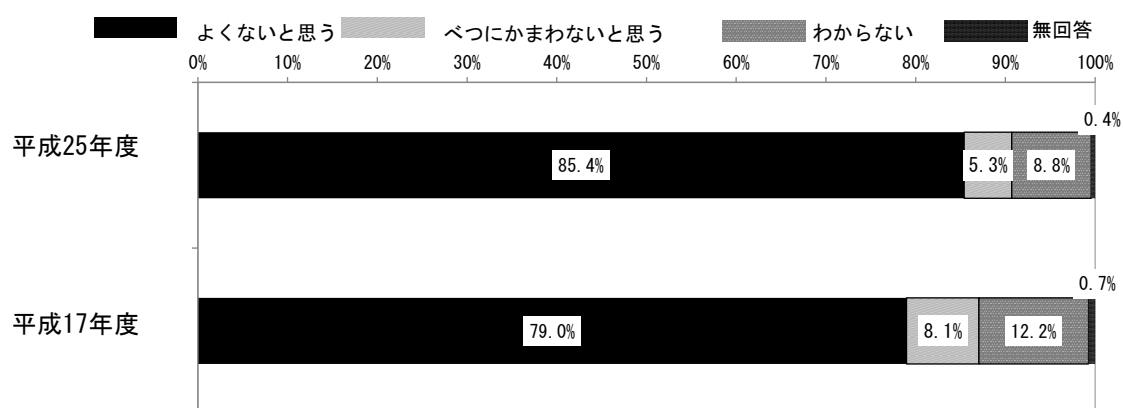


図 I-84 ルール・マナーの意識

⑥人のものを勝手に使う(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

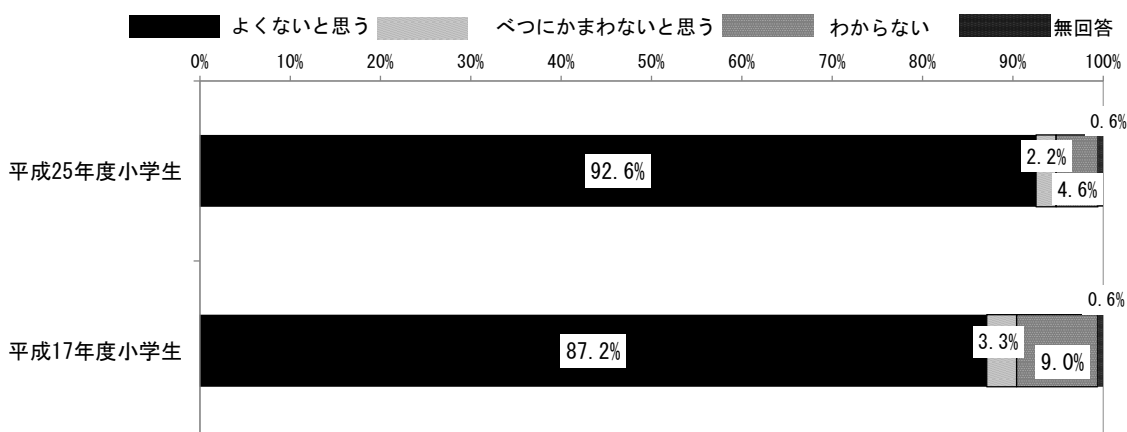


図 I-85 ルール・マナーの意識

⑥人のものを勝手に使う(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

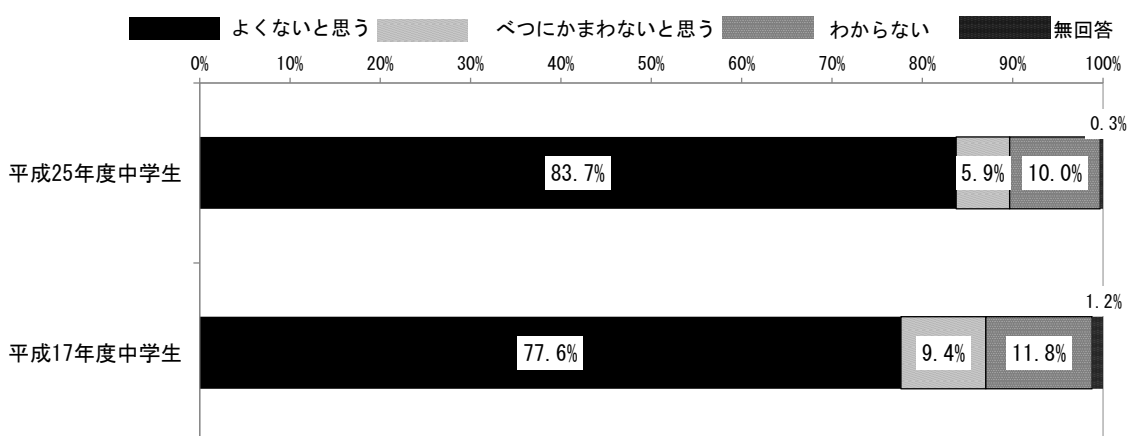


図 I-86 ルール・マナーの意識

⑥人のものを勝手に使う(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

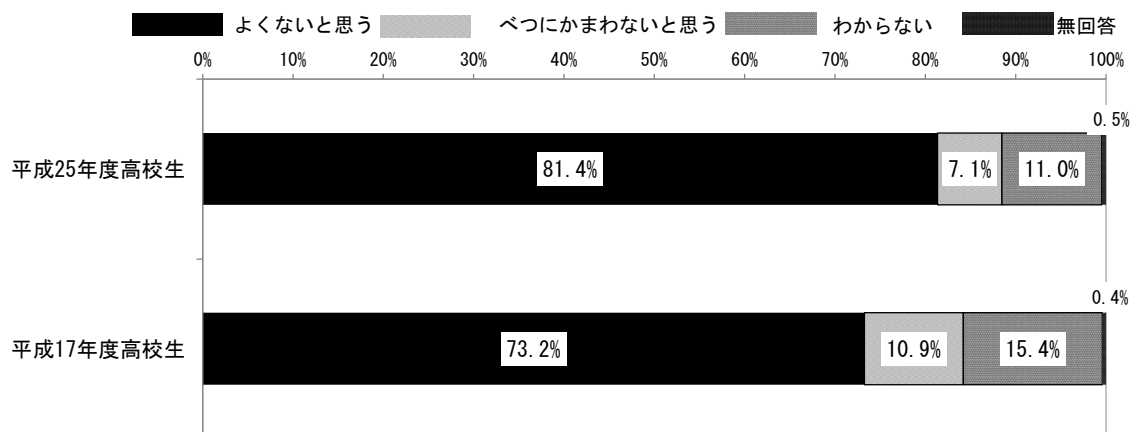


図 I-87 ルール・マナーの意識

⑦遊ぶために夜遅く外出する(小中高生合計 平成25年度 n=4,254、平成17年度 n=4,476)

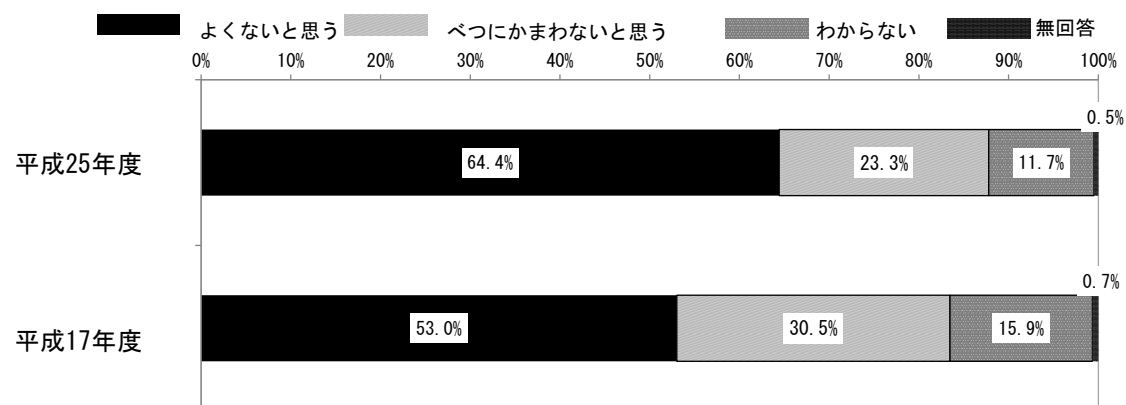


図 I-88 ルール・マナーの意識

⑦遊ぶために夜おそく外出する(小学生 平成25年度 n=1,254、平成17年度 n=1,394)

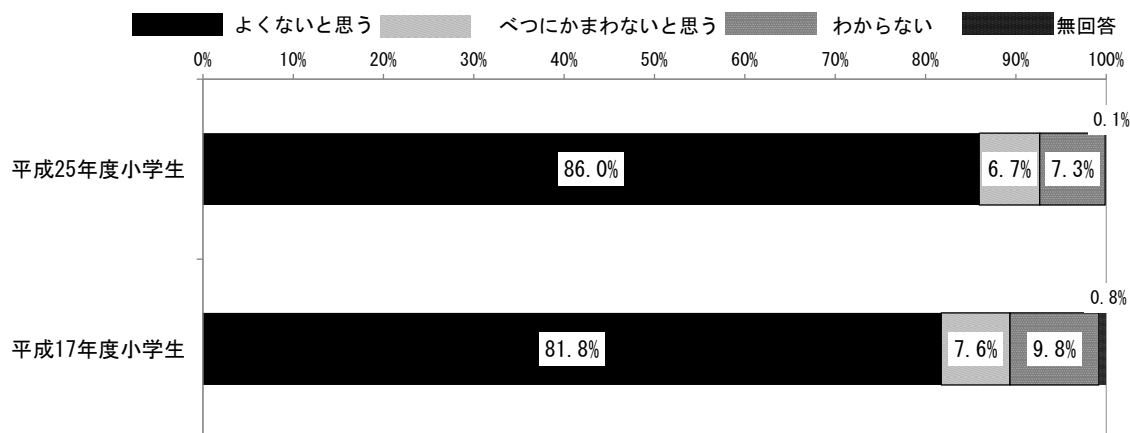


図 I-89 ルール・マナーの意識

⑦遊ぶために夜遅く外出する(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

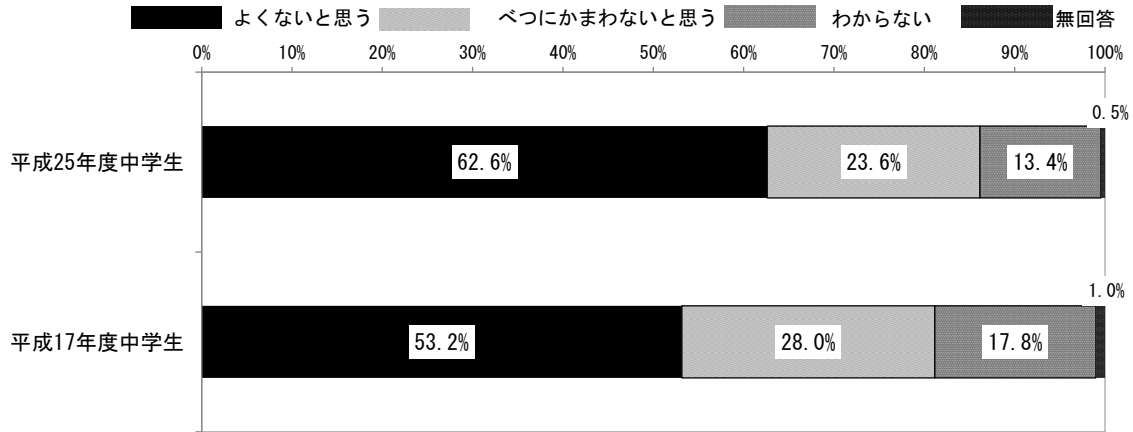


図 I-90 ルール・マナーの意識

⑦遊ぶために夜遅く外出する(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

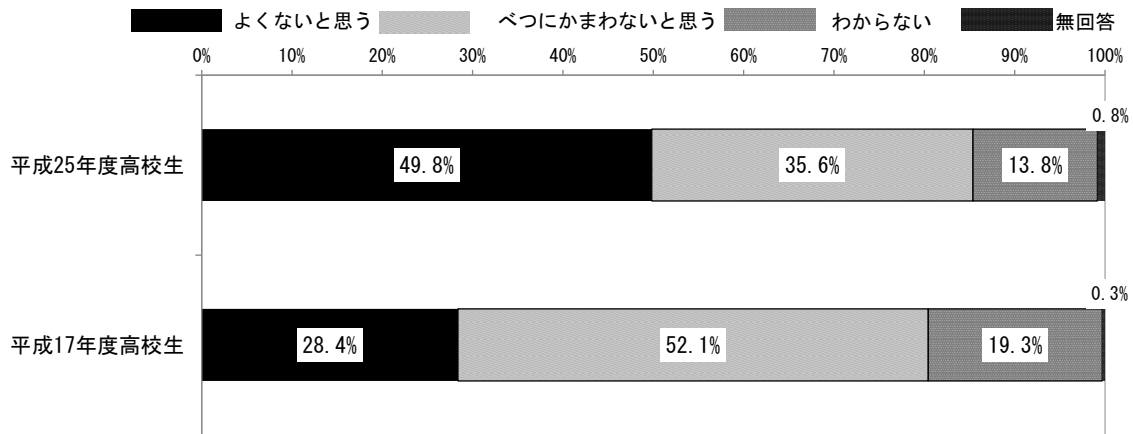


図 I-91 ルール・マナーの意識

⑧たばこを吸ったり、酒を飲んだりする(中高生合計 平成25年度 n=3,000、平成17年度 n=3,082)

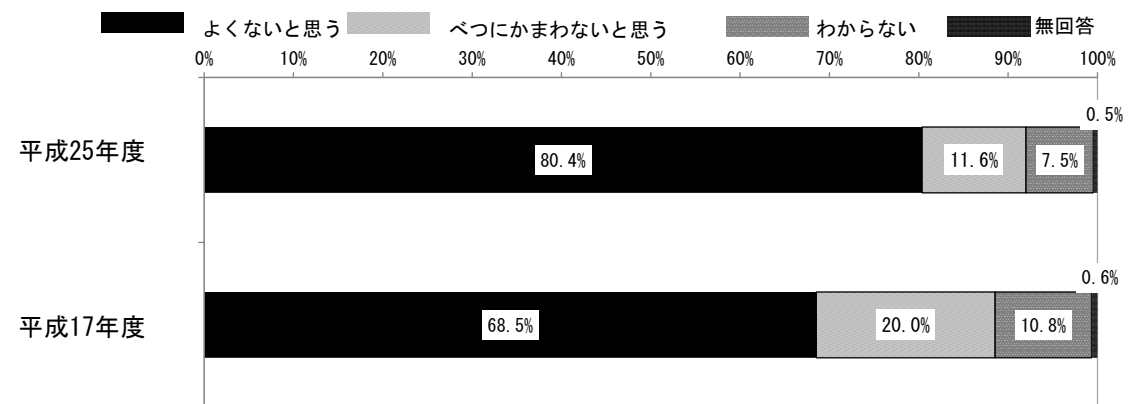


図 I-92 ルール・マナーの意識

⑧たばこを吸ったり、酒を飲んだりする(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

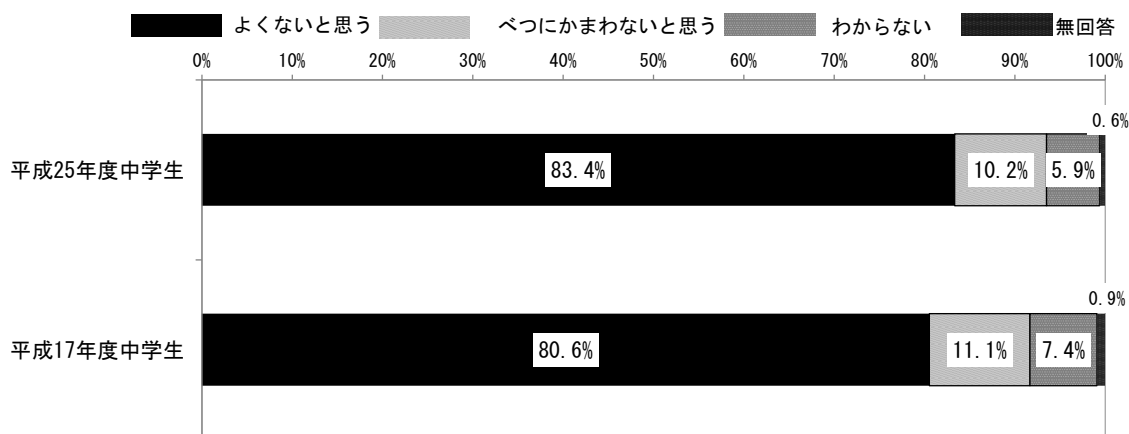


図 I-93 ルール・マナーの意識

⑧たばこを吸ったり、酒を飲んだりする(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

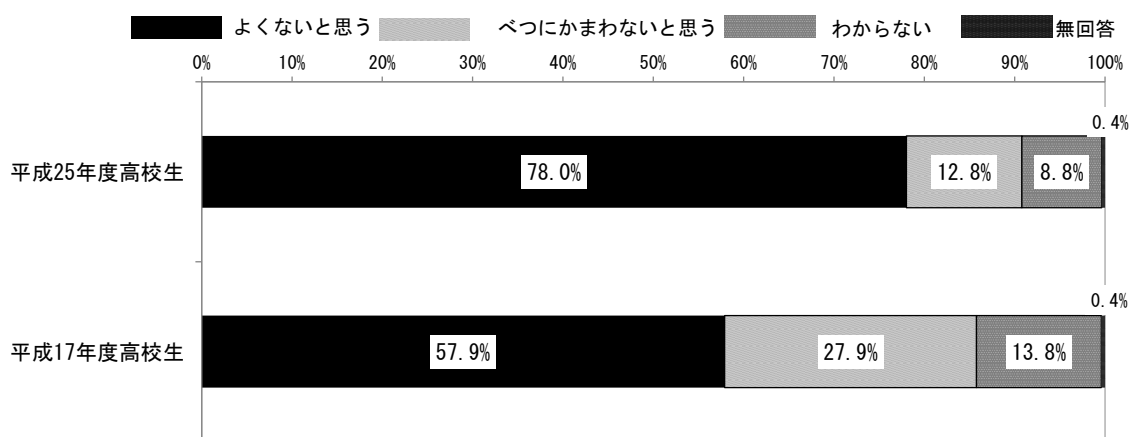


図 I-94 ルール・マナーの意識

⑨万引きをする(中高生合計 平成25年度 n=3,000、平成17年度 n=3,082)

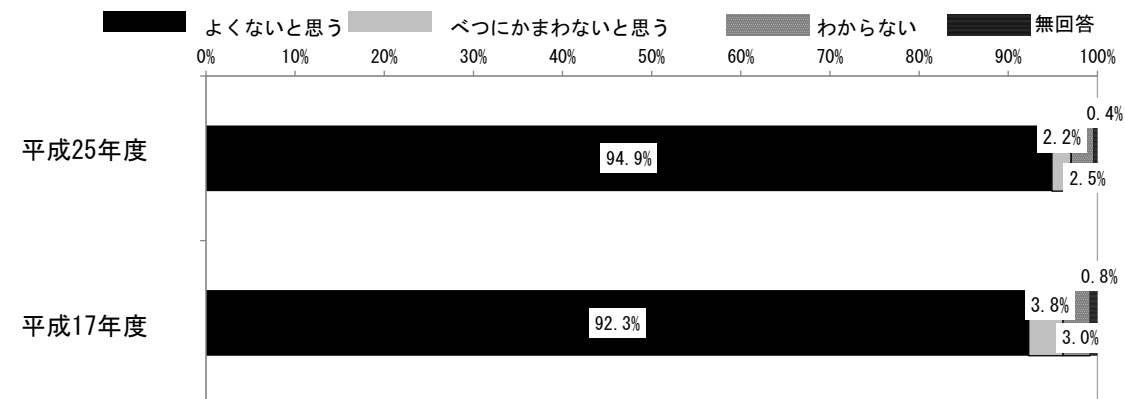


図 I-95 ルール・マナーの意識

⑨万引きをする(中学生 平成25年度 n=1,316、平成17年度 n=1,446)

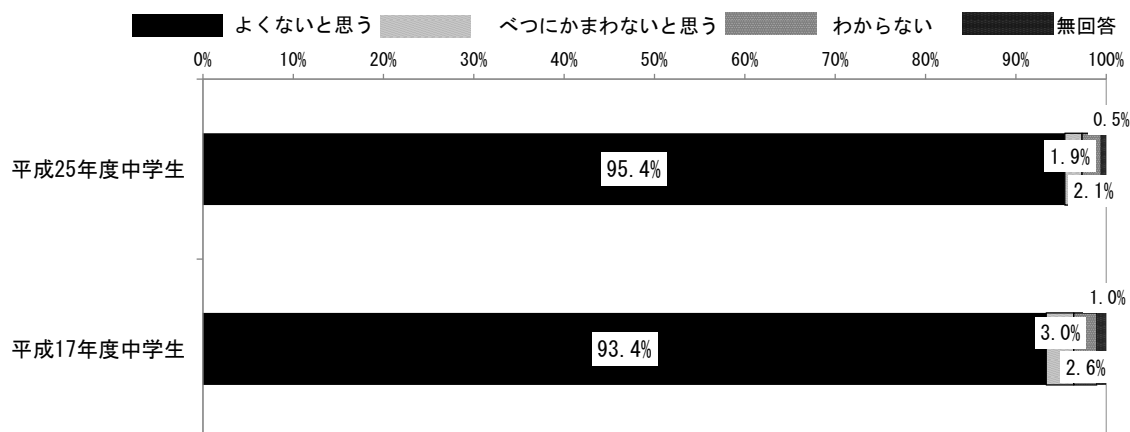


図 I-96 ルール・マナーの意識

⑨万引きをする(高校生 平成25年度 n=1,684、平成17年度 n=1,636)

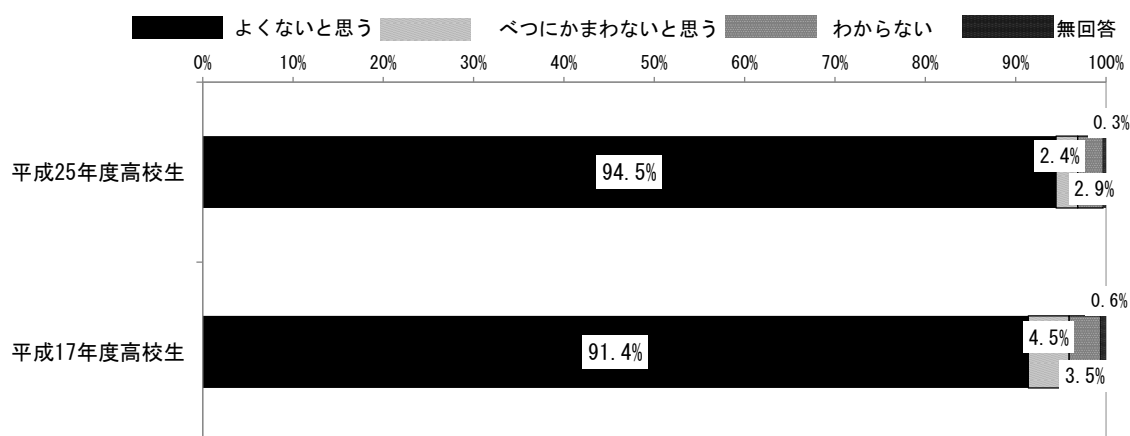
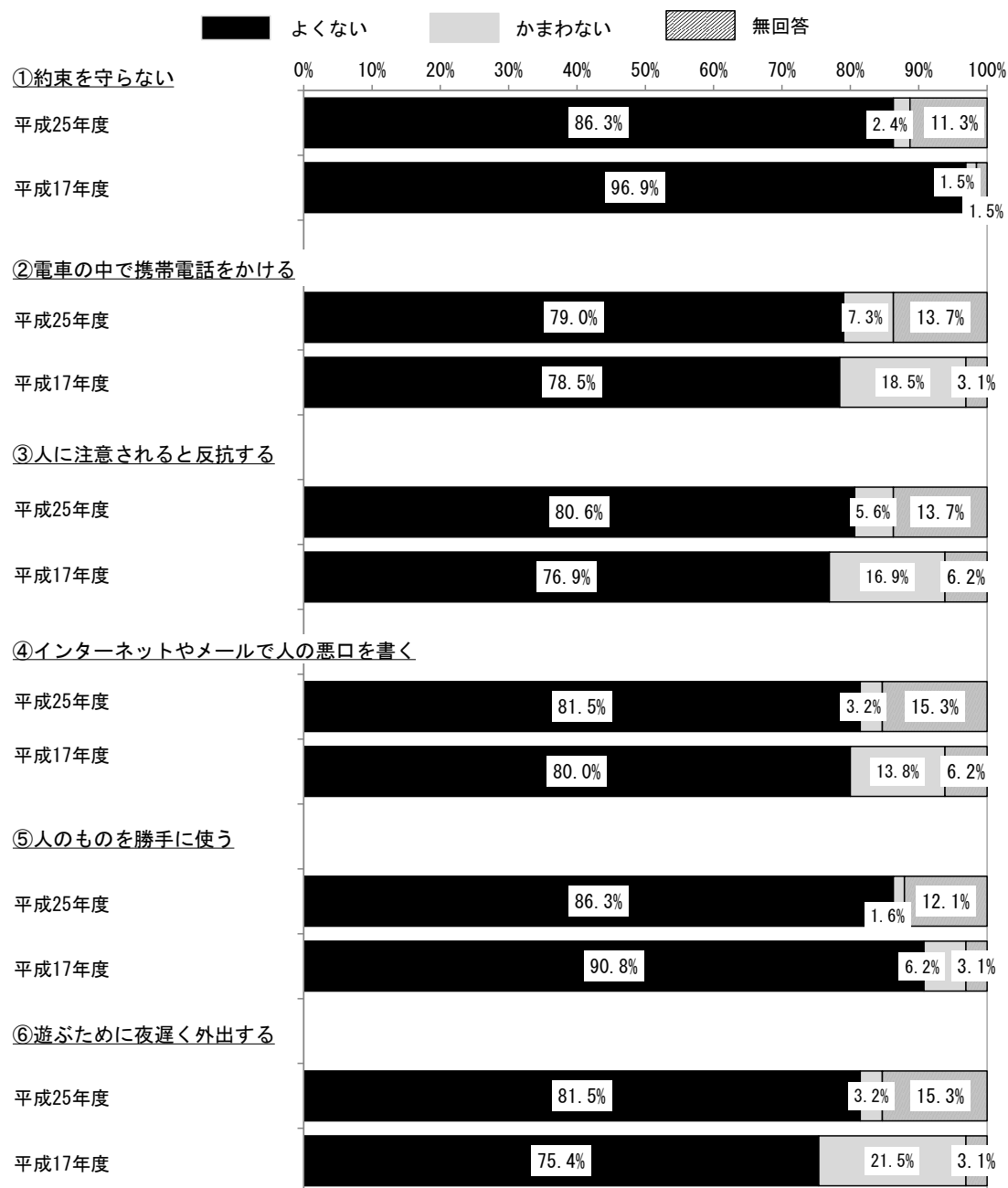


図 I-97 ルール・マナーの意識(特別支援学校児童・生徒 平成25年度 n=124、平成17年度 n=65)



I-7 学校外での生活

子どもに、『学校外での生活』について聞いたところ、小中高生では「趣味や自分の好きなことをする」の回答が最も高い割合となっており、次いで、小学生では「スポーツや遊びでからだを動かす」、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」、中学生では「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」、「外出して友だちと過ごす」、高校生では「外出して友だちと過ごす」、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」との回答の割合が高くなっている。特別支援学校児童・生徒は、「テレビを見る」、「家族といっしょに過ごす」、「ゲームをする」の回答の割合が高くなっている。

回答の割合が最も高かった項目を平成 17 年度調査結果と比べると、小学生は平成 25 年度調査では「しゅ味や自分の好きなことをする」(48.6%)であり、平成 17 年度調査では「じゅくや習い事に通う」(45.8%)であった。中学生は平成 25 年度調査では「趣味や自分の好きなことをする」(56.5%)であり、平成 17 年度調査では「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(45.2%)であった。高校生はどちらの調査結果においても「趣味や自分の好きなことをする」との回答が最も割合が高く、平成 25 年度調査では 60.6%、平成 17 年度調査 50.3%であった。特別支援学校児童・生徒どちらの調査結果においても「テレビを見る」との回答が最も割合が高く、平成 25 年度調査では 48.4%、平成 17 年度調査 50.8%であった。

『学校外での生活』について児童・生徒に聞いたところ、小中高生では「趣味や自分の好きなことをする」(小学生：48.6%、中学生：56.5%、高校生：60.6%)の回答が最も高い割合となっており、次いで、小学生では「スポーツや遊びでからだを動かす」(43.3%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(37.2%)、中学生では「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(46.4%)、「外出して友だちと過ごす」(41.9%)、高校生では「外出して友だちと過ごす」(45.2%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(40.9%)の回答が続いている。

また、特別支援学校児童・生徒は、「テレビを見る」(48.4%)、「家族といっしょに過ごす」(43.5%)、「ゲームをする」(33.1%)の回答の割合が高くなっている。(表 I-7、図 I-98, 99 参照)

表 I-7 学校外での生活(上位5項目)

	小学生	中学生	高校生
1位	趣味や自分の好きなことをする 48.6%	趣味や自分の好きなことをする 56.5%	趣味や自分の好きなことをする 60.6%
2位	スポーツや遊びでからだを動かす 43.3%	テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする 46.4%	外出して友だちと過ごす 45.2%
3位	テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする 37.2%	外出して友だちと過ごす 41.9%	テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする 40.9%
4位	家族と一緒に過ごす 37.1%	スポーツや遊びでからだを動かす 32.4%	携帯電話やスマートフォンなどを使って友だちと言葉のやり取りをする 33.2%
5位	外出して友だちと過ごす 32.5%	携帯電話やスマートフォンなどを使って友だちと言葉のやり取りをする 25.3%	スポーツや遊びでからだを動かす 20.1%

	特別支援学校児童・生徒
1位	テレビを見る 48.4%
2位	家族といっしょに過ごす 43.5%
3位	ゲームをする 33.1%
4位	スポーツや遊びでからだを動かす 29.0%
5位	家の手伝いをする 22.6%

図 I-98 学校外での生活(小中高生)

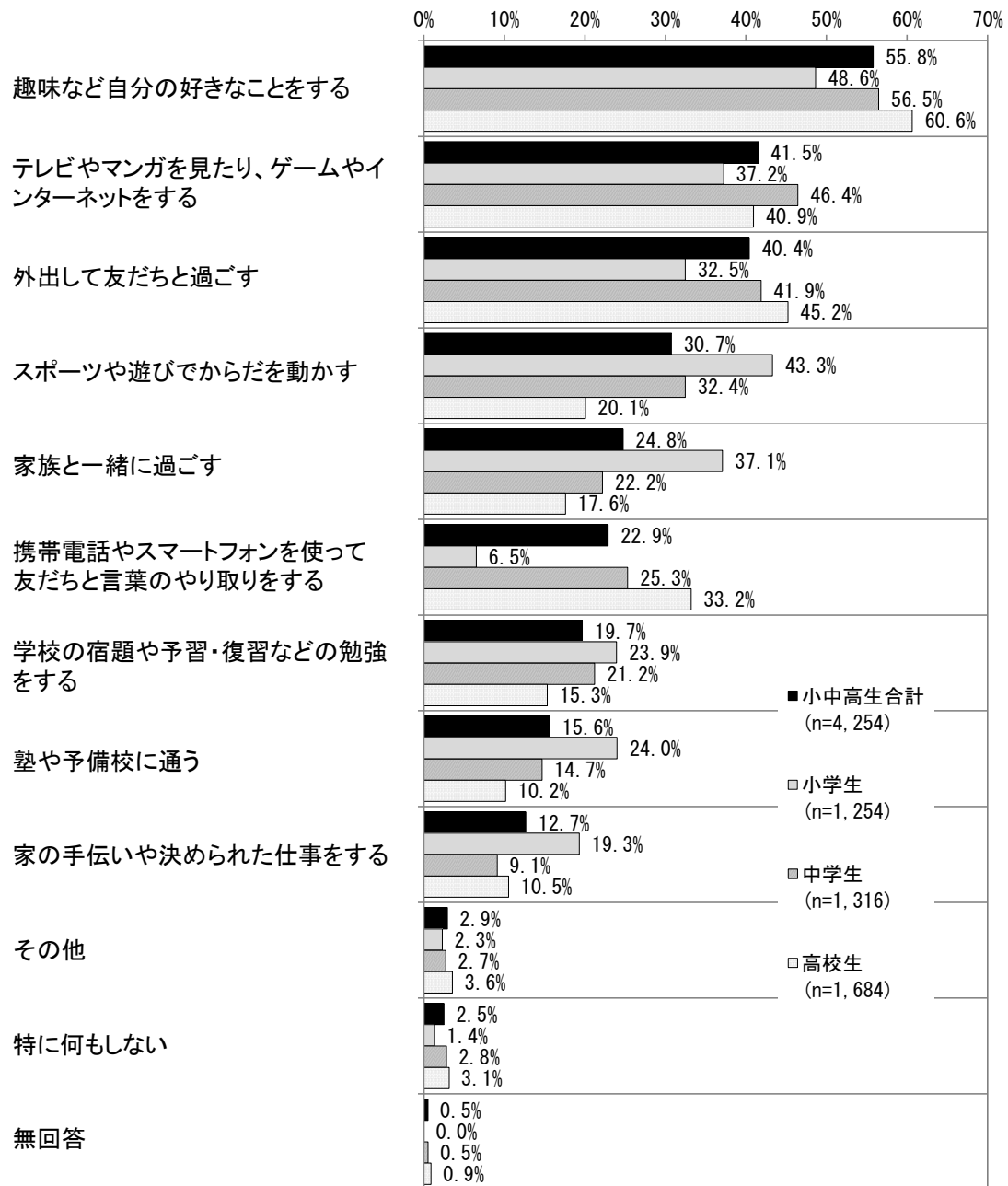
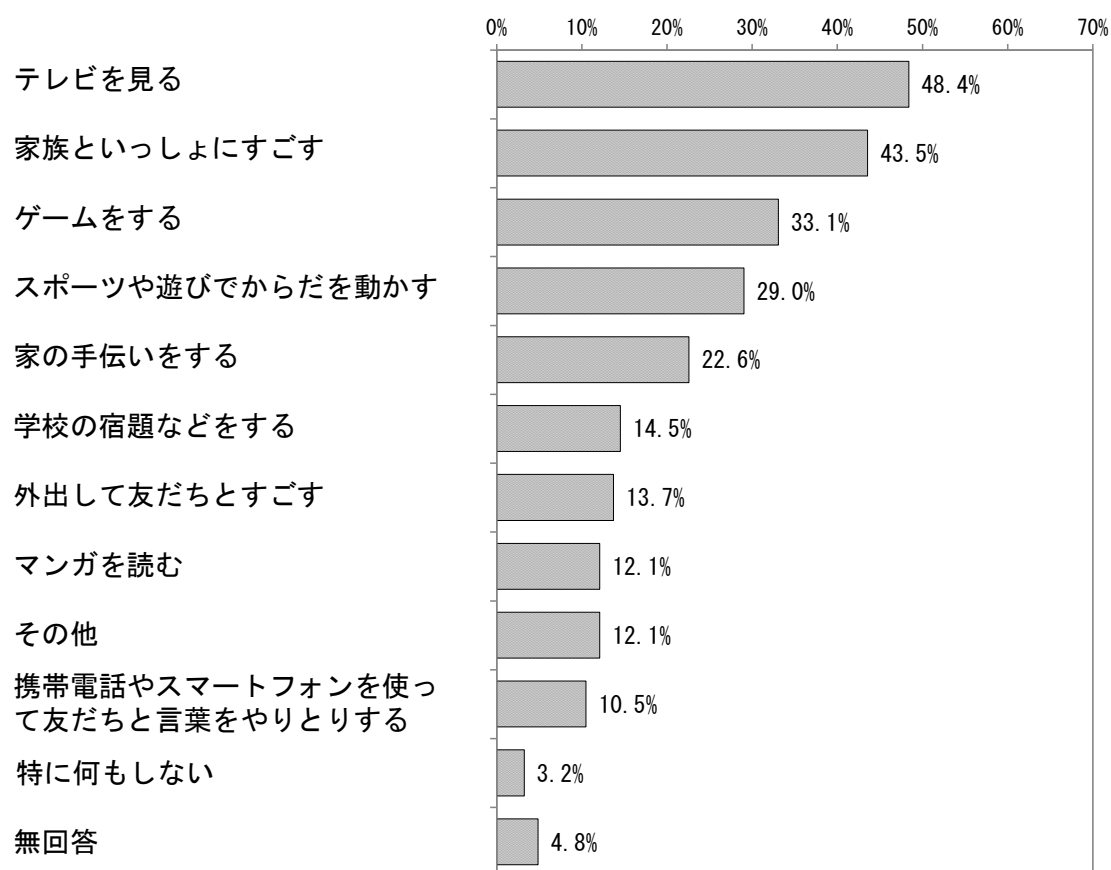


図 I-99 学校外での生活(特別支援学校児童・生徒 n=124)

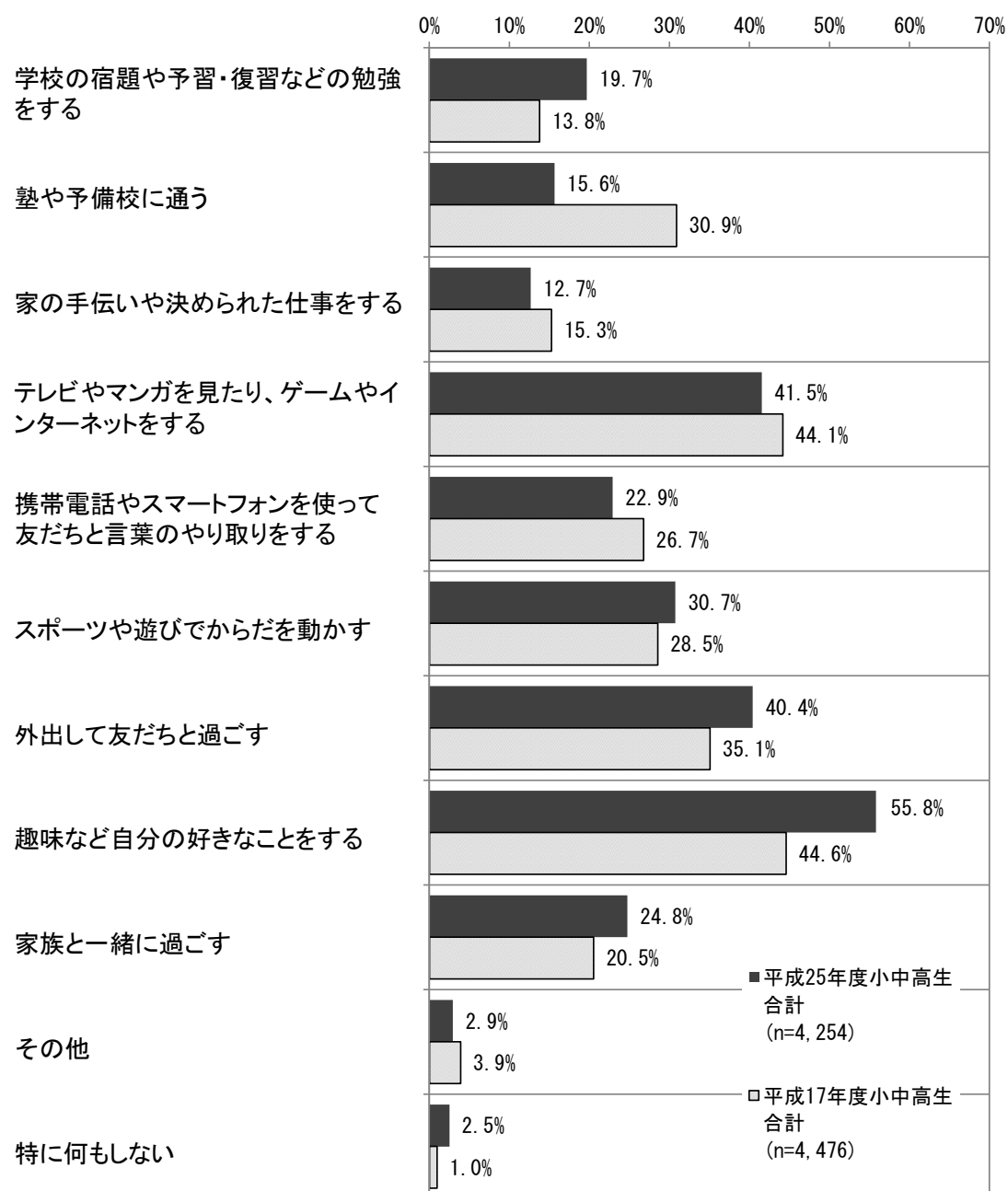


<「その他」の主な回答>

- ・デイサービスを利用する
- ・ヘルパーさんと外出する
- ・休養し、翌日の学校生活に備える
- ・一人で外出する
- など

児童・生徒の『学校外での生活』として回答の割合が高かった項目について平成 17 年度調査結果と比較すると、小学生の回答は平成 25 年度調査では「しゅ味や自分の好きなことをする」(48.6%)、「スポーツや遊びでからだを動かす」(43.3%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(37.2%)であり、平成 17 年度調査では「じゅくや習い事に通う」(45.8%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(40.5%)、「しゅ味や自分の好きなことをする」(38.6%)であった。中学生の回答は平成 25 年度調査では「趣味や自分の好きなことをする」(56.5%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(46.4%)、「外出して友だちと過ごす」(41.9%)であり、平成 17 年度調査では「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(45.2%)、「趣味や自分の好きなことをする」(43.8%)、「塾や予備校に通う」(38.0%)であった。高校生の回答は平成 25 年度調査では、「趣味や自分の好きなことをする」(60.6%)、「外出して友だちと過ごす」(45.2%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(40.9%)であり、平成 17 年度調査では「趣味や自分の好きなことをする」(50.3%)、「テレビやマンガを見たり、ゲームやインターネットをする」(46.4%)、「外出して友だちと過ごす」(42.9%)であった。特別支援学校児童・生徒の回答は平成 25 年度調査では「テレビを見る」(48.4%)、「家族といっしょに過ごす」(43.5%)、「ゲームをする」(33.1%)であり、平成 17 年度調査では「テレビを見る」(50.8%)、「家の手伝いをする」(43.1%)、「ゲームをする」(40.0%)であった。(図 I-100～104 参照)

図 I-100 学校外での生活(小中高生合計)



※「携帯電話やスマートフォンを使って友だちと言葉のやり取りをする」
 ……平成17年度調査「携帯電話や電子メールで友だちと話す」

図 I-101 学校外での生活(小学生)

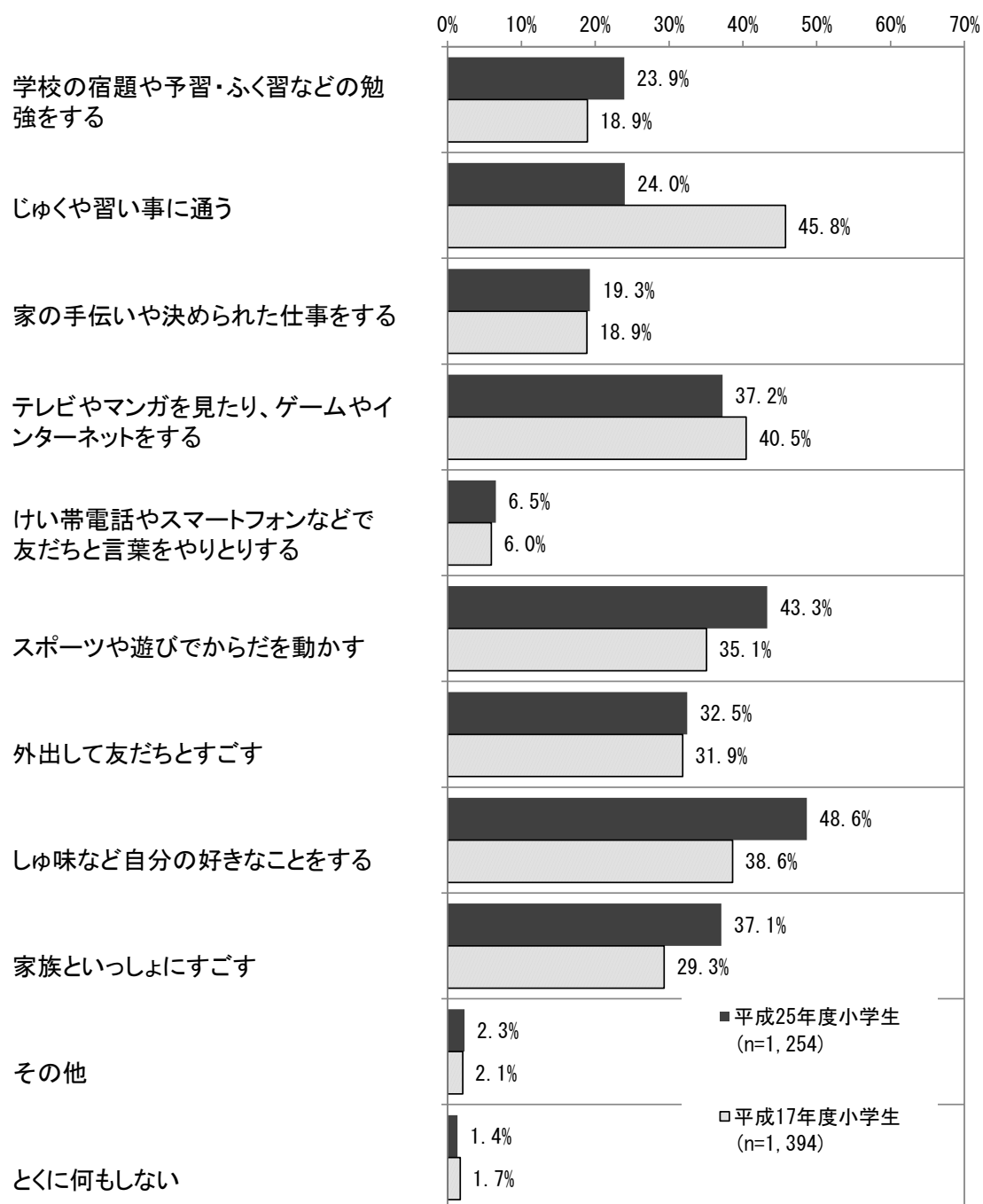


図 I-102 学校外での生活(中学生)

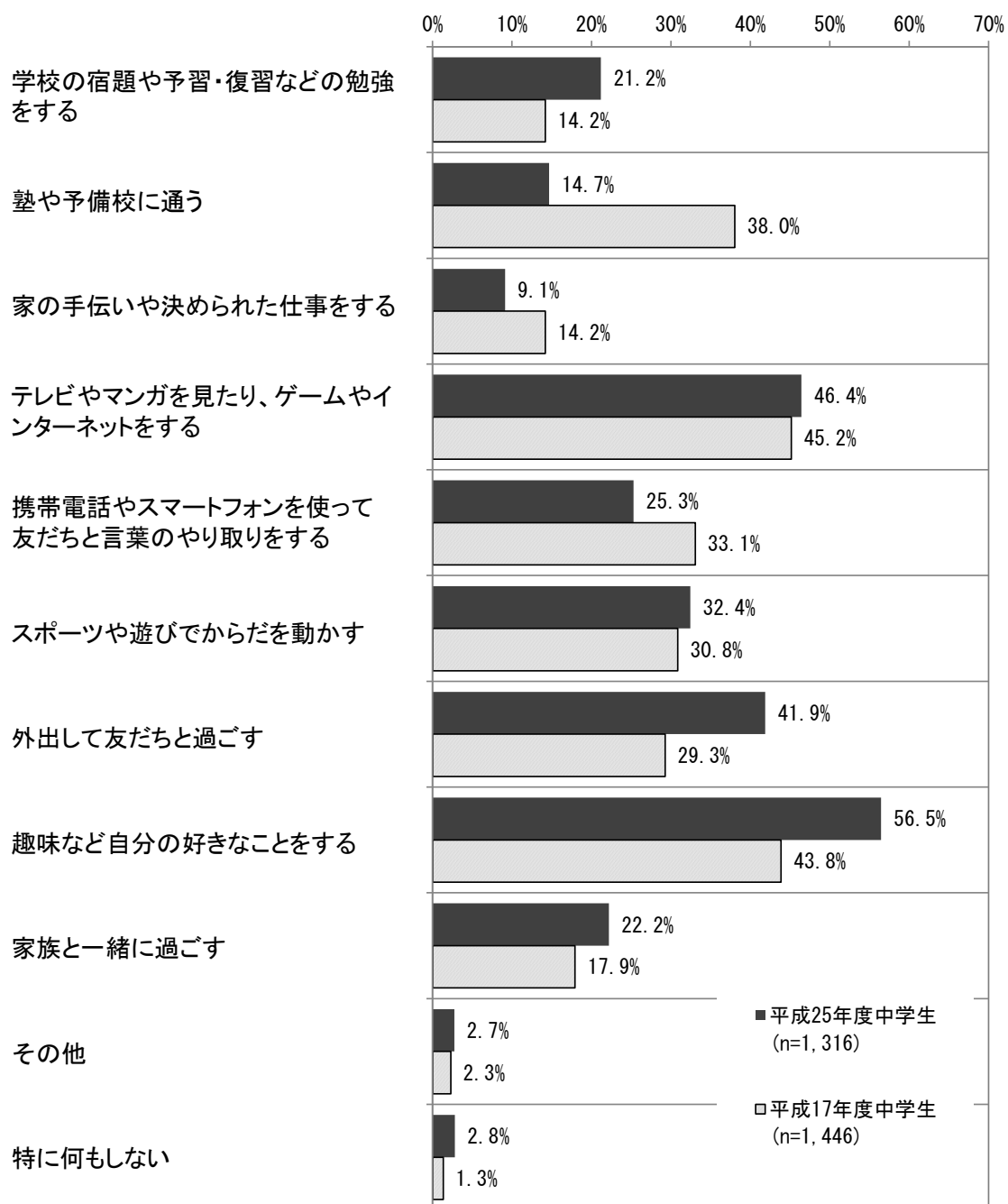


図 I-103 学校外での生活(高校生)

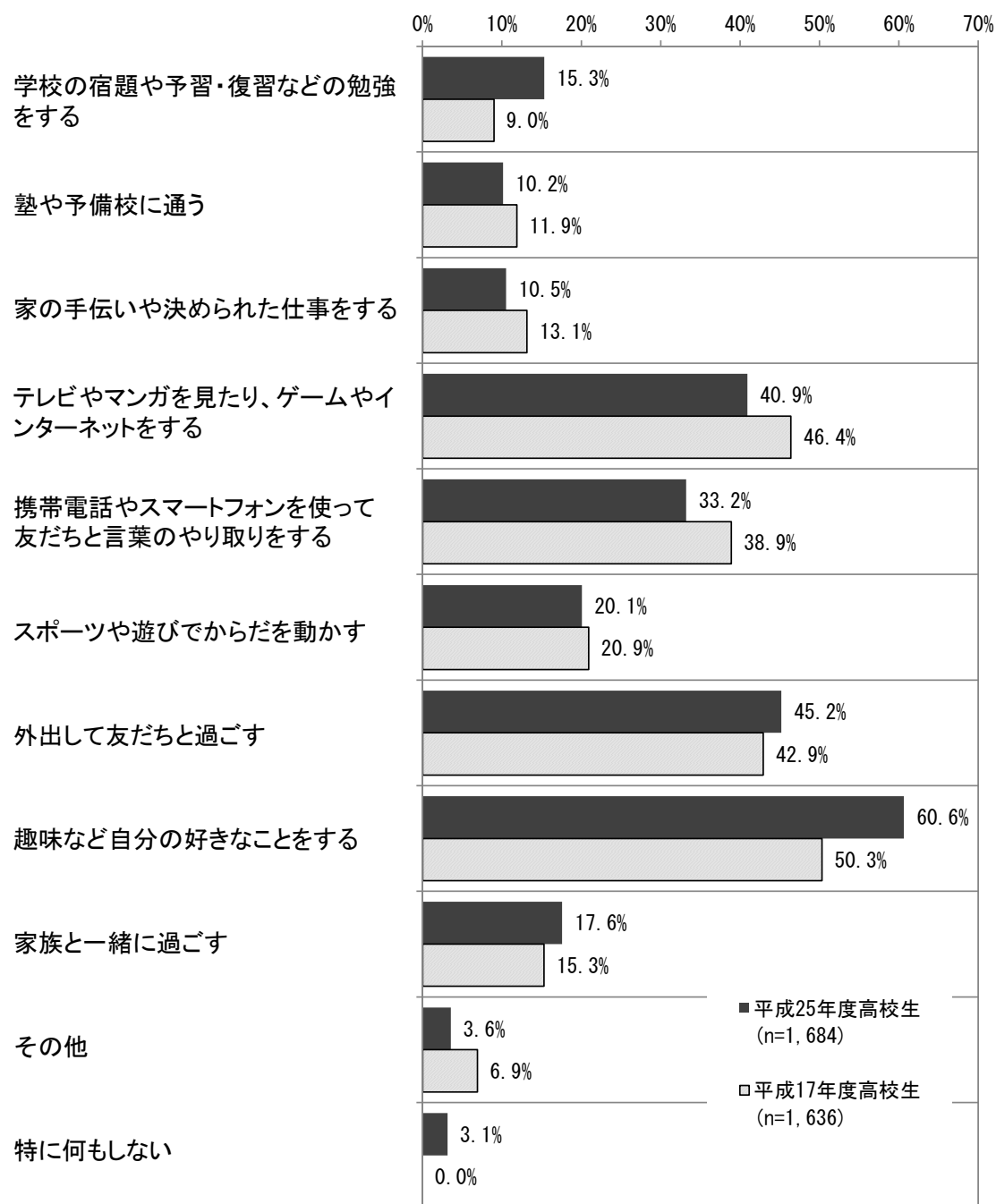
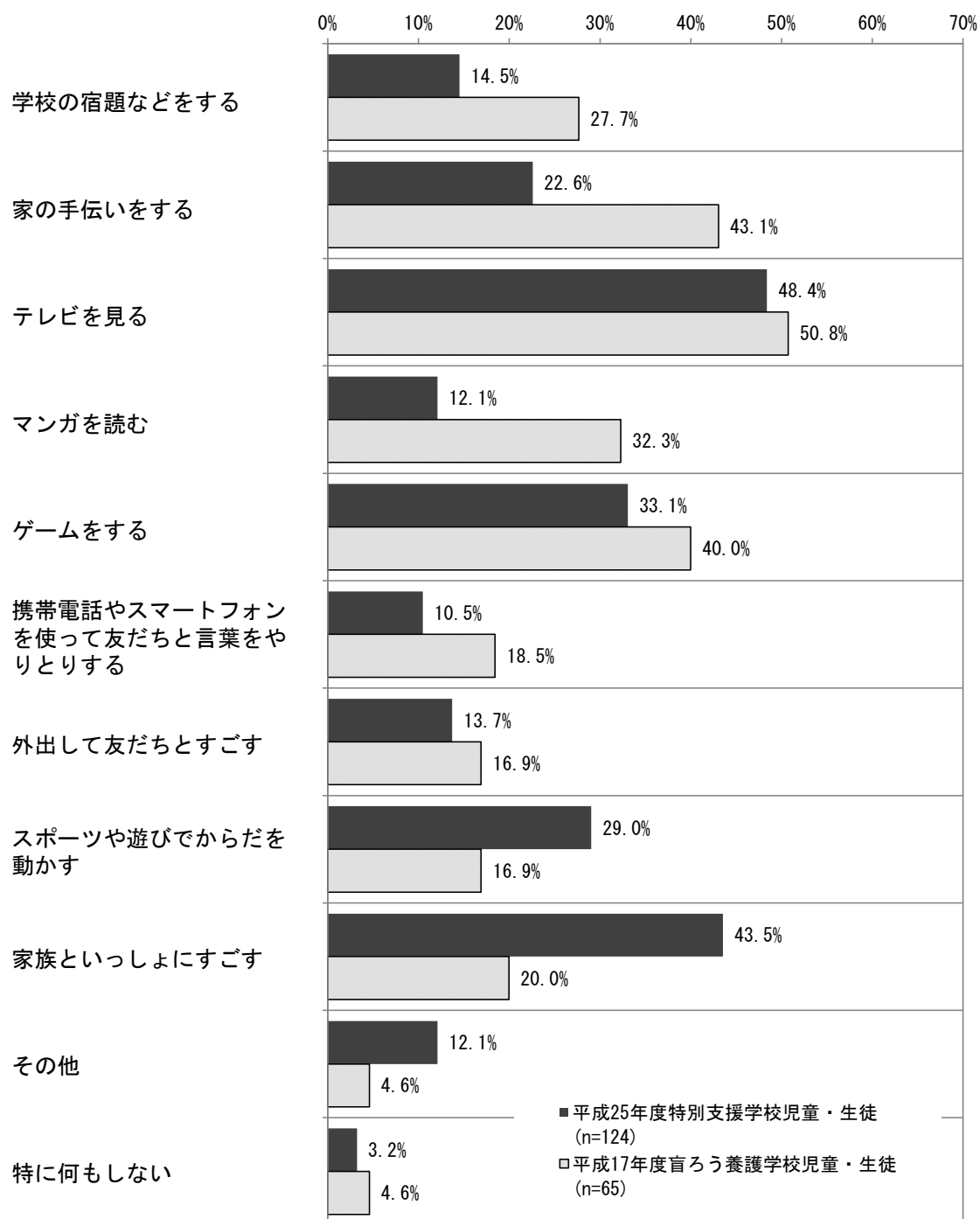


図 I-104 学校外での生活(特別支援学校児童・生徒)



※「携帯電話やスマートフォンを使って友だちと言葉のやり取りをする」
 ……平成17年度調査「携帯電話で友だちと連絡をとる」

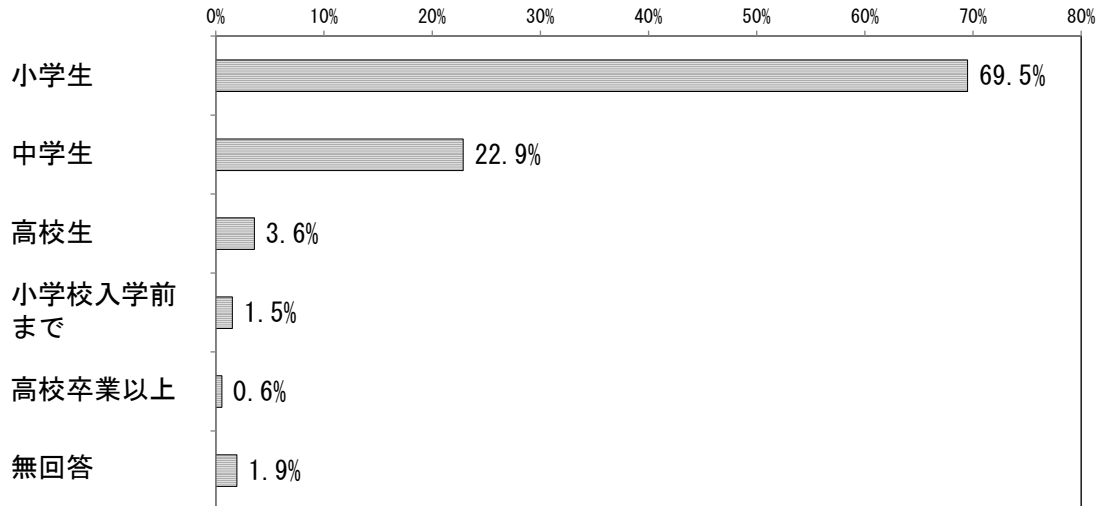
I-8 子どものイメージ

本調査を回答するにあたって、一般県民がイメージする「子ども」の学校段階を聞いたところ、「小学生」をイメージした回答が69.5%であった。

また、平成17年度調査では「小学生」と回答した割合は66.2%であった。

「子ども」という言葉からイメージする学校段階について一般県民に聞いたところ、「小学生」69.5%、「中学生」22.9%、「高校生」3.6%であった。(図I-105参照)

図 I-105 子どものイメージ(一般県民 n=1,233)



平成17年度調査との比較

平成17年度調査結果と比較すると、平成25年度調査では「小学生」(69.5%)、「中学生」(22.9%)、「高校生」(3.6%)であり、平成17年度調査では「小学生」(66.2%)、「中学生」(22.9%)、「高校生」(3.7%)であった。(図I-106参照)

図 I-106 子どものイメージ(一般県民)

